

第5回川崎市地域福祉実態調査（令和元年度調査）  
結果概要

麻生区版

---



## 目次

調査の概要 .....	- 1 -
■調査の目的 .....	- 1 -
■調査の設計 .....	- 1 -
■概要を利用するにあたって .....	- 1 -
1. 回答者の基本属性 .....	- 3 -
2. 『川崎市地域福祉計画』について .....	- 9 -
3. 近隣地域とその課題について .....	- 10 -
4. 地域活動やボランティア活動について .....	- 24 -
5. 保健・福祉に関することについて .....	- 29 -
6. 東日本大震災後の意識の変化について .....	- 32 -
7. 今後の地域福祉の推進について .....	- 36 -
8. 自由回答のまとめ .....	- 41 -
資料 アンケート調査票 .....	- 61 -



# 調査の概要

## ■ 調査の目的

本調査は、川崎市地域福祉計画に基づいて、市民の地域福祉に関する意識を多面的に調査することにより、地域における生活課題を明らかにし、『第6期川崎市地域福祉計画』の策定に必要な基礎資料を得ることを目的とする。

## ■ 調査の設計

### 【調査対象者】

市内在住の20歳以上の男女（外国人を含む）各区900人、全市6,300人

### 【調査時期】

令和元年11月28日～令和元年12月20日

### 【抽出方法】

住民基本台帳及び外国人登録から無作為抽出

### 【調査内容】

- ・ 基本属性
- ・ 『川崎市地域福祉計画』について
- ・ 居住地域について
- ・ 地域活動やボランティア活動について
- ・ 保健・福祉に関することについて
- ・ 東日本大震災後の意識の変化について
- ・ 今後の地域福祉の推進について

## ■ 概要を利用するにあたって

- (1) 図中のnとは、基数となる実数のことである。
- (2) 回答はnを100%として百分率で算出してある。小数点以下第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が全体を示す数値と一致しないことがある。
- (3) 複数回答ができる質問では、回答比率の合計が100%を超える。

### 【回収率】

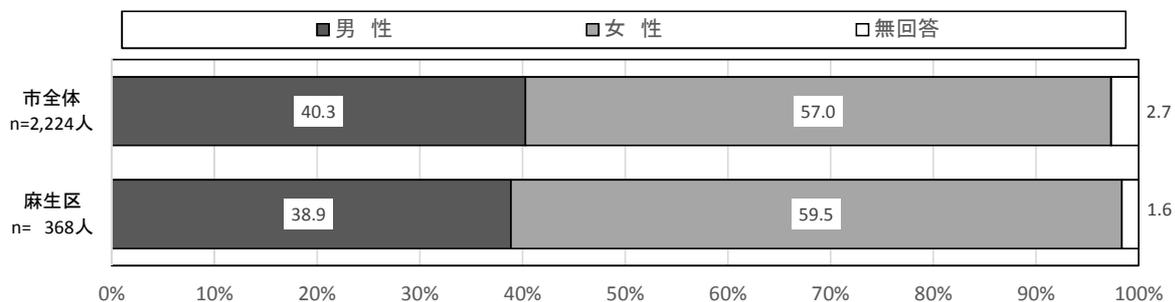
区名	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	不明	全市
配布数（人）	900	900	900	900	900	900	900	-	6,300
有効回収数（人）	278	305	315	293	323	315	368	27	2,224
有効回収率	30.9%	33.9%	35.0%	32.6%	35.9%	35.0%	40.9%	-	35.3%
（参考） 第4回回収率	34.1%	40.4%	36.4%	35.4%	41.8%	34.1%	43.5%	-	37.9%



# 1. 回答者の基本属性

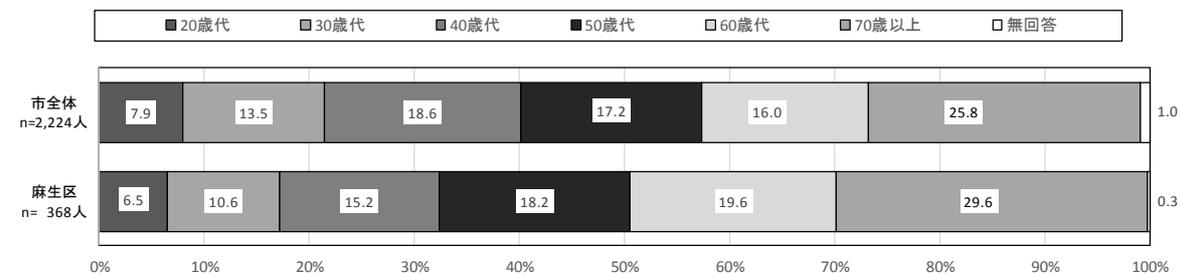
## 問1 性別を教えてください。(1つに○)

麻生区では、男性が38.9%、女性が59.5%となっている。



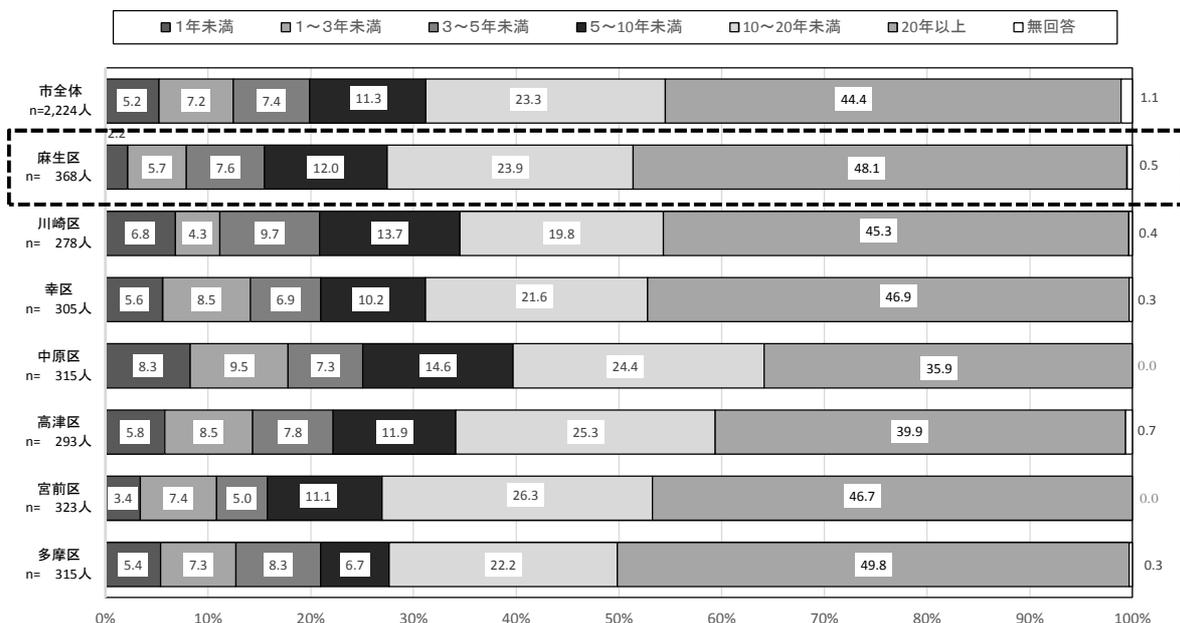
## 問2 現在の年齢は満何歳ですか。(1つに○)

麻生区では、70歳以上が29.6%で最も高く、次いで60歳代(19.6%)、50歳代(18.2%)となっている。



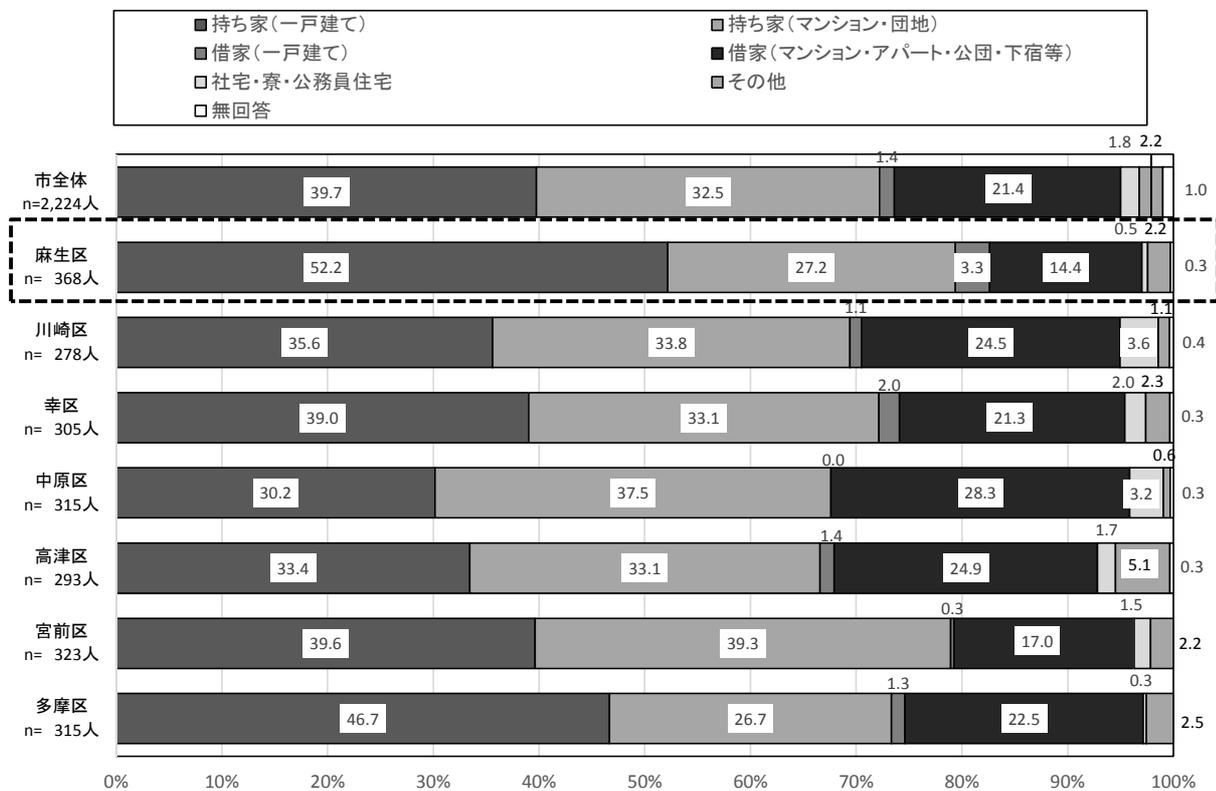
## 問5 現在お住まいの区には何年住んでいますか。(1つに○)

麻生区では、20年以上が48.1%で最も高く、次いで10~20年未満(23.9%)、5~10年未満(12.0%)となっている。市内6区と比較すると、10年以上の割合(10~20年未満と20年以上を合わせた割合)が72.0%で、多摩区(72.0%)とともに宮前区(73.0%)に次いで高くなっている。

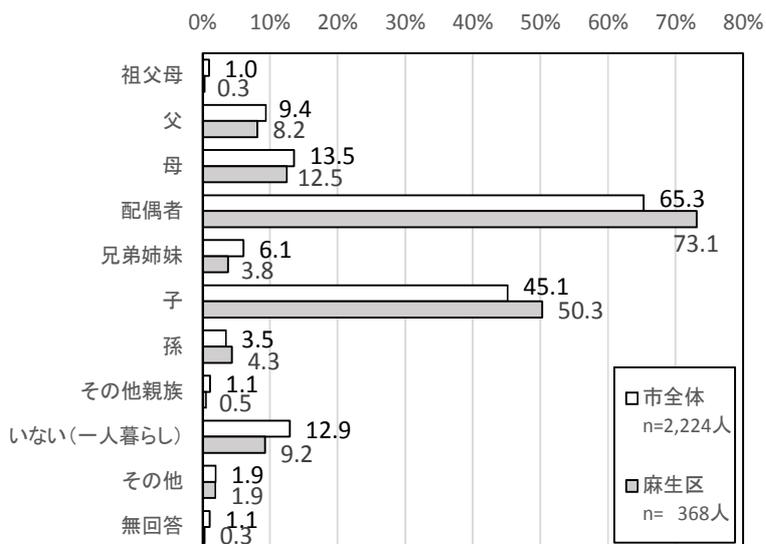


問6 現在お住まいの形態を教えてください。(1つに○)

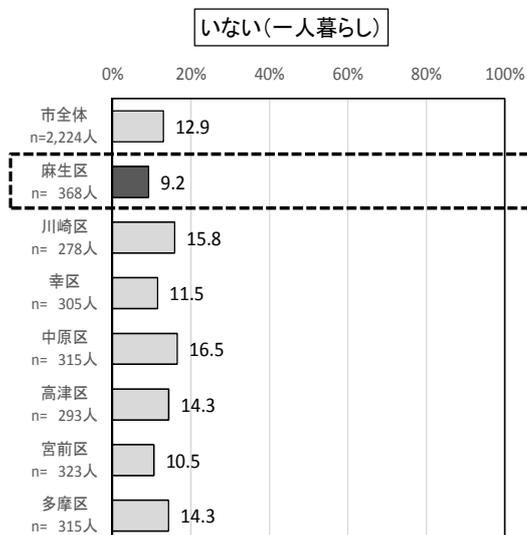
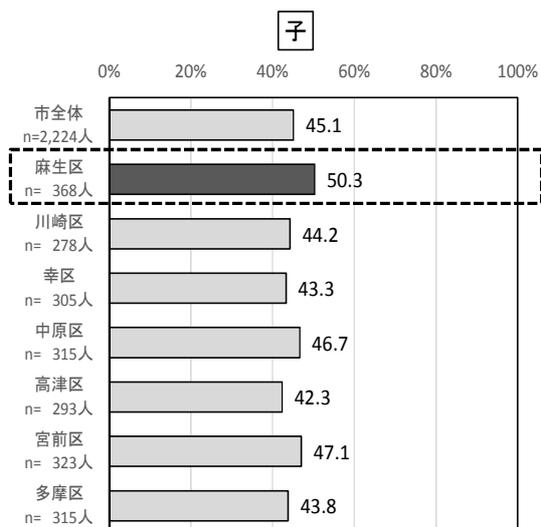
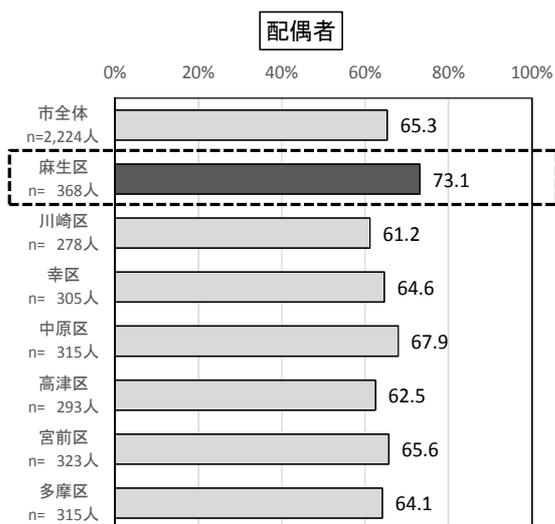
麻生区では、持ち家（一戸建て）の割合が52.2%で、市全体（39.7%）を12.5ポイント上回っている。市内6区と比較すると、持ち家（一戸建て）と持ち家（マンション・団地）を合わせた持ち家の割合が79.4%で最も高く、特に持ち家（一戸建て）は、2番目に割合の高い多摩区（46.7%）を5.5ポイント上回っている。



問7 一緒に暮らしているご家族はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

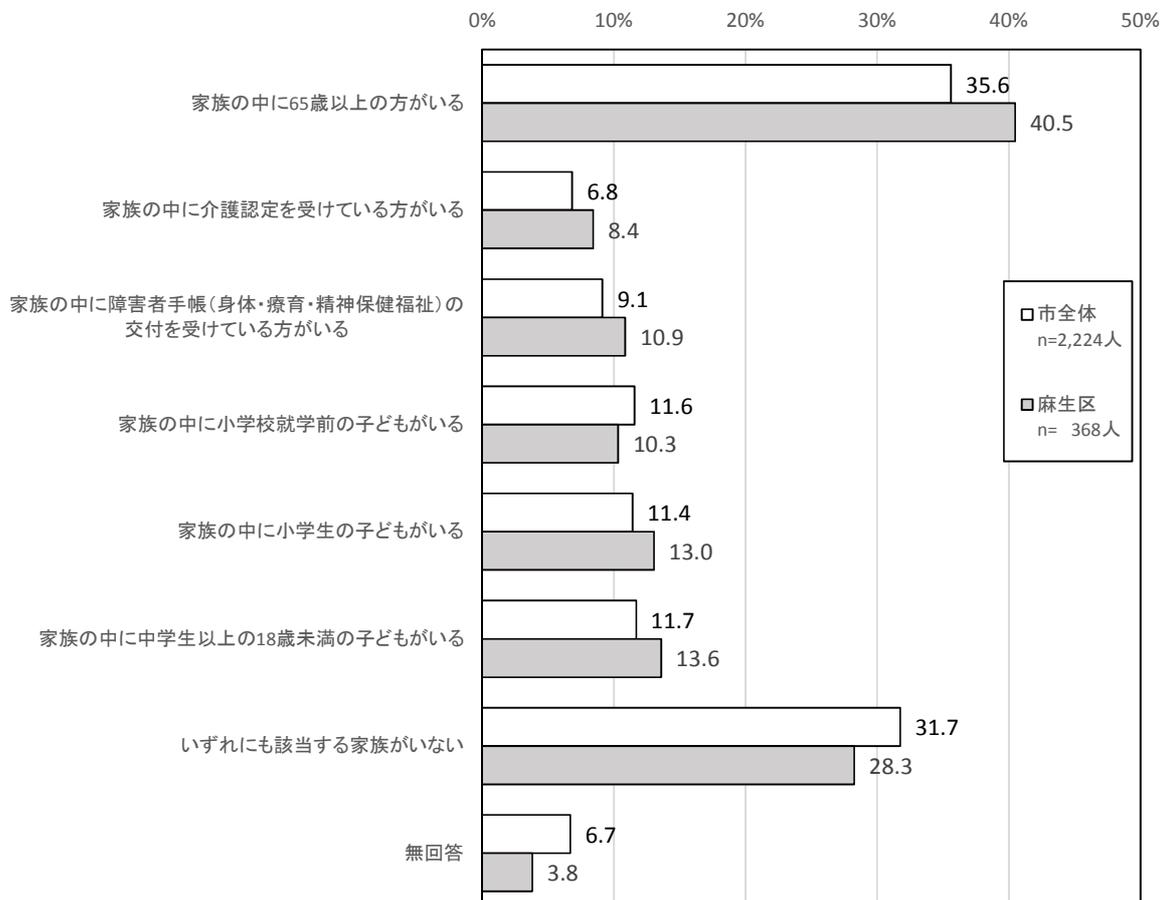


【参考】

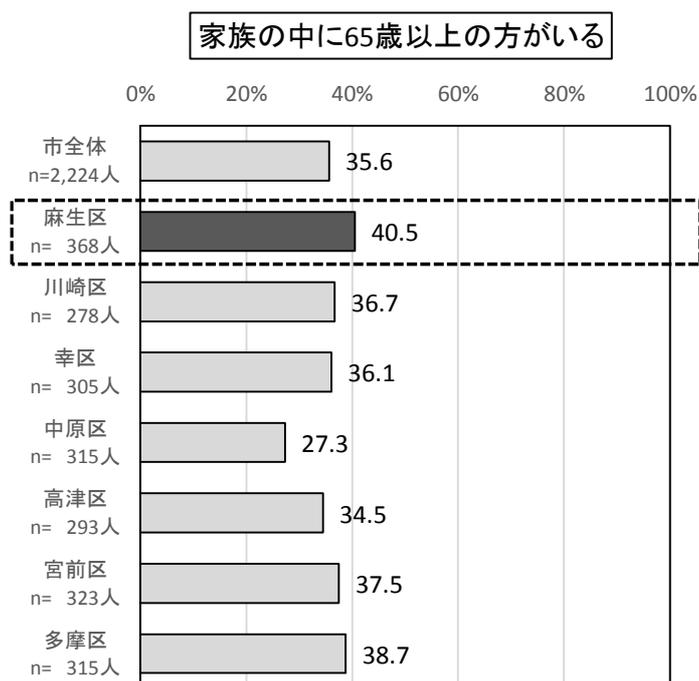


問8 一緒に暮らしているご家族（あなたを含む）のうち、以下の項目に該当する方はいらっしゃいますか。（あてはまるものすべてに○）

麻生区では、「家族の中に65歳以上の方がいる」が40.5%で市全体（35.6%）を上回っている。市内6区と比較すると、「家族の中に65歳以上の方がいる」割合は40.5%で最も高くなっている。



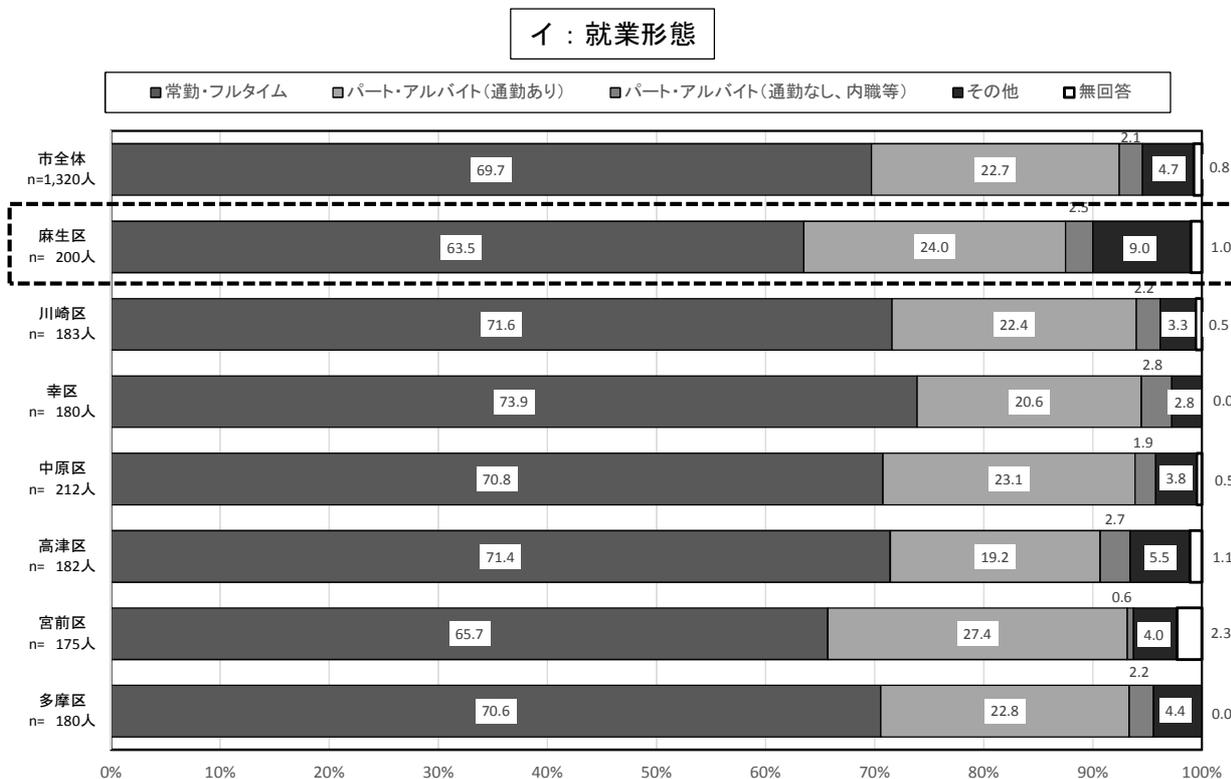
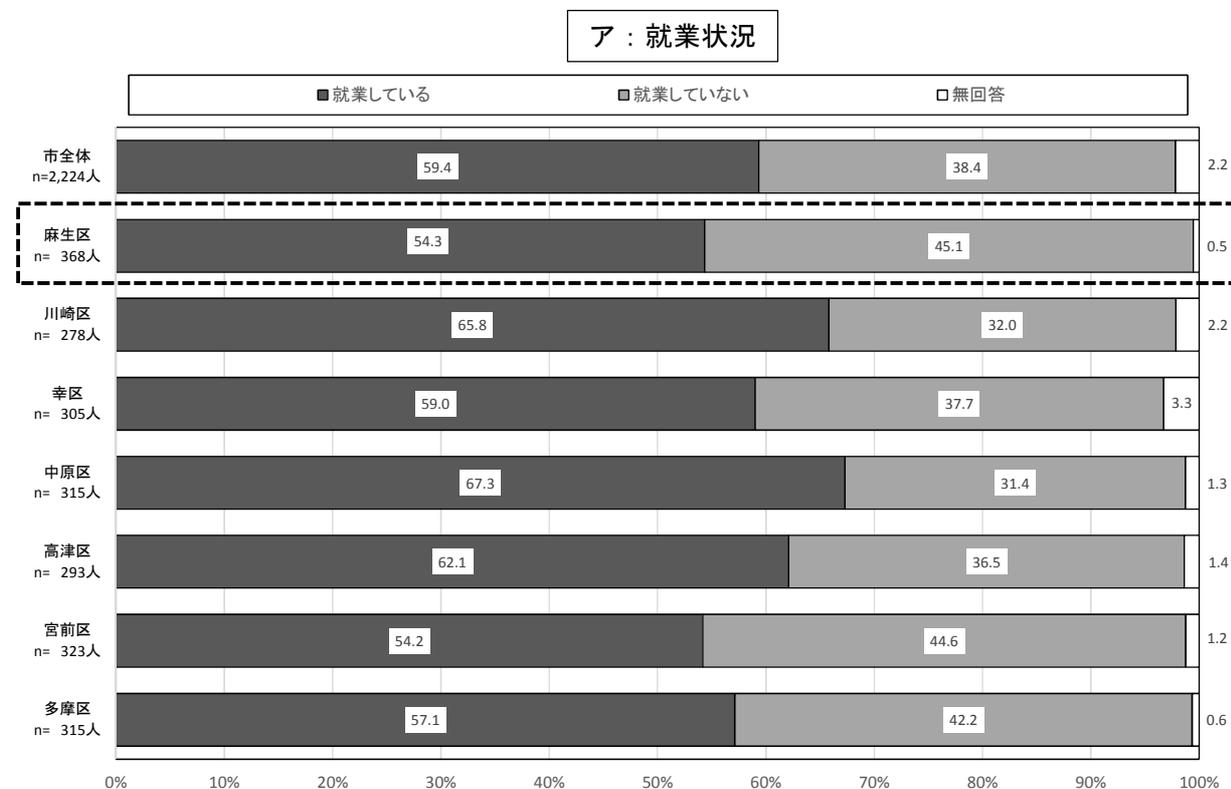
【参考】



問9 就業の状況はどれに該当しますか。(1つに○)

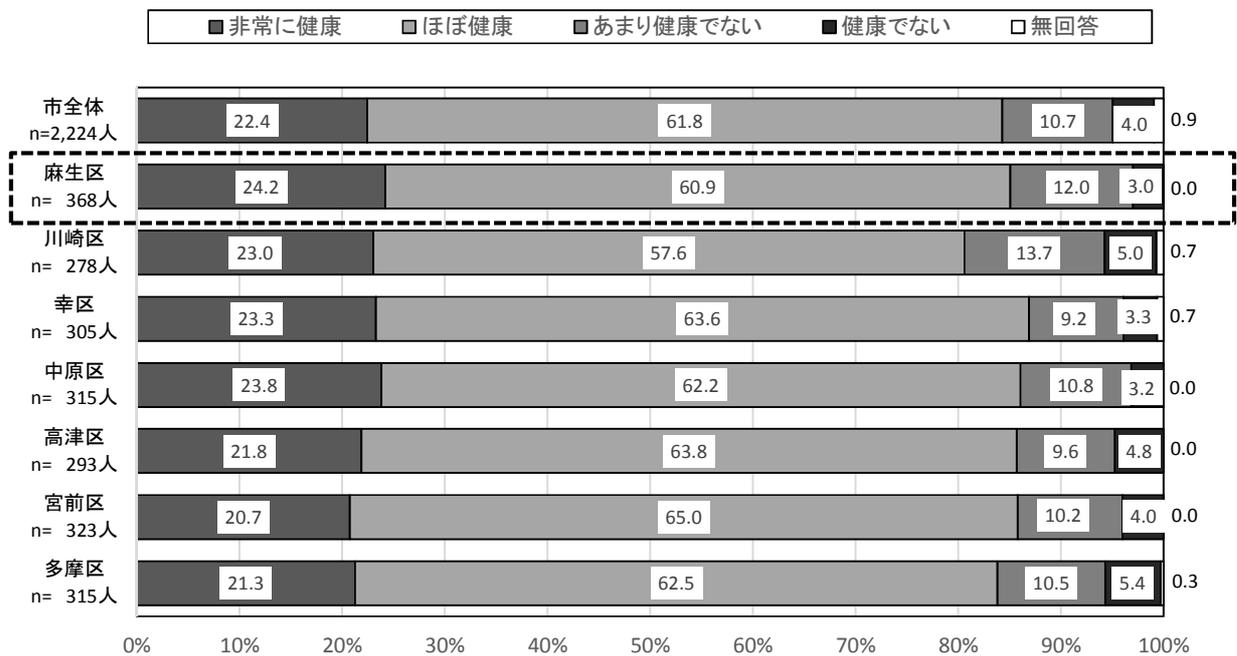
麻生区では、就業している割合が54.3%で市全体(59.4%)を下回っている。  
市内6区と比較すると、就業している割合は宮前区に次いで低くなっている。

就業形態については、常勤・フルタイムが63.5%で市全体(69.7%)を下回っている。市内6区と比較すると、常勤・フルタイムの割合は63.5%で最も低くなっている。



問 10 あなたの健康状態はいかがですか。(1つに○)

麻生区では、「ほぼ健康」の割合が60.9%で市全体(61.8%)を下回っている。市内6区と比較すると、「非常に健康」の割合が24.2%で最も高くなっている。

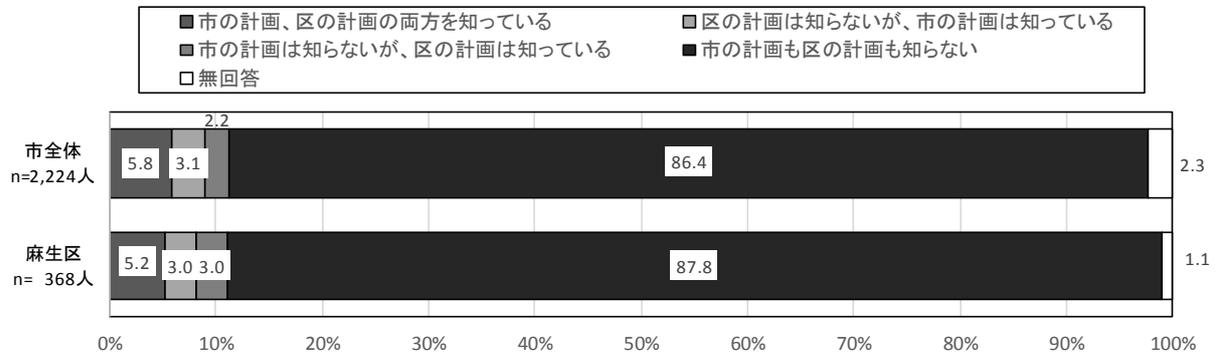


## 2. 『川崎市地域福祉計画』について

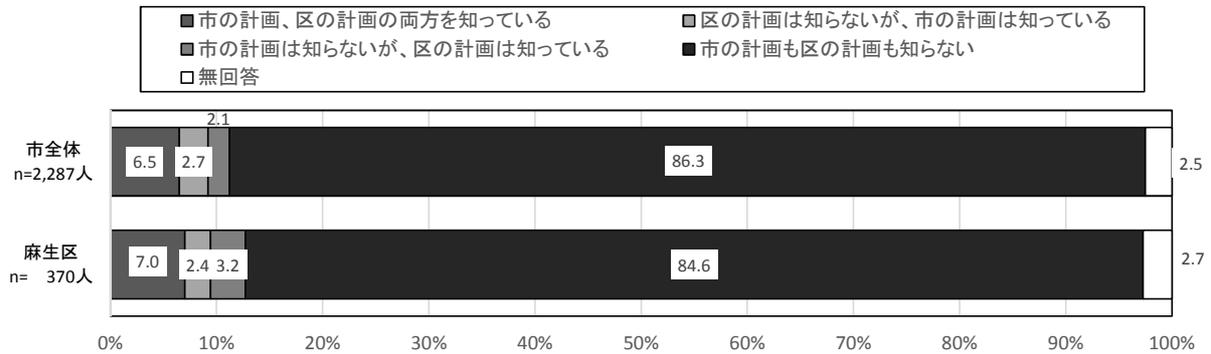
問 12 あなたは、川崎市に『第5期川崎市地域福祉計画』及び『区地域福祉計画』があることをご存じですか。（1つに○）

麻生区では、「市の計画も区の計画も知らない」割合が87.8%となっている。

第4回調査と比較すると、「市の計画も区の計画も知らない」割合が3.2ポイント増加している。



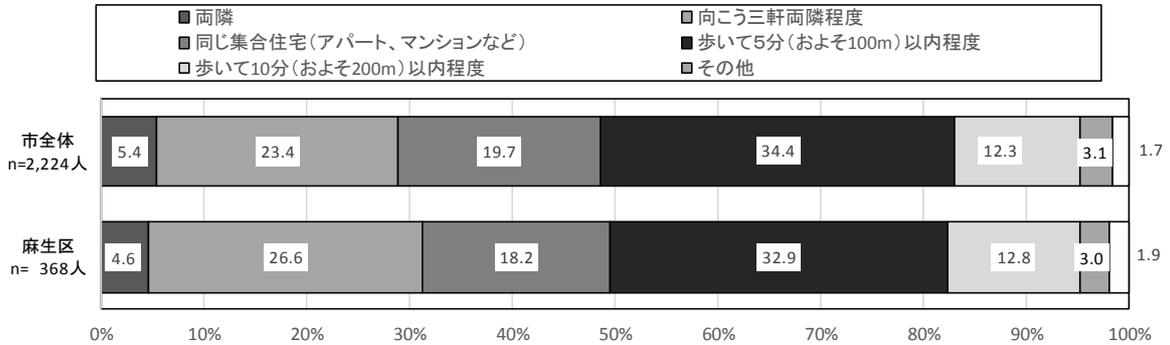
### 【参考】第4回調査結果



### 3. 近隣地域とその課題について

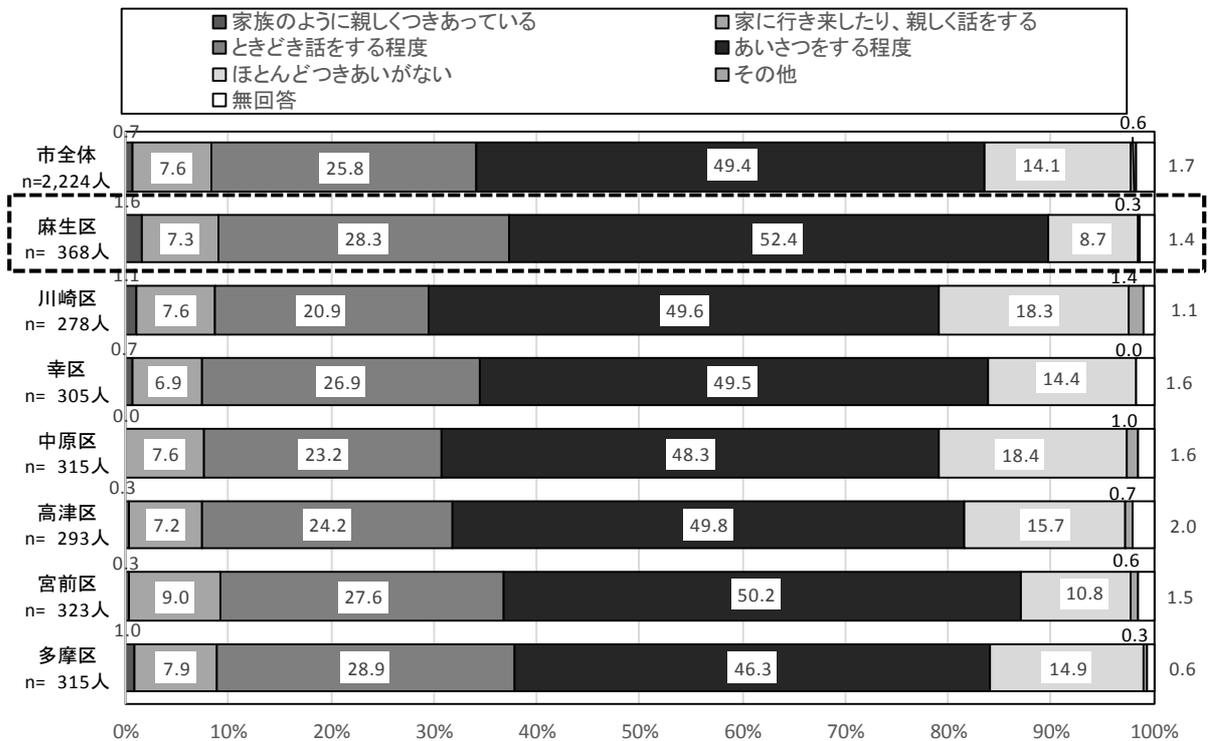
問13 あなたは、「近所」の範囲を、どの程度だとお考えですか。(1つに○)

麻生区では、「向こう三軒両隣程度」の割合が26.6%で市全体(23.4%)を上回っている。



問14 あなたは、ふだんご近所の方との程度のつきあいをしていますか。(1つに○)

麻生区では、「ときどき話をする程度」の割合が28.3%で市全体(25.8%)を上回っている。市内6区と比較すると、「家族のように親しくつきあっている」「家に行き来したり、親しく話をする」「ときどき話をする程度」を合わせた割合は37.2%で、多摩区(37.8%)に次いで高くなっている。

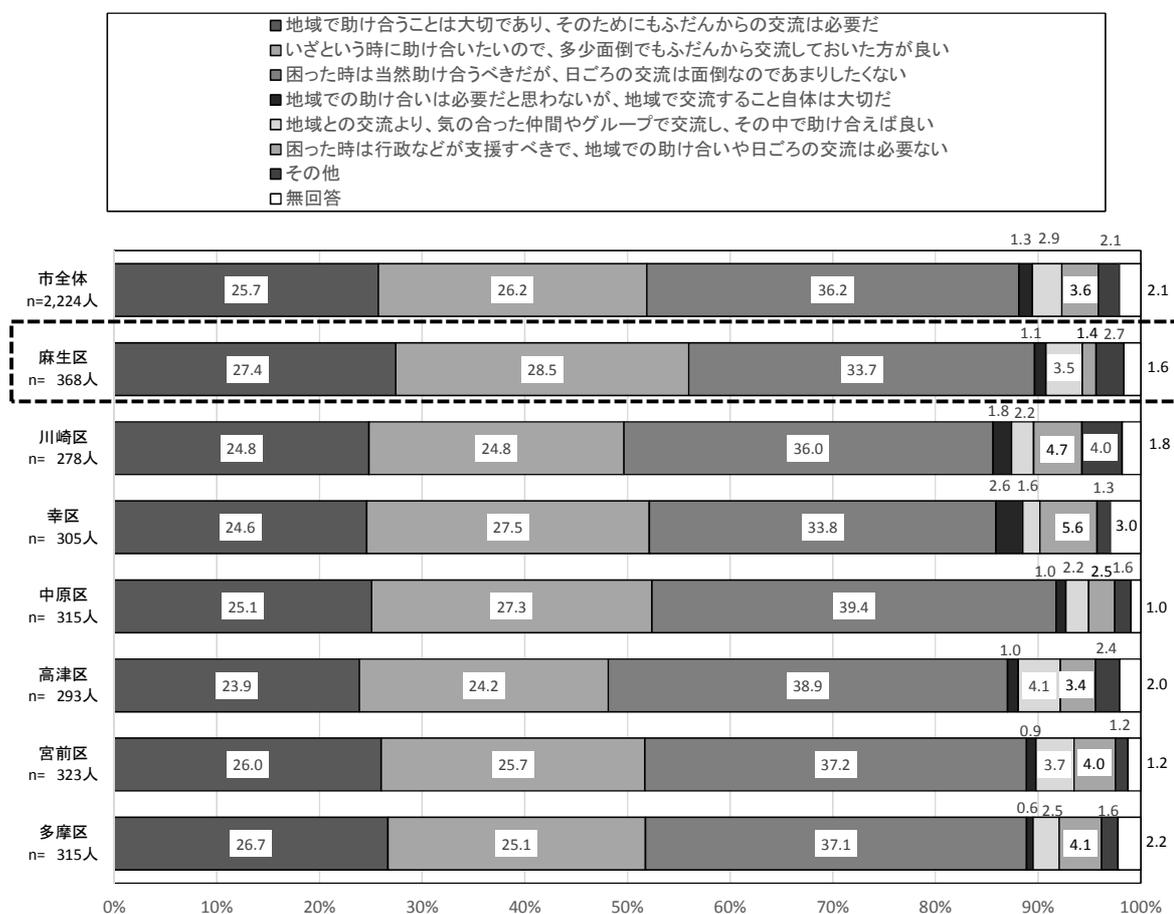


問 15 あなたは、近所づきあいや地域住民同士の交流について、どの程度必要だとお考えですか。

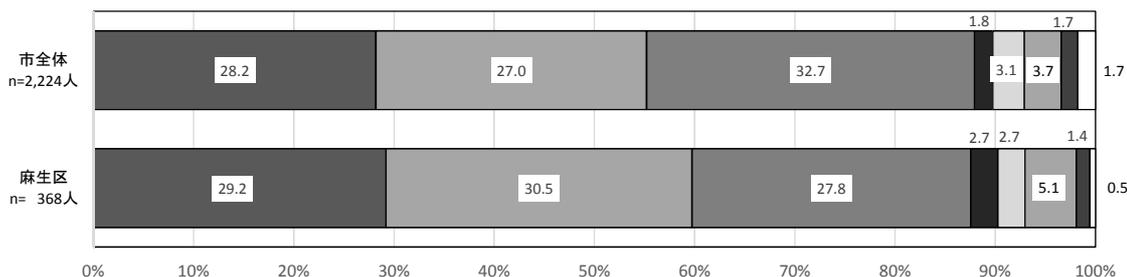
(1つに○)

麻生区では、「いざという時に助け合いたいので、多少面倒でもふだんから交流しておいた方が良い」の割合が28.5%で市全体(26.2%)を上回っている。市内6区と比較すると、「いざという時に助け合いたいので、多少面倒でもふだんから交流しておいた方が良い」の割合は最も高く、「地域で助け合うことは大切であり、そのためにもふだんからの交流は必要だ」、「いざという時に助け合いたいので、多少面倒でもふだんから交流しておいた方が良い」を合わせた割合は55.9%で最も高い。また、「困った時は当然助け合うべきだが、日ごろの交流は面倒なのであまりしたくない」の割合は33.7%で最も低い。

第4回調査と比較すると、「地域で助け合うことは大切であり、そのためにもふだんからの交流は必要だ」、「いざという時に助け合いたいので、多少面倒でもふだんから交流しておいた方が良い」を合わせた割合が3.8ポイント減少している。また、「困った時は当然助け合うべきだが、日ごろの交流は面倒なのであまりしたくない」の割合が5.9ポイント増加している。

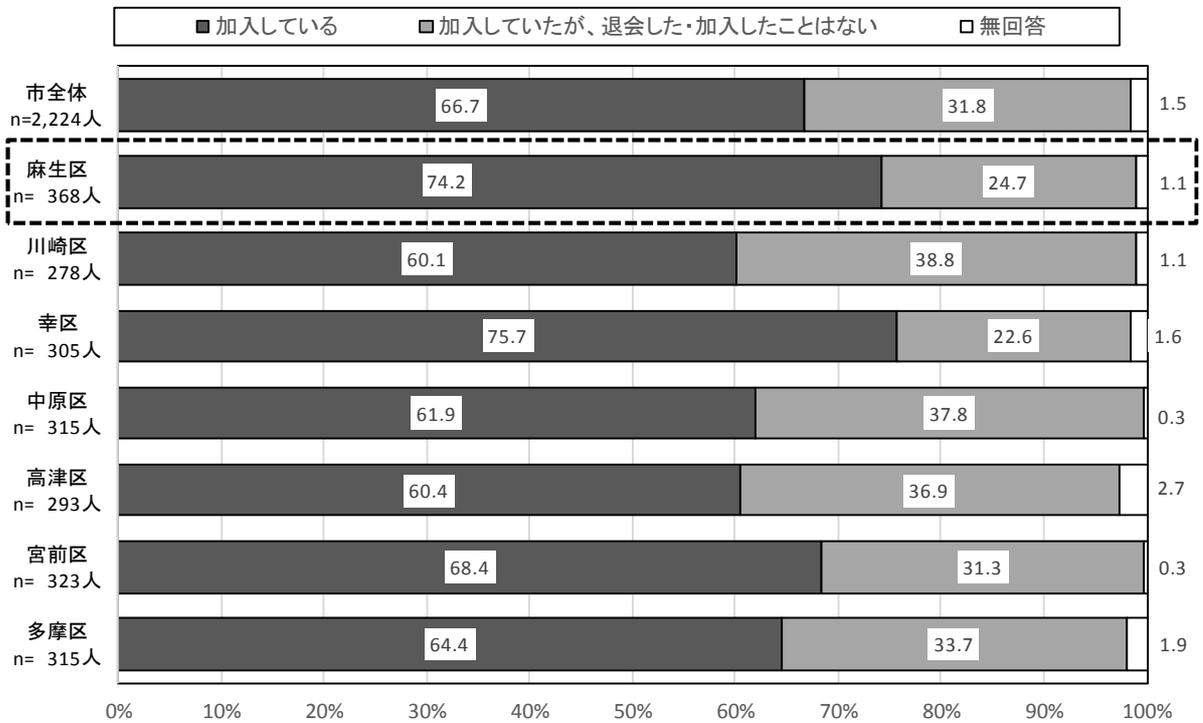


【参考】第4回調査結果



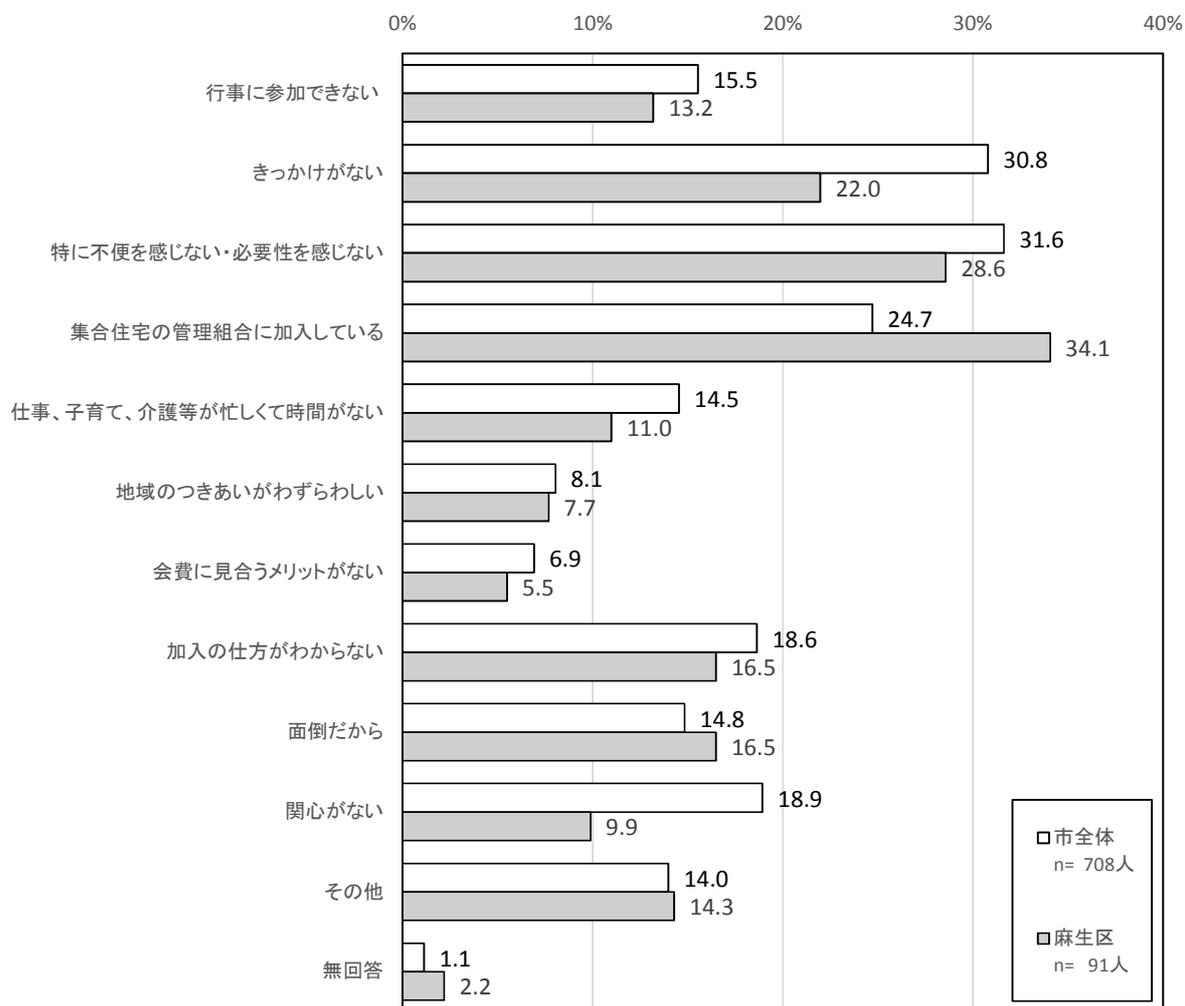
問 16 現在、町内会・自治会に加入していますか。(1つに○)

麻生区では、「加入している」割合が74.2%で市全体(66.7%)を上回っている。市内6区と比較すると、「加入している」割合は幸区(75.7%)に次いで高くなっている。



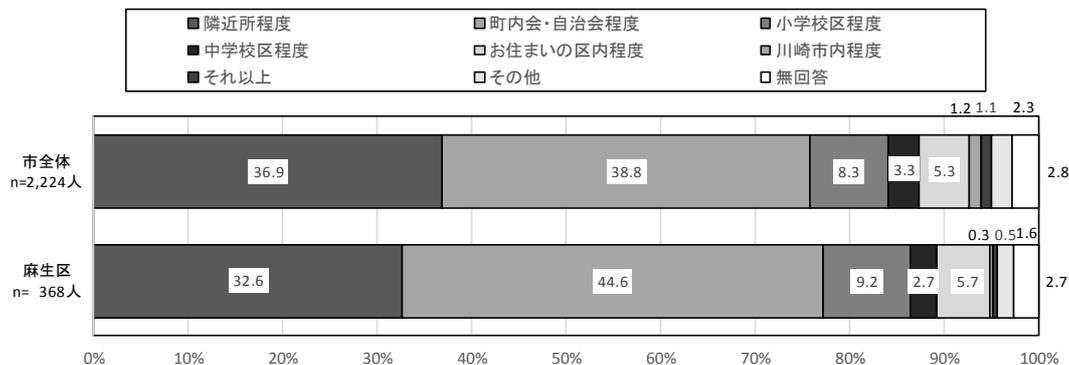
問 16 - 1 《問 16 で「加入していたが、退会した・加入したことはない」とお答えの方》現在加入していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

麻生区では、「集合住宅の管理組合に加入している」の割合が 34.1%で市全体（24.7%）を上回っている。



問 17 あなたは、助けあいをすることができる「地域」の範囲を、どの程度だとお考えですか。（1つに○）

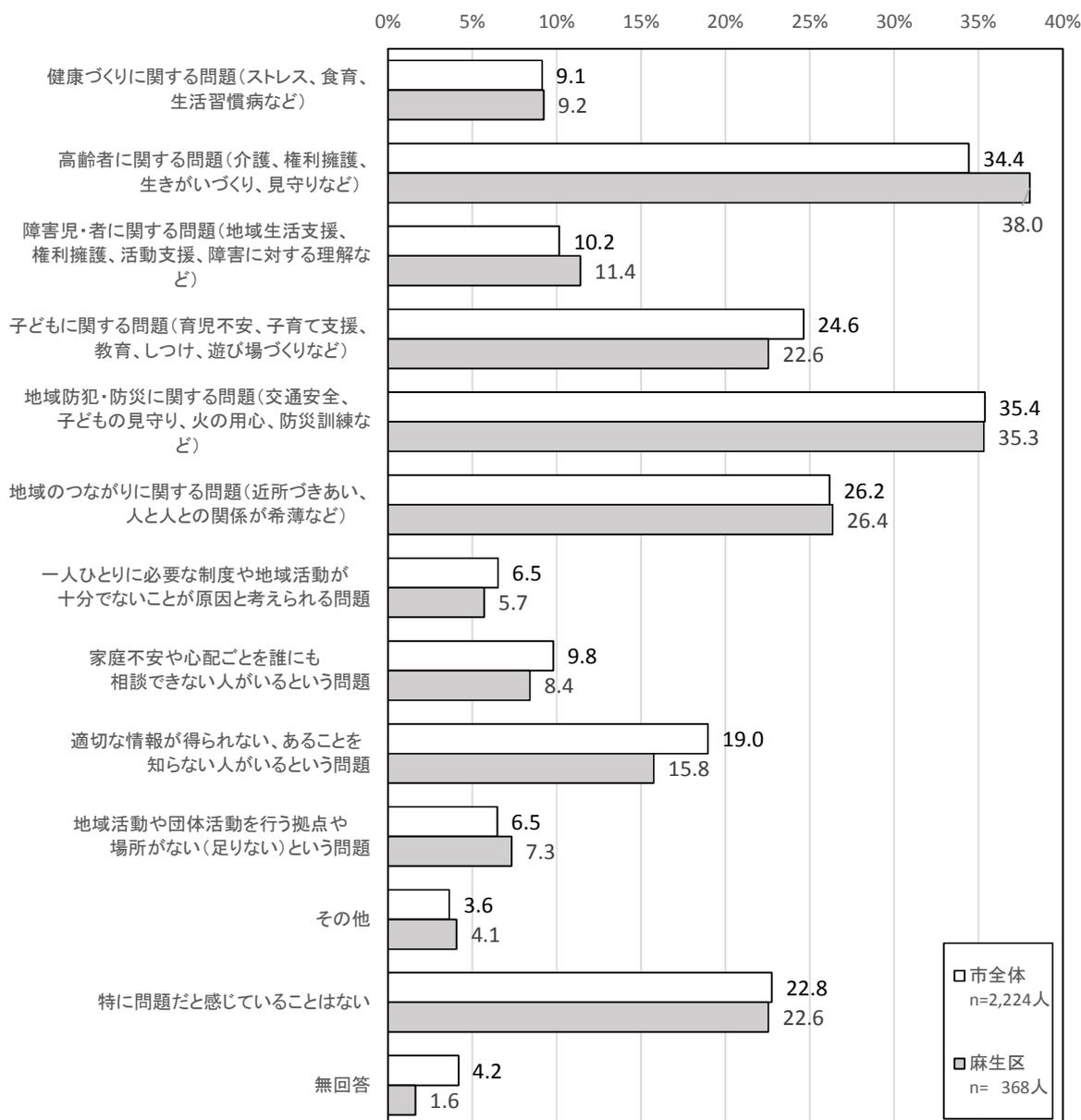
麻生区では、「町内会・自治会程度」の割合が 44.6%で市全体（38.8%）を上回っている。



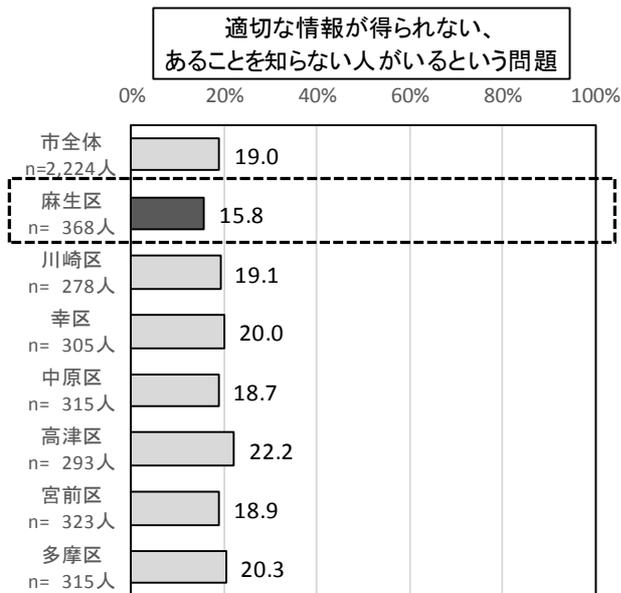
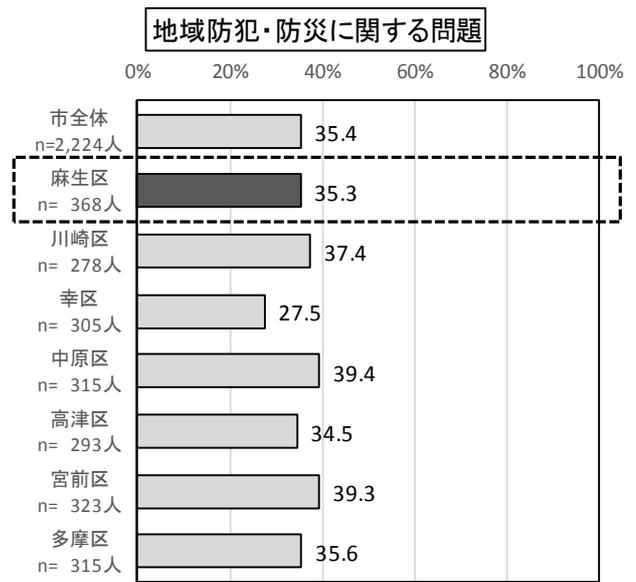
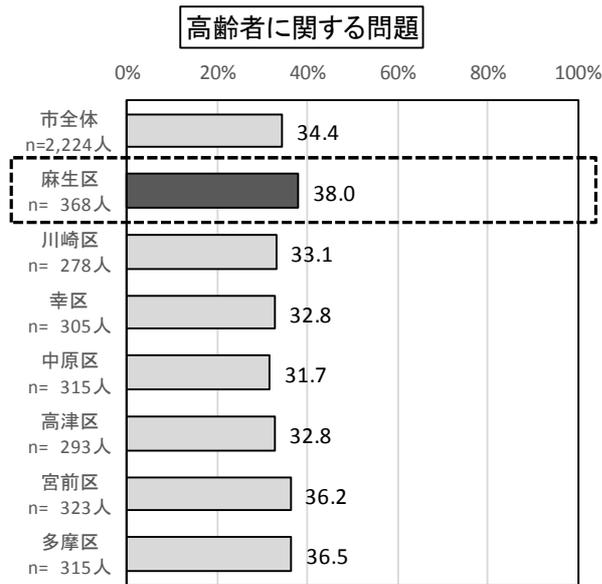
問18 あなたは、その「地域」において、いま何が問題だと感じていますか。（あてはまるものすべてに○）

麻生区では、「高齢者に関する問題（介護、権利擁護、生きがいづくり、見守りなど）」の割合が38.0%で最も高く、次いで「地域防犯・防災に関する問題（交通安全、子どもの見守り、火の用心、防災訓練など）」（35.3%）、「地域のつながりに関する問題（近所づきあい、人と人との関係が希薄など）」（26.4%）となっている。

市内6区と比較すると、「高齢者に関する問題（介護、権利擁護、生きがいづくり、見守りなど）」（38.0%）が最も高く、「地域防災・防犯に関する問題（交通安全、子どもの見守り、火の用心、防災訓練など）」（35.3%）が3番目に低い。「一方、「適切な情報が得られない、あることを知らない人がいるという問題」（15.8%）が最も低い。

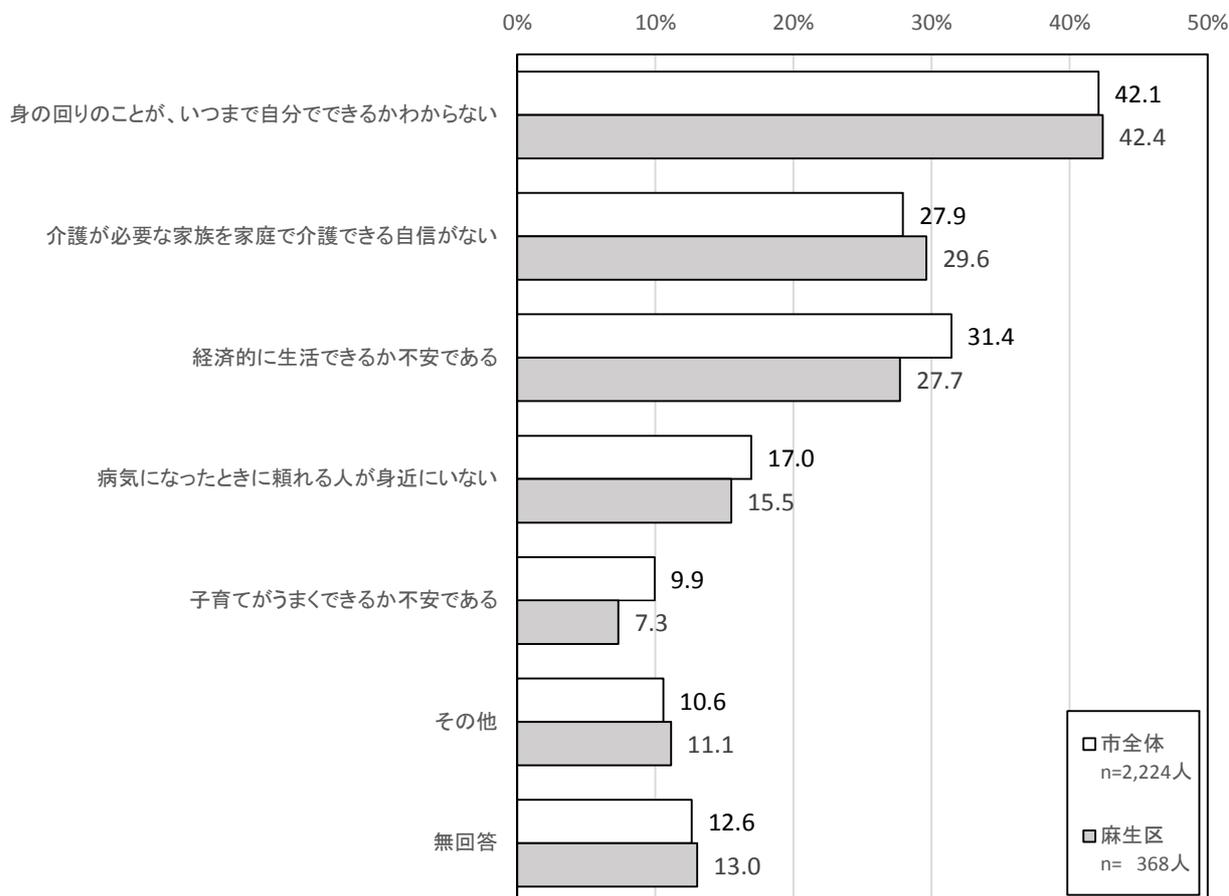


【参考】



問 19 あなたは、家庭生活の中で次のような不安を感じたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

麻生区では、「身の回りのことが、いつまで自分でできるかわからない」の割合が42.4%で最も高く、次いで「介護が必要な家族を家庭で介護できる自信がない」（29.6%）、「経済的に生活できるか不安である」（27.7%）となっている。

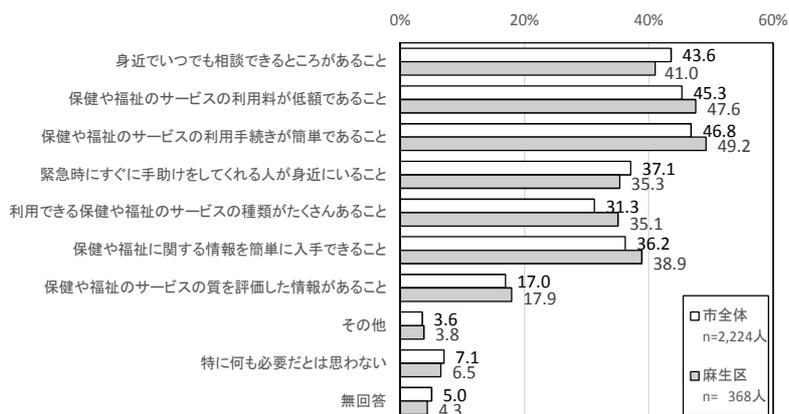


問20 あなたはの心配ごとを解決するために必要だと思われることは何ですか。

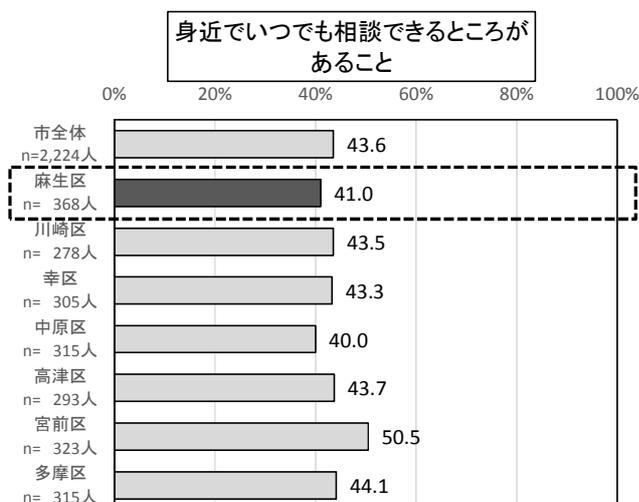
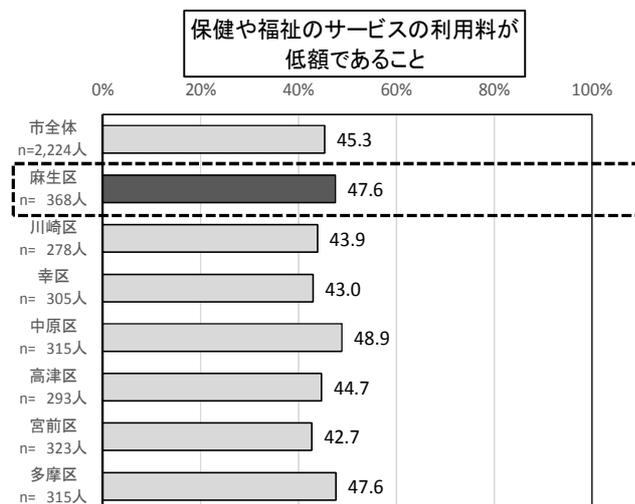
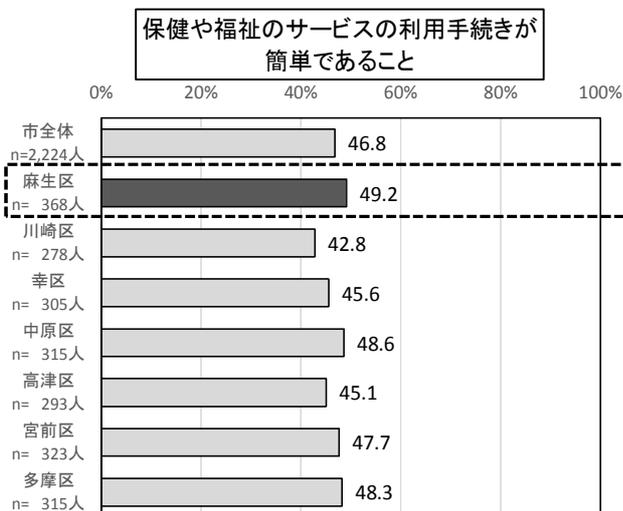
(あてはまるものすべてに○)

麻生区は、「保健や福祉のサービスの利用手続きが簡単であること」が49.2%で、市全体(46.8%)を上回っている。

市内6区と比較すると、「保健や福祉のサービスの利用手続きが簡単であること」は49.2%と最も高く、「保健や福祉のサービスの利用料が低額であること」は47.6%と2番目に高くなっている。また、「身近でいつでも相談できるところがあること」は41.0%で2番目に低くなっている。

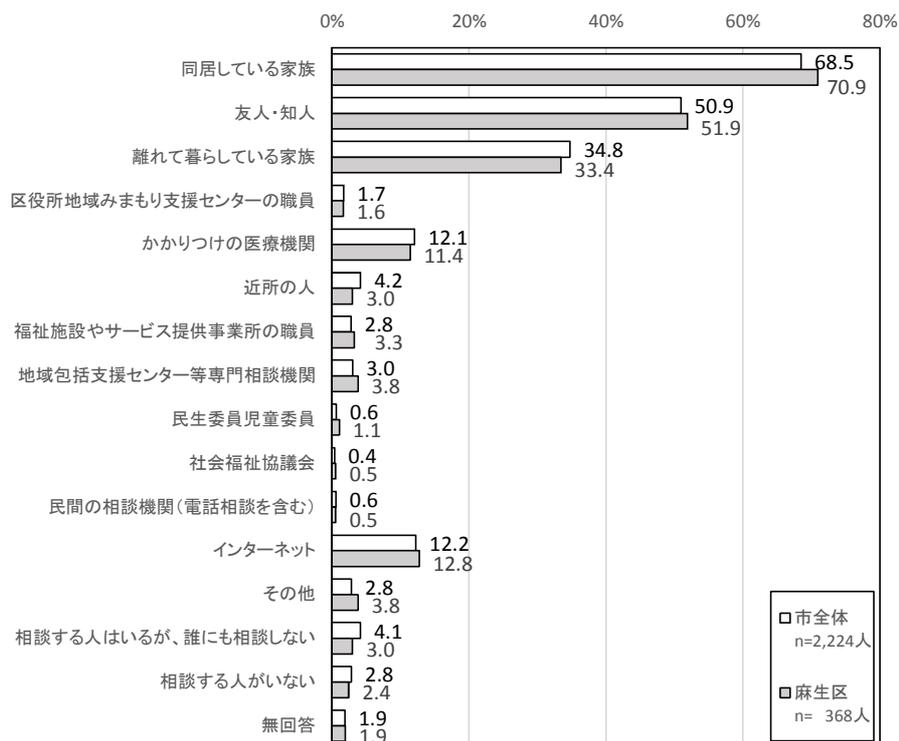


【参考】

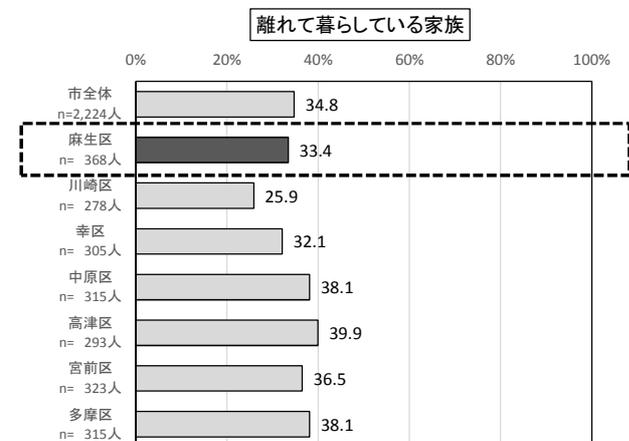
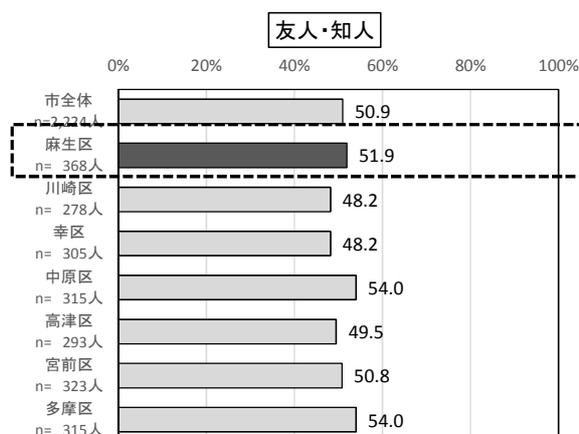
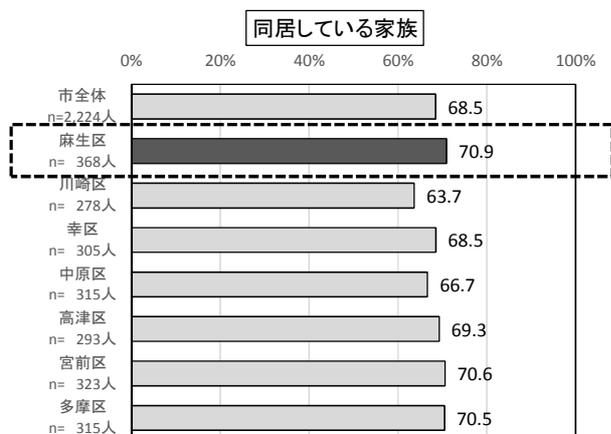


問 21 あなたは、日常生活で心配ごとや悩みごとがあるとき、誰に相談していますか。  
 (あてはまるものすべてに○)

麻生区では、「同居している家族」が70.9%で市全体(68.5%)より高くなっている。  
 市内6区と比較すると、「同居している家族」が70.9%と最も高く、「友人・知人」が51.9%と3番目に高く、「離れて暮らしている家族」が33.4%で3番目に低くなっている。



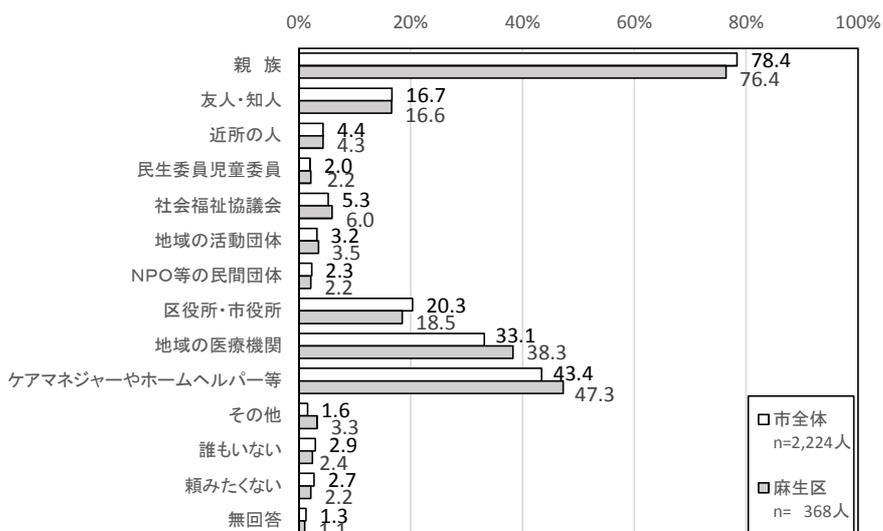
【参考】



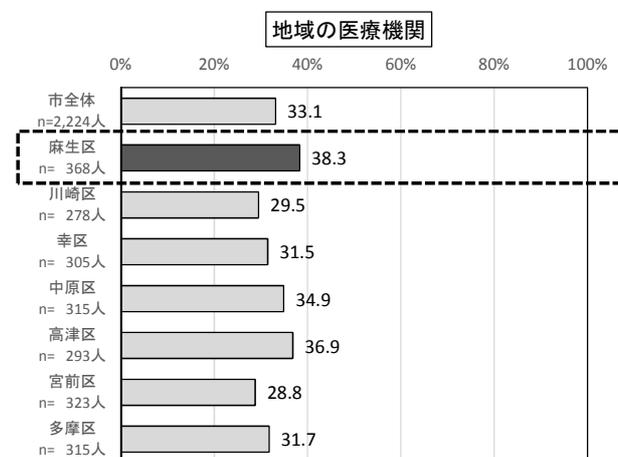
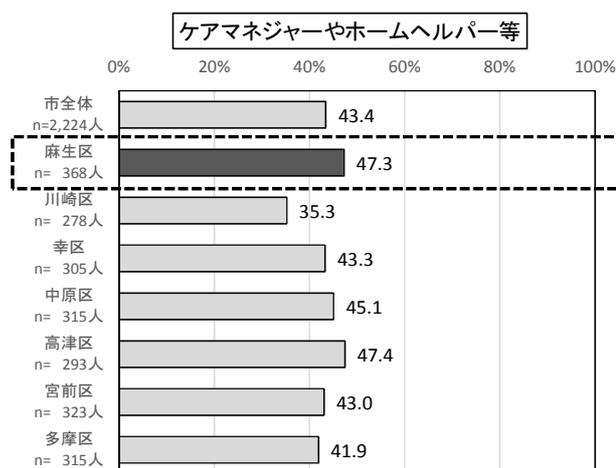
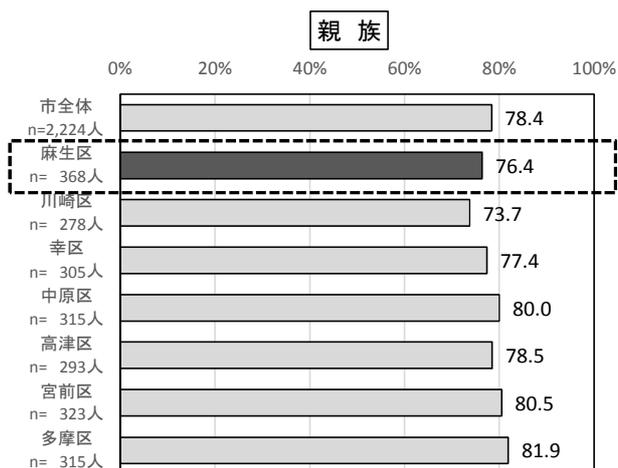
問 23 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になり、助けを必要とするとき、誰に助けを頼みたいですか。（3つまでに○）

麻生区では、「親族」は76.4%で市全体（78.4%）を下回っている。

市内6区と比較すると、「親族」は76.4%と2番目に低く、「ケアマネジャーやホームヘルパー等」は47.3%と2番目に高く、「地域の医療機関」は38.3%と最も高くなっている。



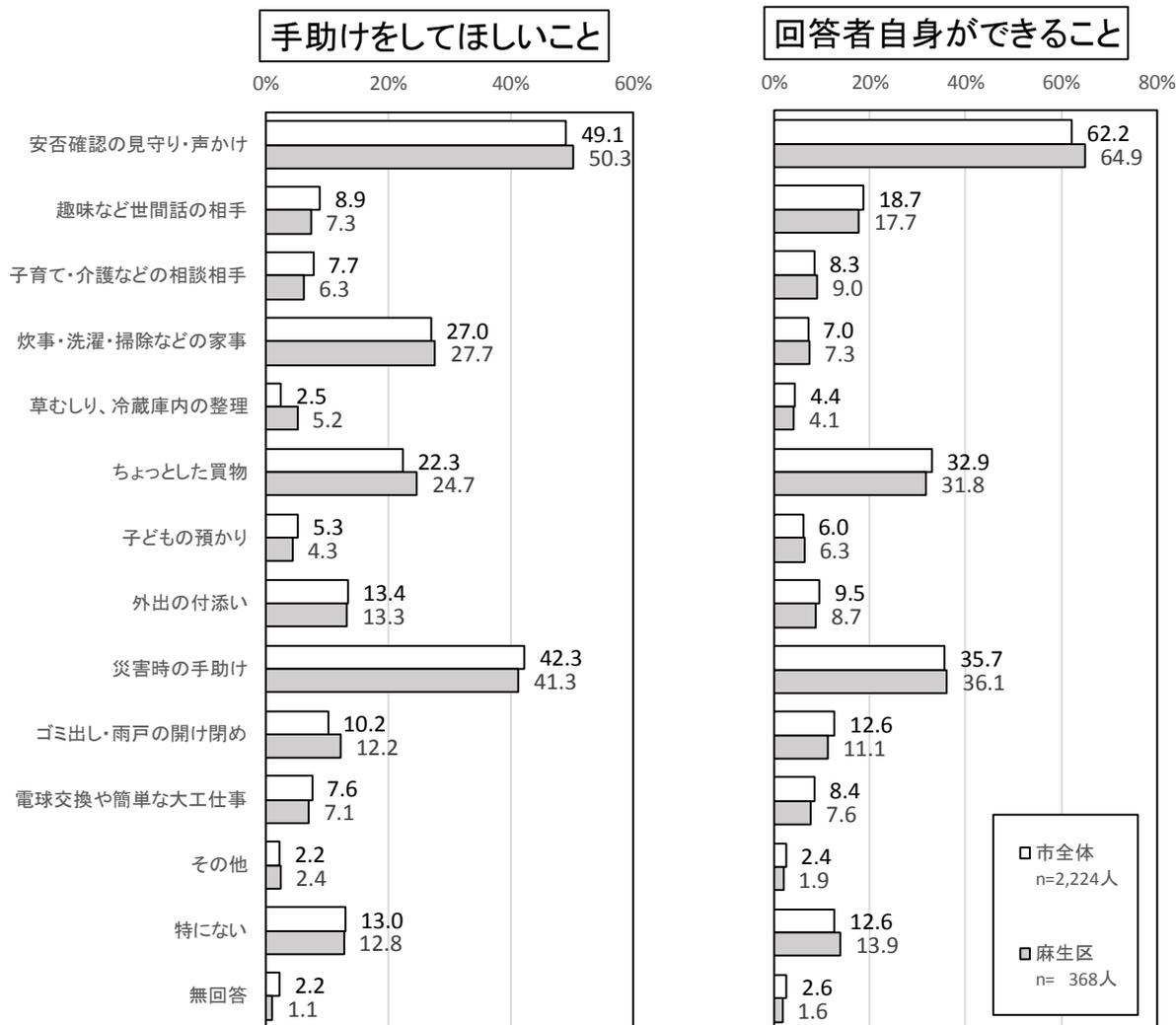
【参考】



問 24 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になったとき、地域の人たちにごんな手助けをしてほしいですか。（3つまでに○）

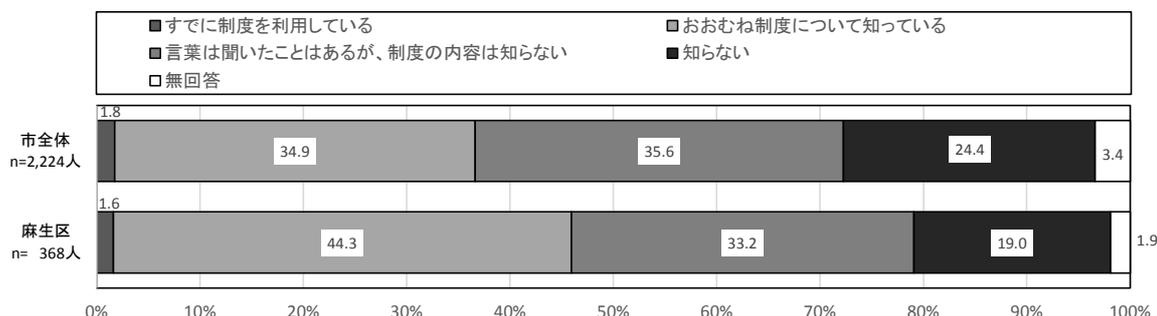
問 25 地域の高齢者や障害者、子育て家庭などが安心して暮らすことができるよう、地域の支え合いとして、あなたご自身ができることは何ですか。（3つまでに○）

麻生区では、手助けをしてほしいことについては「安否確認の見守り・声かけ」の割合が50.3%で最も高く、次いで「災害時の手助け」（41.3%）、「炊事・洗濯・掃除などの家事」（27.7%）となっており、自身ができることについては「安否確認の見守り・声かけ」の割合が64.9%で最も高く、次いで「災害時の手助け」（36.1%）、「ちょっとした買物」（31.8%）となっている。



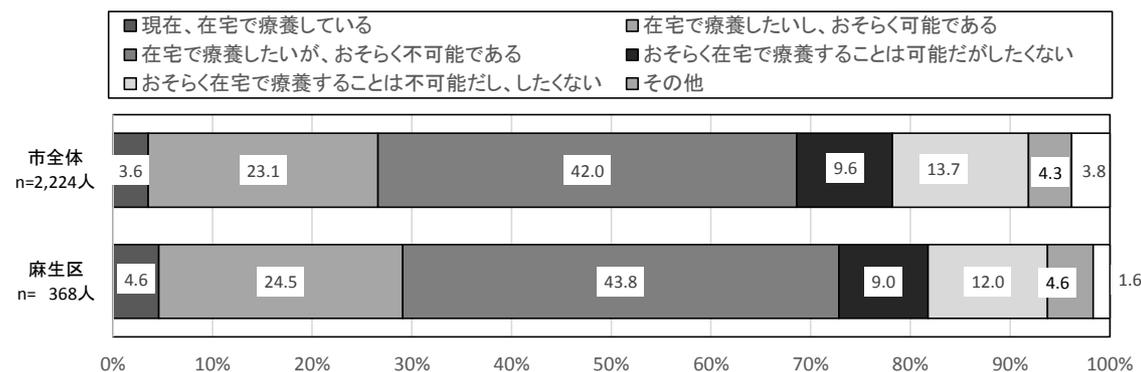
問 26 あなたは、成年後見制度を知っていますか。（1つに○）（新規設問）

麻生区では、「おおむね制度について知っている」の割合が44.3%で最も高く、次いで「言葉は聞いたことはあるが、制度の内容は知らない」（33.2%）、「知らない」（19.0%）となっている。



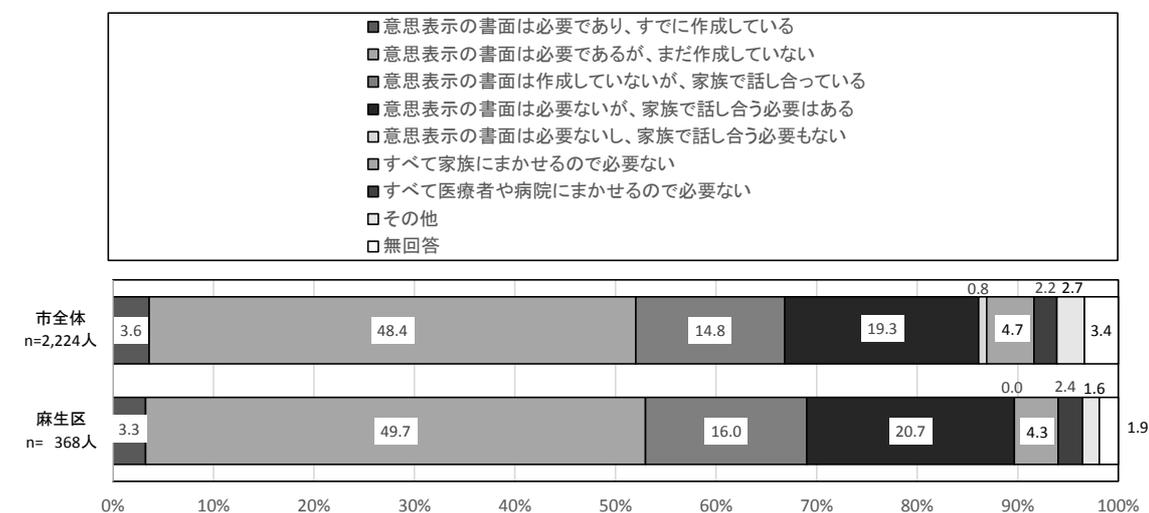
問 27 現在のあなたの生活状況・環境で、あなたやご家族が病気、けが、障害により、長期の医療や介護が必要となった場合に、病院には入院せず在宅で療養することは可能ですか。（1つに○）（新規設問）

麻生区では、「在宅で療養したいが、おそらく不可能である」の割合が43.8%で最も高く、次いで「在宅で療養したいし、おそらく可能である」（24.5%）、「おそらく在宅で療養することは不可能だし、したくない」（12.0%）となっている。



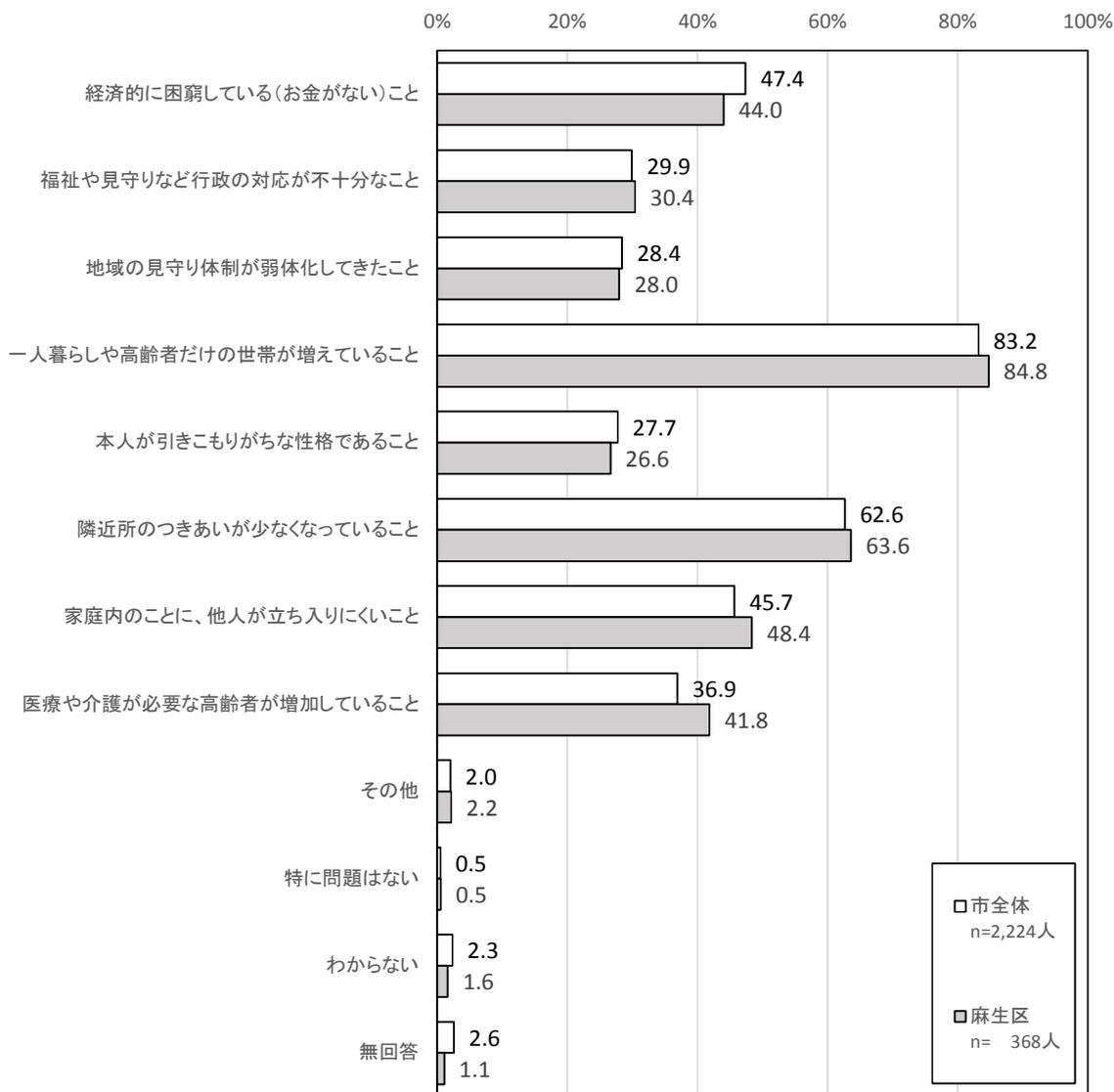
問 28 人生の最終段階における医療について、意思表示の書面や家族での話し合いが必要だと思いますか。（1つに○）（新規設問）

麻生区では、「意思表示の書面は必要であるが、まだ作成していない」の割合が49.7%で最も高く、次いで「意思表示の書面は必要ないが、家族で話し合う必要はある」（20.7%）、「意思表示の書面は作成していないが、家族で話し合っている」（16.0%）となっている。



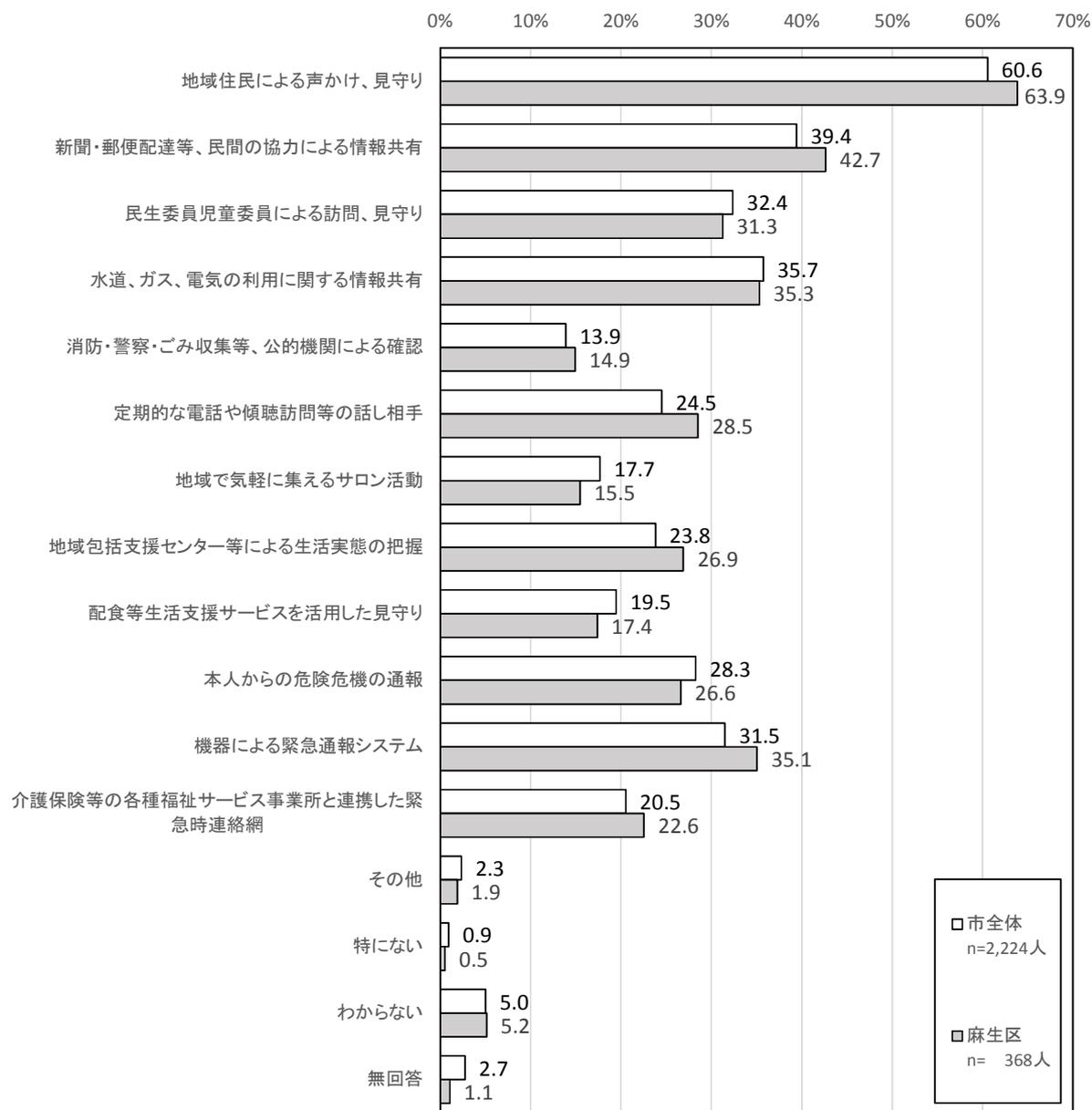
問 29 近年、誰にも気づかれずに死亡し、しばらくして発見されるという孤立死が社会問題となっています。孤立死が生じる原因として、どれが大きな問題だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

麻生区では、「一人暮らしや高齢者だけの世帯が増えていること」の割合が 84.8%で最も高く、次いで「隣近所のつきあいが少なくなっていること」（63.6%）、「家庭内のことに、他人が立ち入りにくいこと」（48.4%）となっている。



問 30 孤立死を防ぐために、どのようなことが有効だと思いますか。特に有効だと思うものを5つまで選んで○をつけてください。(5つまでに○)

麻生区では、「地域住民による声かけ、見守り」の割合が63.9%で最も高く、次いで「新聞・郵便配達等、民間の協力による情報共有」(42.7%)、「水道、ガス、電気の利用に関する情報共有」(35.3%)となっている。

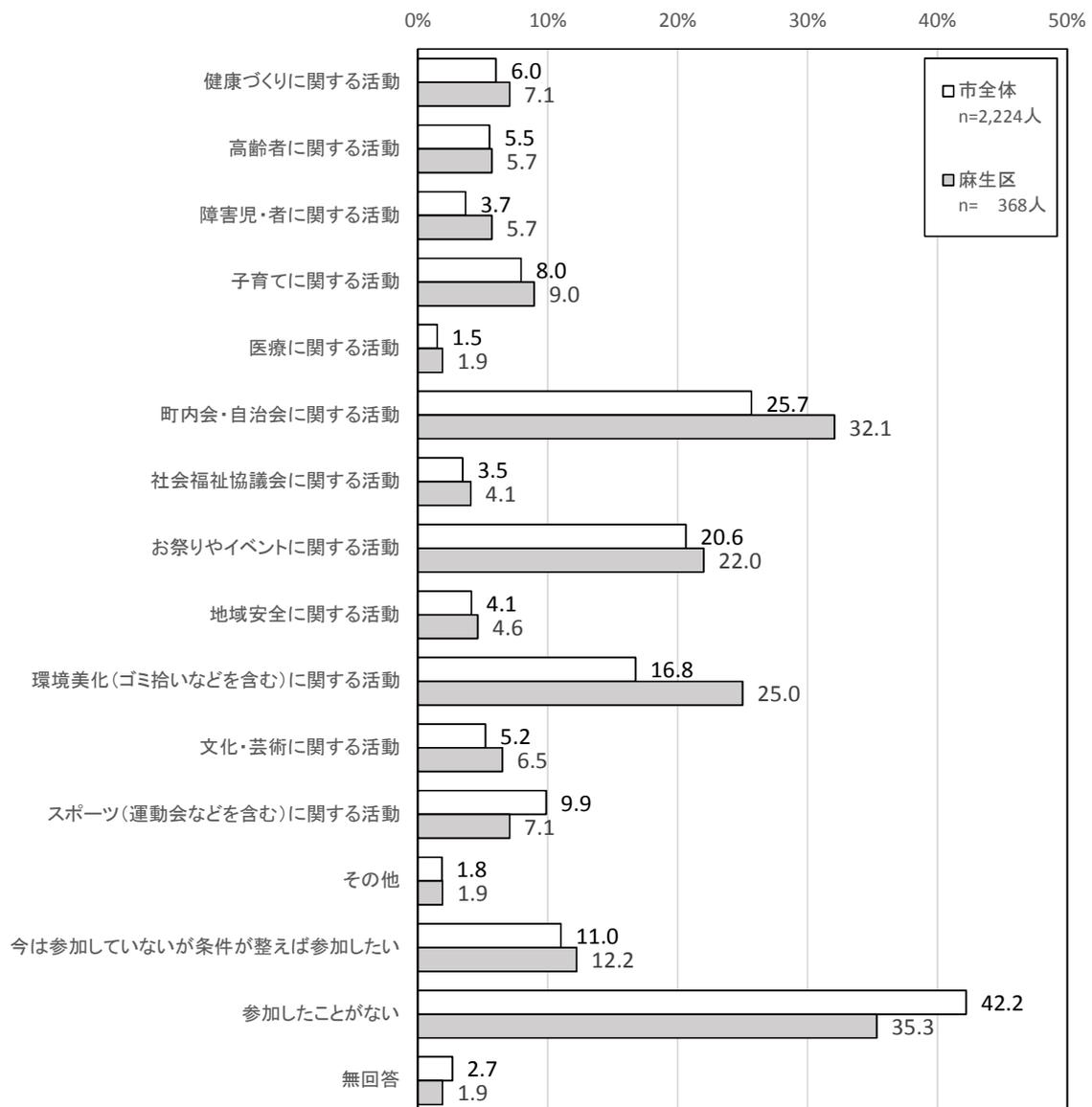


## 4. 地域活動やボランティア活動について

問 31 あなたは、次のような地域活動やボランティア活動に参加したことがありますか。現在参加しているものも含めてお答えください。（あてはまるものすべてに○）

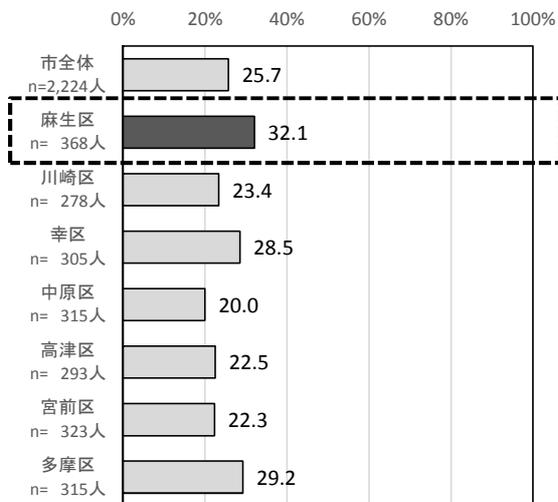
麻生区では、「参加したことがない」の割合が 35.3%で最も高く、次いで「町内会・自治会に関する活動」（32.1%）、「環境美化（ゴミ拾いなどを含む）に関する活動」（25.0%）となっている。

市内6区と比較すると、「町内会・自治会に関する活動」（32.1%）、「環境美化に関する活動」（25.0%）の割合は最も高く、「社会福祉協議会に関する活動」（4.1%）は3番目に高くなっている。また、「参加したことがない」の割合は 35.3%で最も低く、7区で唯一 40%を下回っている。

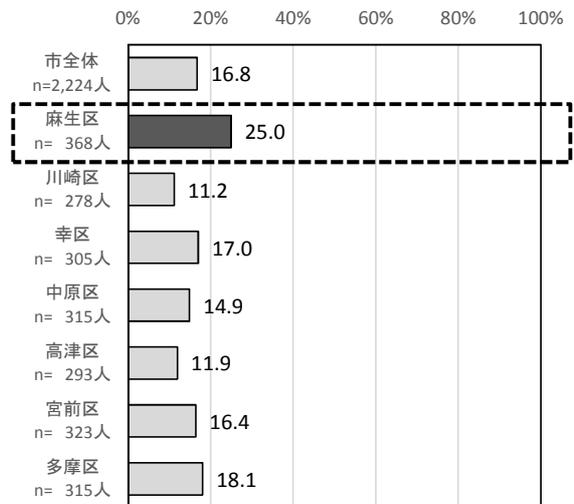


【参考】

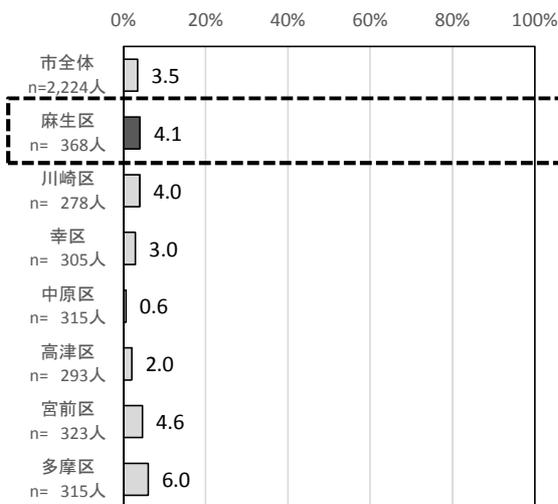
町内会・自治会に関する活動



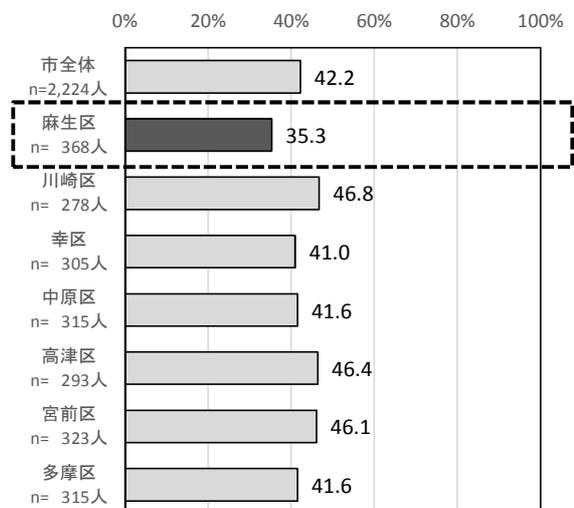
環境美化に関する活動



社会福祉協議会に関する活動



参加したことがない

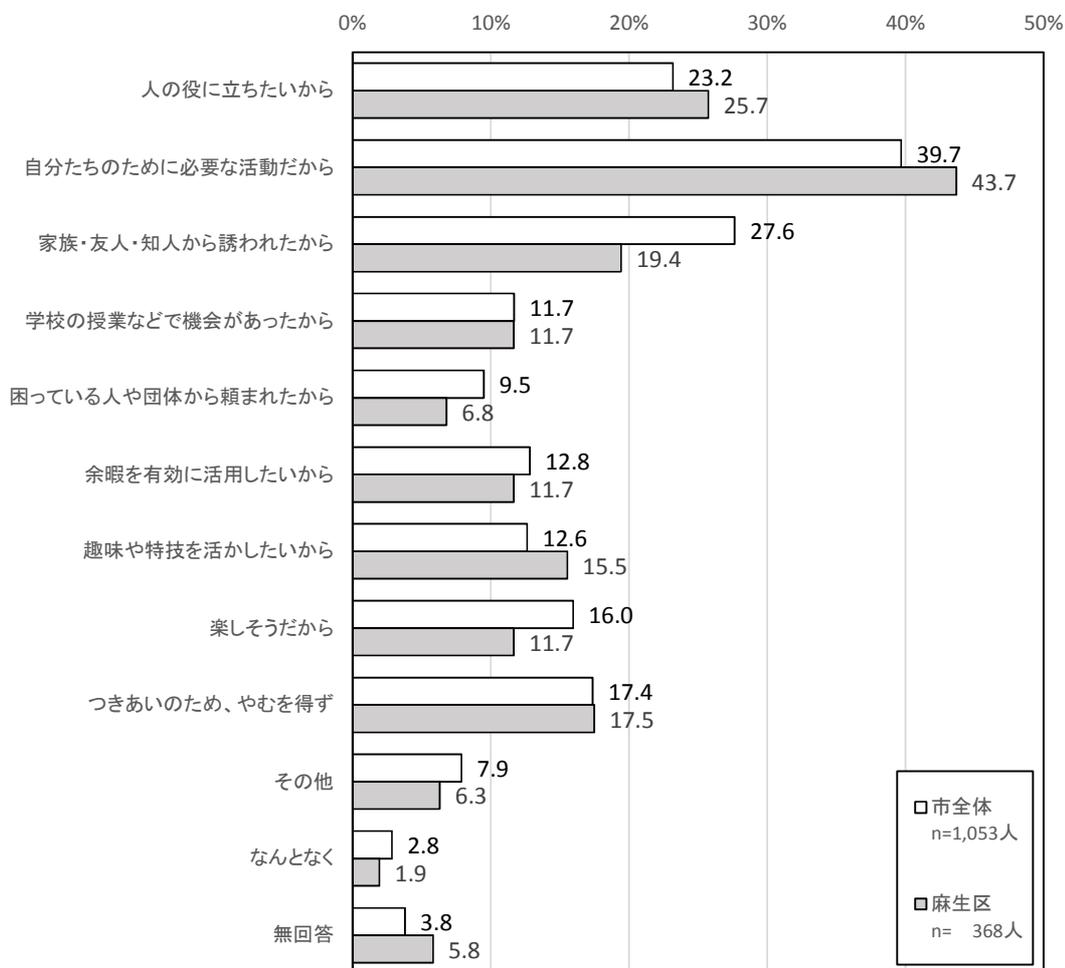


問 31 - 1 《問 31 で「1」～「13」のいずれか（ボランティア活動に参加したことがある）にお答えの方》

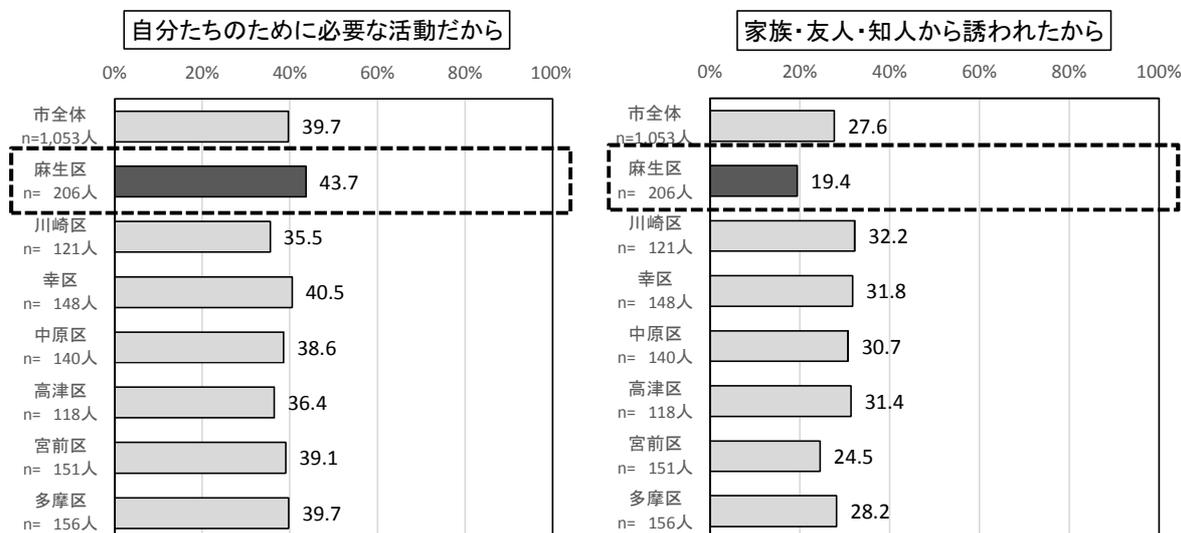
活動に参加した動機やきっかけは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

麻生区では、「自分たちのために必要な活動だから」の割合が 43.7%で最も高く、次いで「人の役に立ちたいから」（25.7%）、「家族・友人・知人から誘われたから」（19.4%）となっている。

市内6区と比較すると、「自分たちのために必要な活動だから」が 43.7%で最も高く、「家族・友人・知人に誘われたから」が 19.4%で最も低くなっている。



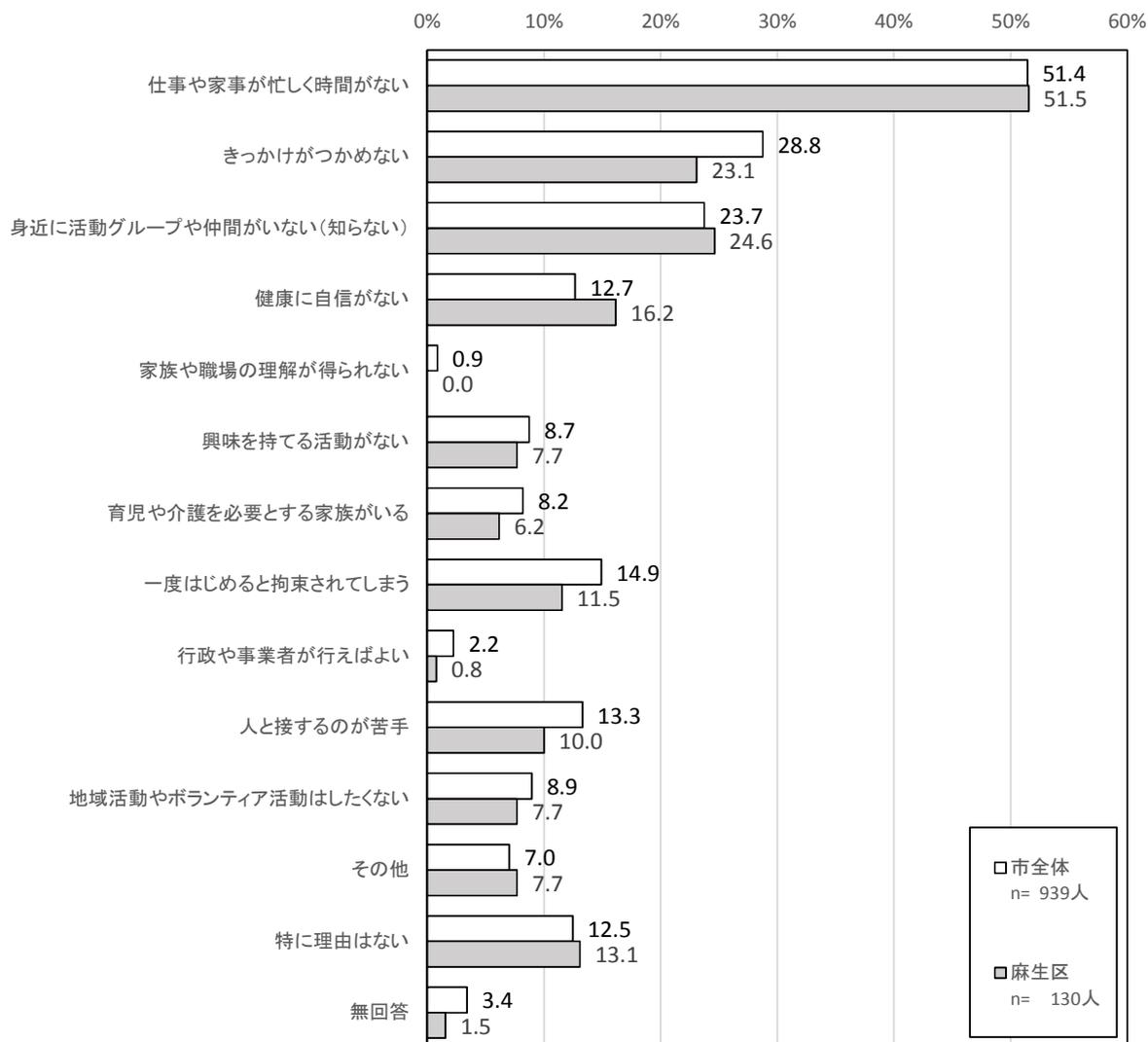
【参考】



問 31 - 6 《問 31 で「参加したことがない」にお答えの方》

あなたが、地域活動やボランティア活動に参加したことがない理由は、どのような理由からですか。  
 (あてはまるものすべてに○)

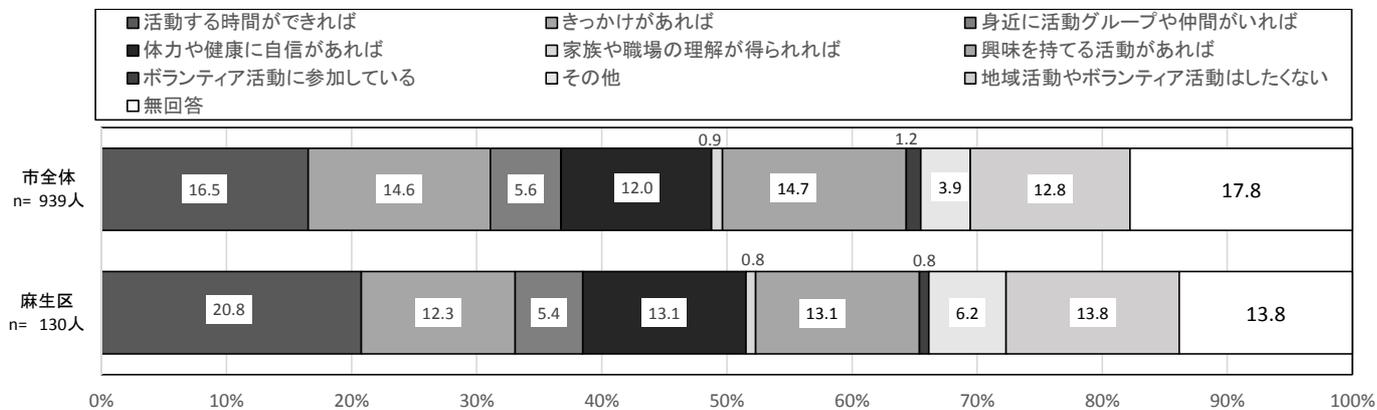
麻生区では、「仕事や家事が忙しく時間がない」の割合が 51.5% で最も高く、次いで「身近に活動グループや仲間がいない(知らない)」(24.6%)、「きっかけがつかめない」(23.1%)となっている。



問 31 - 7 《問 31 で「参加したことがない」にお答えの方》

あなたは、どのような状況になれば、地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。（1 つに○）

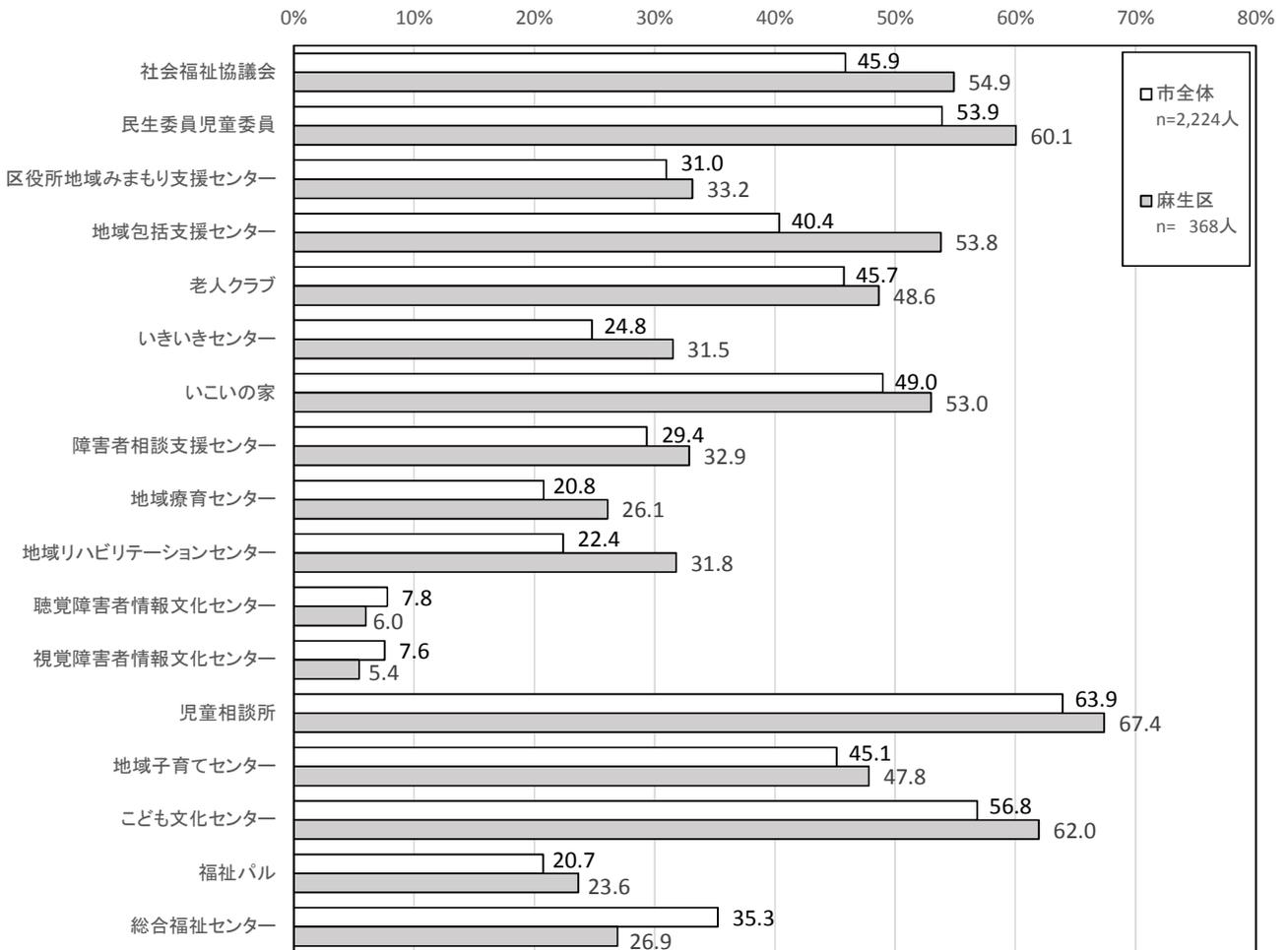
麻生区では、「活動する時間ができれば」の割合が 20.8%で最も高く、次いで「体力や健康に自信があれば」、「興味を持てる活動があれば」がそれぞれ 13.1%となっている。



## 5. 保健・福祉に関することについて

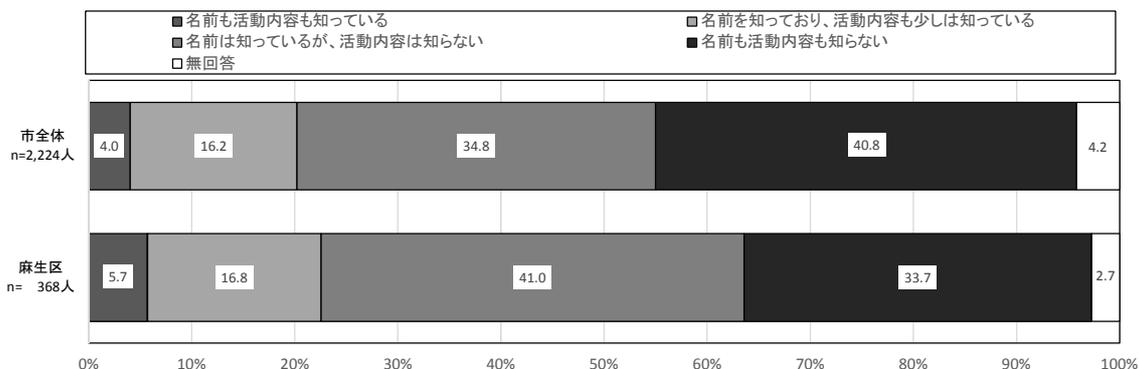
問 32 あなたは、次の保健や福祉の団体・施設等をご存じですか。（団体・施設等について「知っている」「知らない」のいずれか1つに○）

麻生区では、「児童相談所」を知っている人の割合が67.4%で最も高く、次いで「こども文化センター」（62.0%）、「民生委員児童委員」（60.1%）となっている。



問 33 あなたは、地区・区社会福祉協議会についてどの程度ご存じですか。（1つに○）

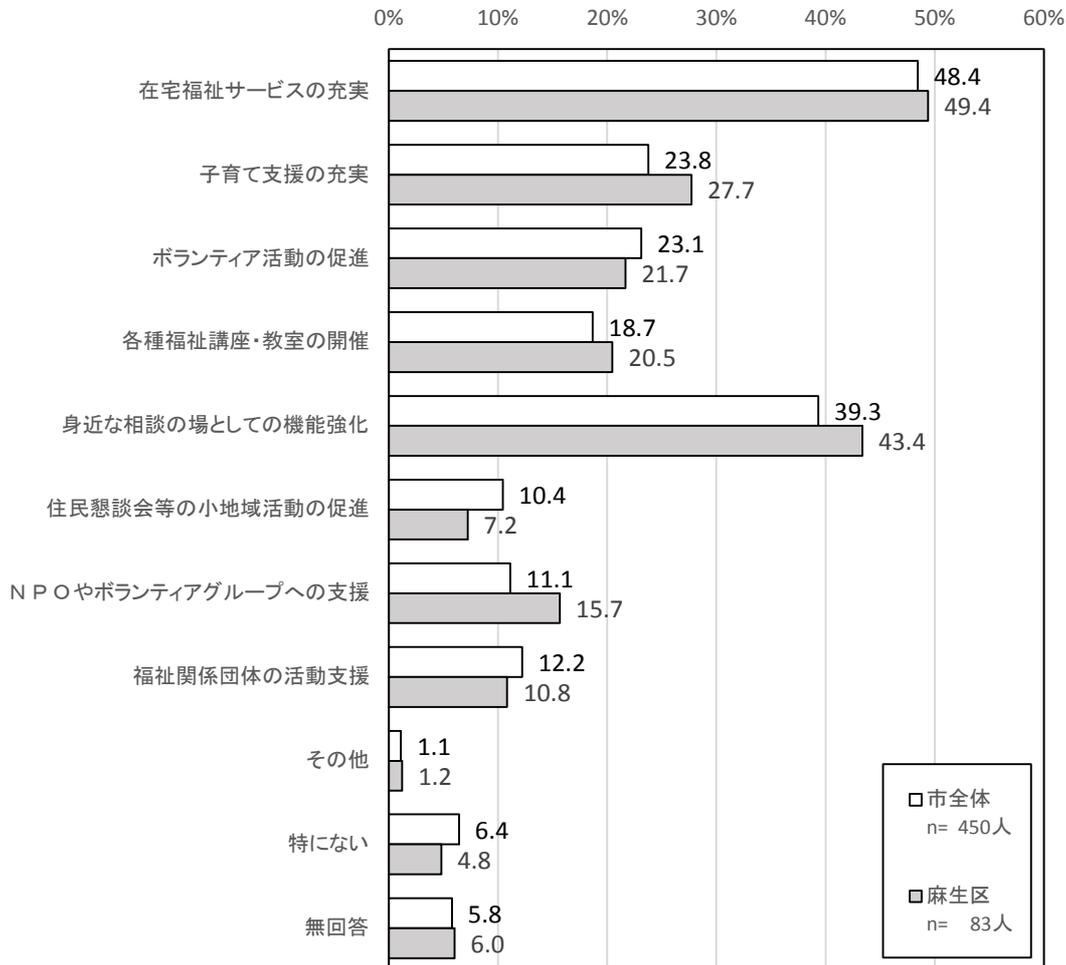
麻生区では、「名前も活動内容も知っている」、「名前を知っており、活動内容も少しは知っている」の合計が22.5%で、市全体（20.2%）を上回っている。



問 33 - 1 《問 33 で「名前も活動内容も知っている」「名前を知っており、活動内容も少しは知っている」にお答えの方》

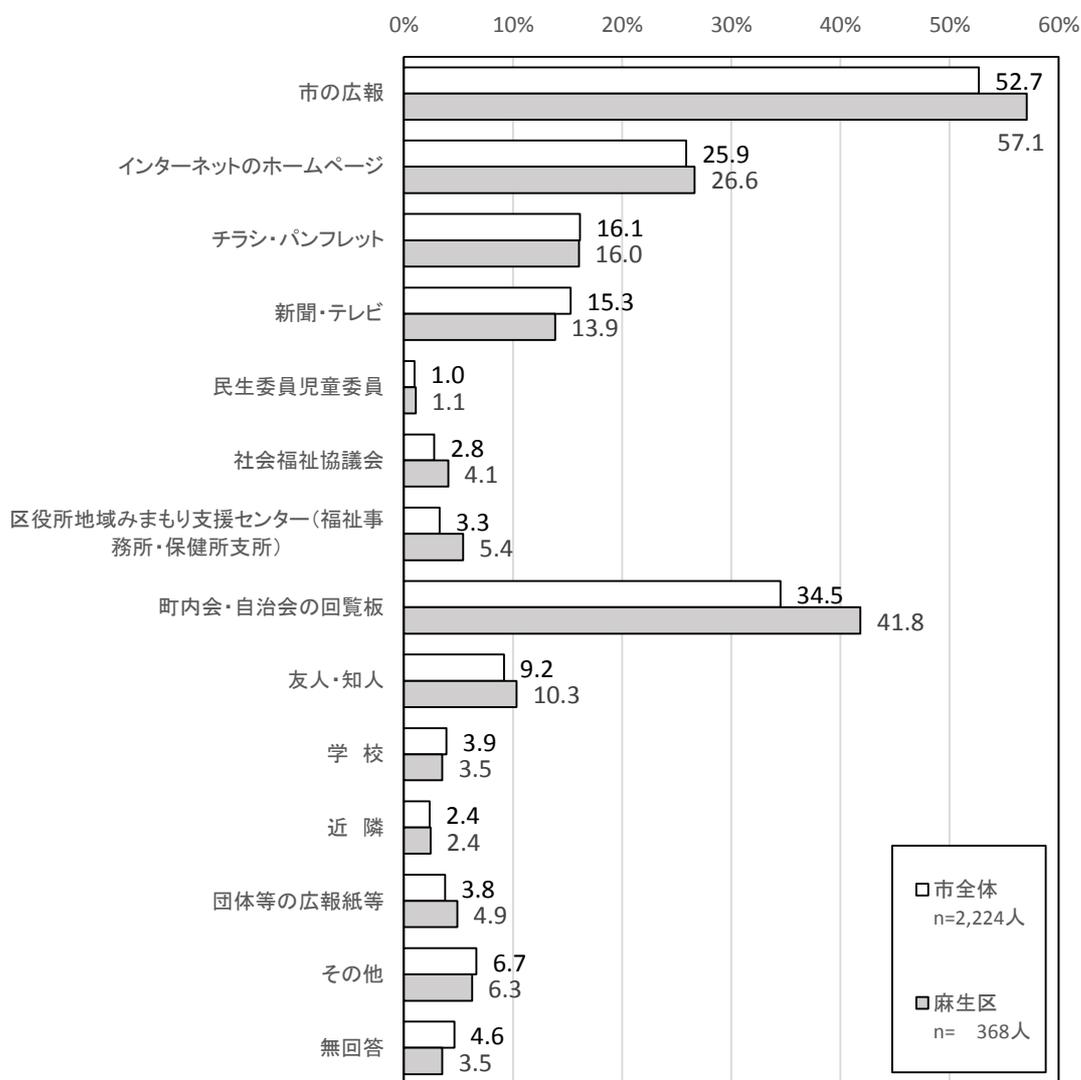
あなたは、地区・区社会福祉協議会の活動として、今後どのようなことを期待していますか。（3つまでに○）

麻生区では、「在宅福祉サービスの充実」の割合が49.4%で最も高く、次いで「身近な相談の場としての機能強化」（43.4%）、「子育て支援の充実」（27.7%）となっている。



問 34 あなたは、保健や福祉の情報をどこから入手していますか。（あてはまるものすべてに○）

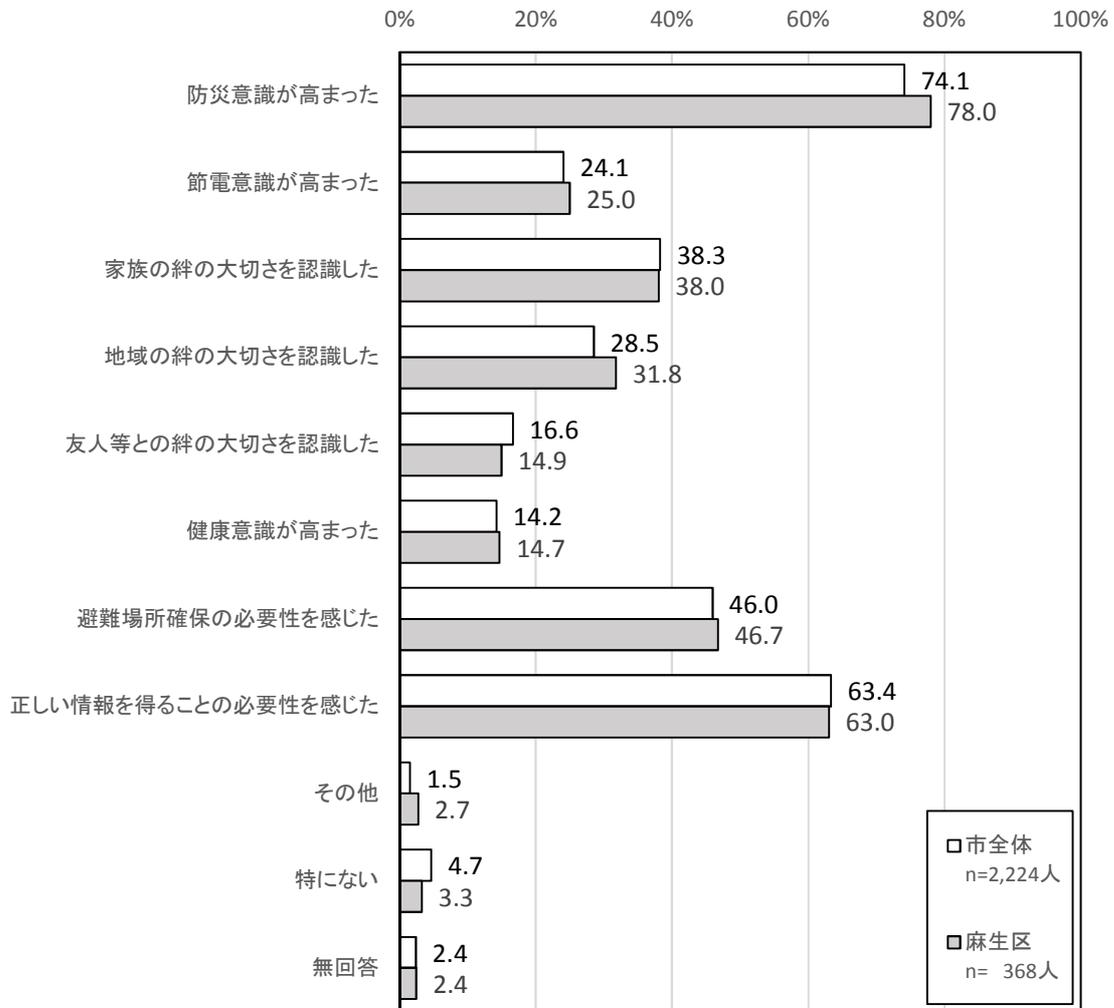
麻生区では、「市の広報」の割合が 57.1%で最も高く、次いで「町内会・自治会の回覧板」(41.8%)、「インターネットのホームページ」(26.6%)となっている。



## 6. 東日本大震災後の意識の変化について

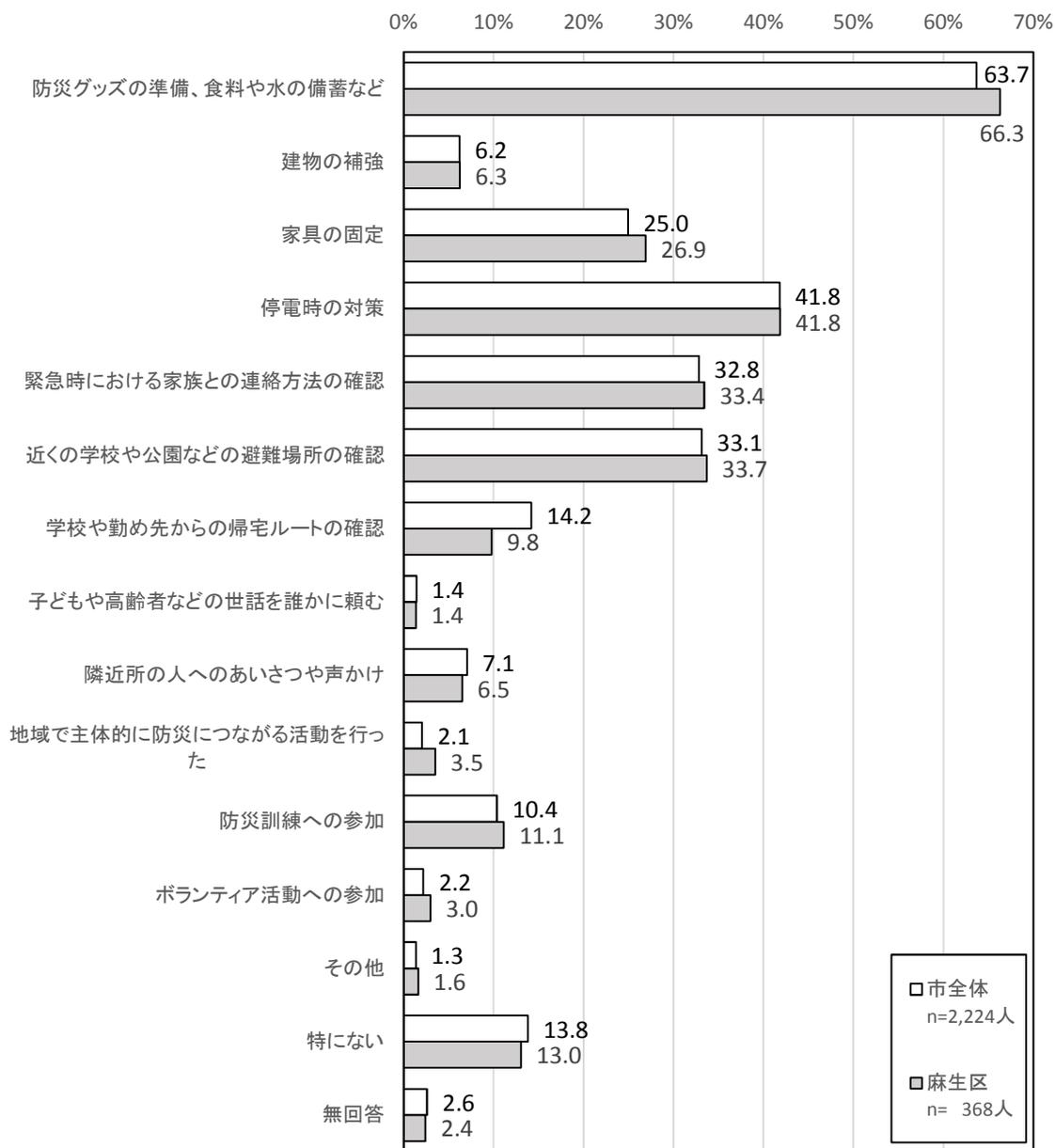
問 36 平成 23 年 3 月に起きた東日本大震災の後、あなたの意識に変化がありましたか。(あてはまるものすべてに○)

麻生区では、「防災意識が高まった」の割合が 78.0%で最も高く、次いで「正しい情報を得ることの必要性を感じた」(63.0%)、「避難場所確保の必要性を感じた」(46.7%)となっている。



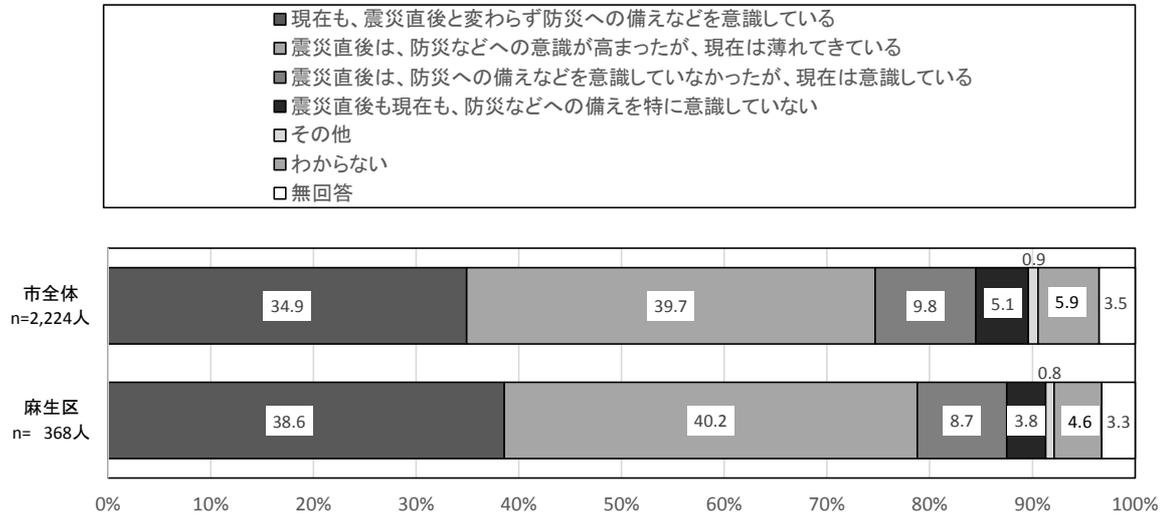
問 37 平成 23 年 3 月に起きた東日本大震災の後、あなたが新たに始めたり強化したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

麻生区では、「防災グッズの準備、食料や水の備蓄など」の割合が 66.3%で最も高く、次いで「停電時の対策」(41.8%)、「近くの学校や公園などの避難場所の確認」(33.7%)となっている。



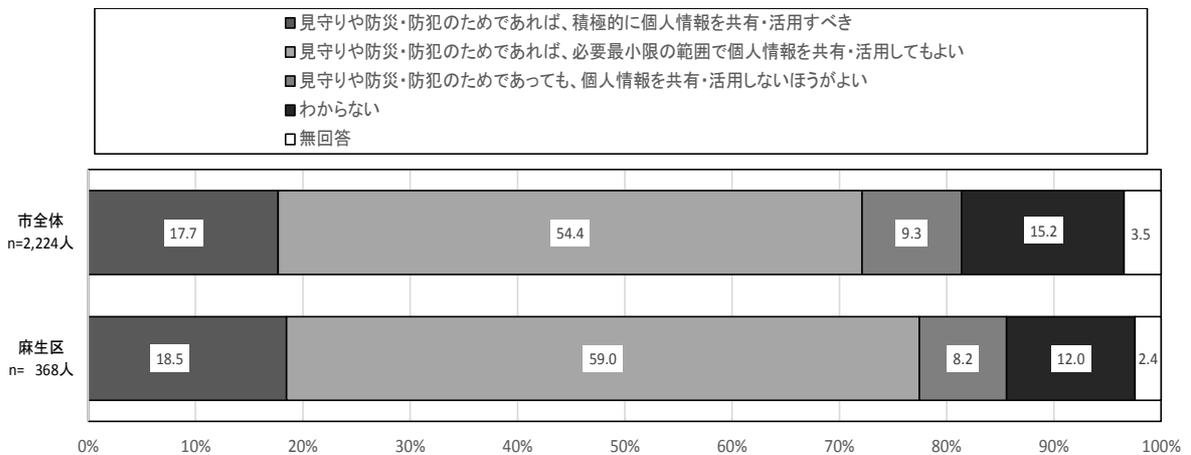
問 38 東日本大震災から8年経ちましたが、震災直後と比べて、現在のあなたの意識は変化しましたか。(1つに○)

麻生区では、「震災直後は、防災などへの意識が高まったが、現在は薄れてきている」の割合が40.2%で最も高く、次いで「現在も、震災直後と変わらず防災への備えなどを意識している」(38.6%)、「震災直後は、防災への備えなどを意識していなかったが、現在は意識している」(8.7%)となっている。



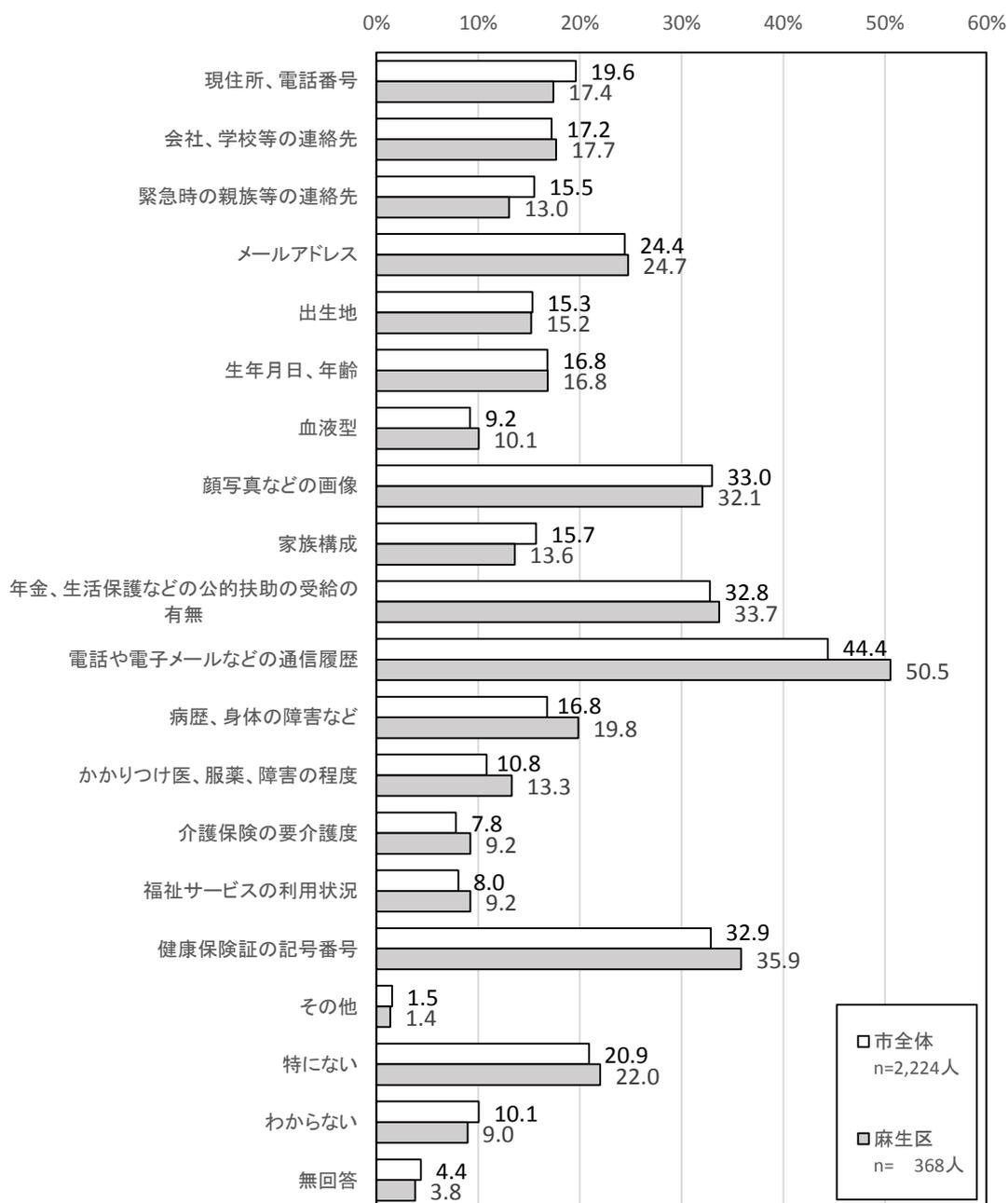
問 39 あなたは、市・区が保有する高齢者や障害者の情報を、見守りや防災・防犯のために、他の部局や自主防災・防犯組織といった関係団体と共有することを、どのようにお考えですか。(1つに○)

麻生区では、「見守りや防災・防犯のためであれば、積極的に個人情報を共有・活用すべき」、「見守りや防災・防犯のためであれば、必要最小限の範囲で個人情報を共有・活用してもよい」の合計が77.5%となっている。



問 41 あなたは次の情報のうち、『防災・防犯などの緊急時に備える』ためであっても、他人に知られたくないものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

麻生区では、「電話や電子メールなどの通信履歴」の割合が50.5%で最も高く、次いで「健康保険証の記号番号」(35.9%)、「年金、生活保護などの公的扶助の受給の有無」(33.7%)となっており、いずれも市全体を上回っている。

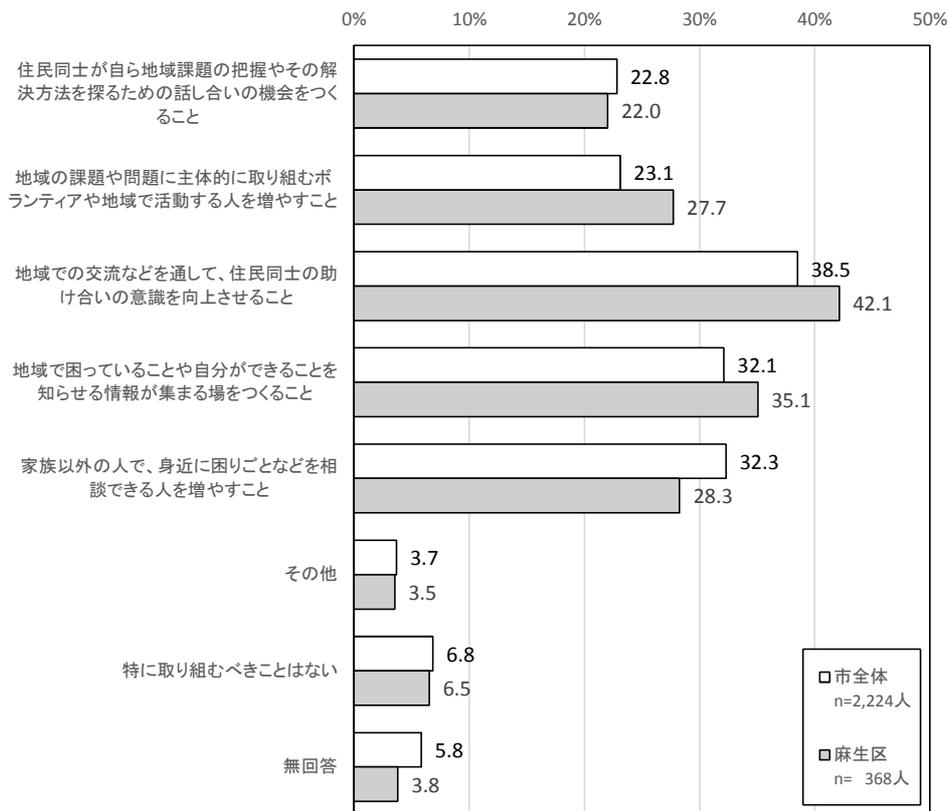


## 7. 今後の地域福祉の推進について

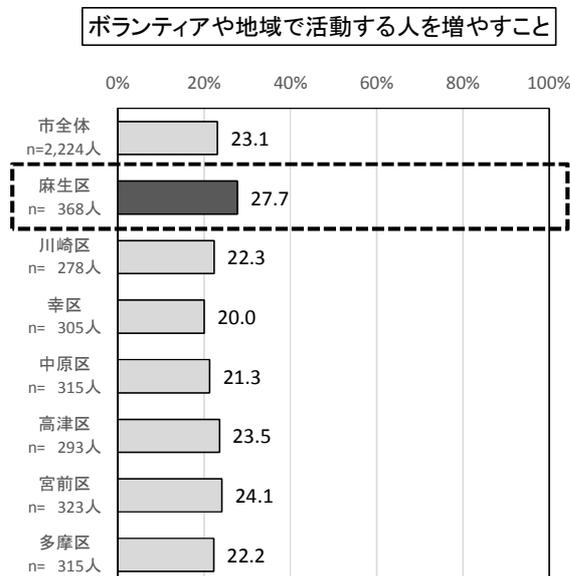
問 42 今後、地域福祉を推進するために、市民が取り組むべきこととして、あなたはどのようなことが重要とお考えですか。（あてはまるものすべてに○）

麻生区では、「地域での交流などを通して、住民同士の助け合いの意識を向上させること」の割合が42.1%で最も高く、次いで「地域で困っていることや自分ができることを知らせる情報が集まる場をつくること」（35.1%）、「家族以外の人で、身近に困りごとなどを相談できる人を増やすこと」（28.3%）となっている。

市内6区と比較すると、「地域の課題や問題に主体的に取り組むボランティアや地域で活動する人を増やすこと」については、27.7%で最も高くなっている。



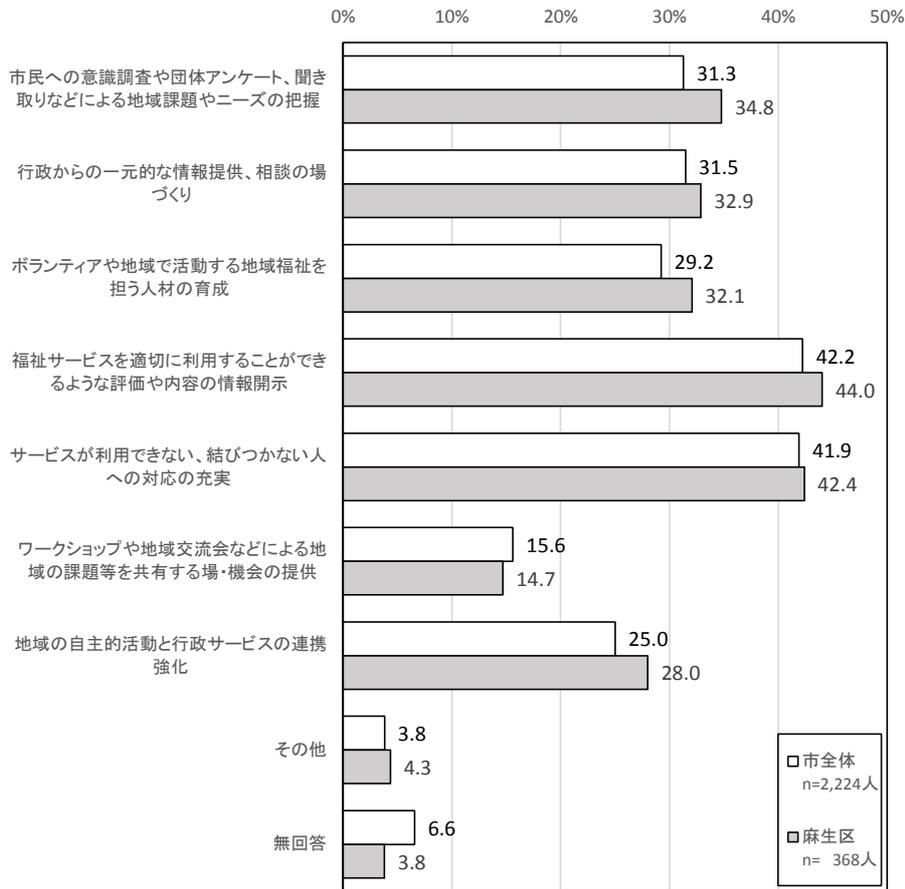
### 【参考】



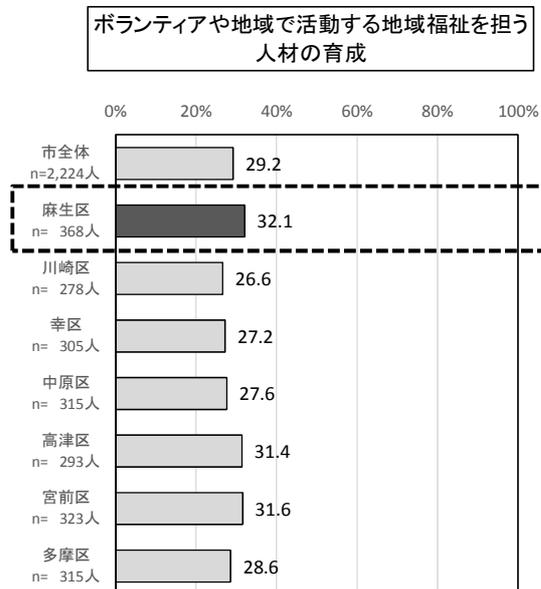
問 43 今後、地域福祉を推進するために、行政が取り組むべきこととして、あなたはどのようなことが重要とお考えですか。（あてはまるものすべてに○）

麻生区では、「福祉サービスを適切に利用することができるような評価や内容の情報開示」の割合が 44.0%で最も高く、次いで「サービスが利用できない、結びつかない人への対応の充実」（42.4%）、「市民への意識調査や団体アンケート、聞き取りなどによる地域課題やニーズの把握」（34.8%）となっている。

市内6区と比較すると、「ボランティアや地域で活動する地域福祉を担う人材の育成」については 32.1%で最も高くなっている。



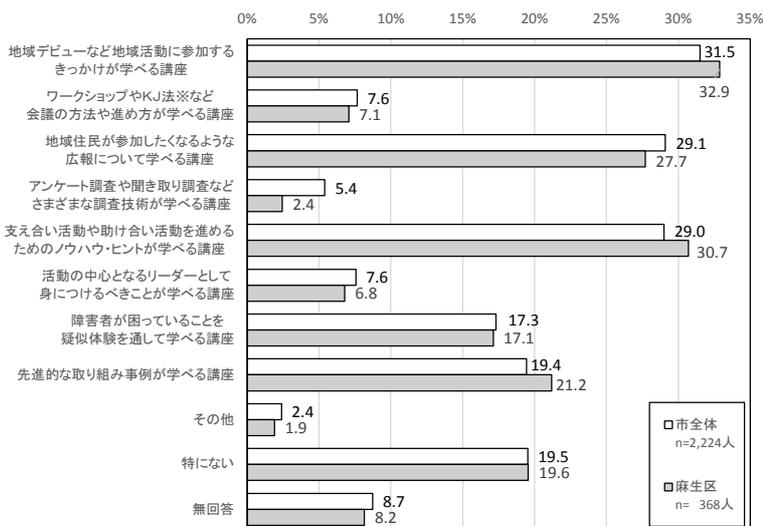
【参考】



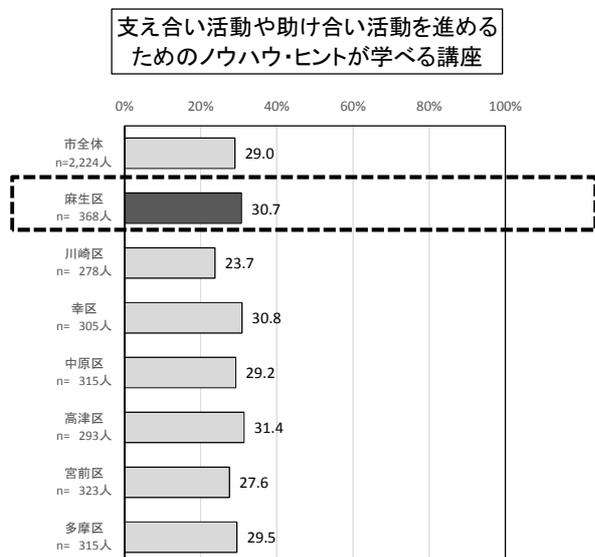
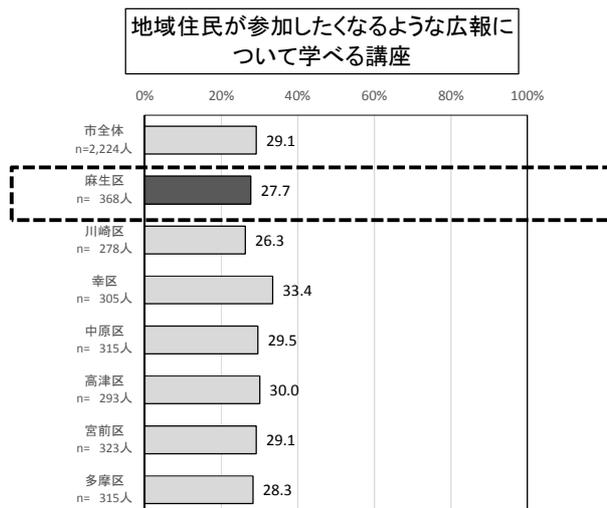
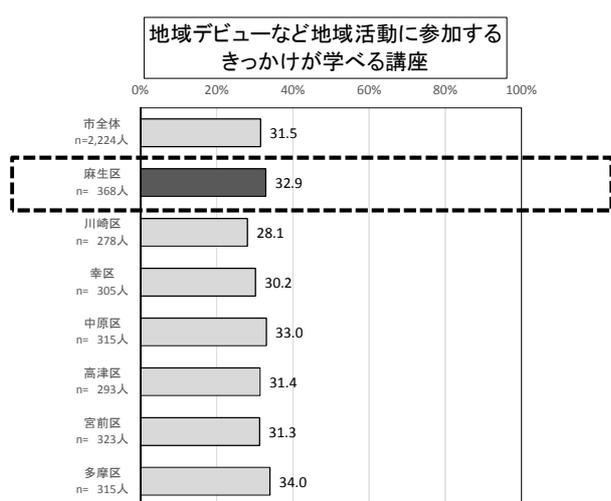
問 44 今後、地域福祉を推進するために、行政が開催する講座として、どのような内容の講座が必要とお考えですか。（あてはまるものすべてに○）

麻生区では、「地域デビューなど地域活動に参加するきっかけが学べる講座」が32.9%で市全体（31.5%）を上回っている。

市内6区と比較すると、「地域デビューなど地域活動に参加するきっかけが学べる講座」は32.9%と3番目に高い。また、「地域住民が参加したくなるような広報について学べる講座」は27.7%と2番目に低く、「支え合い活動や助け合い活動を進めるためのノウハウ・ヒントが学べる講座」は30.7%と3番目に高くなっている。



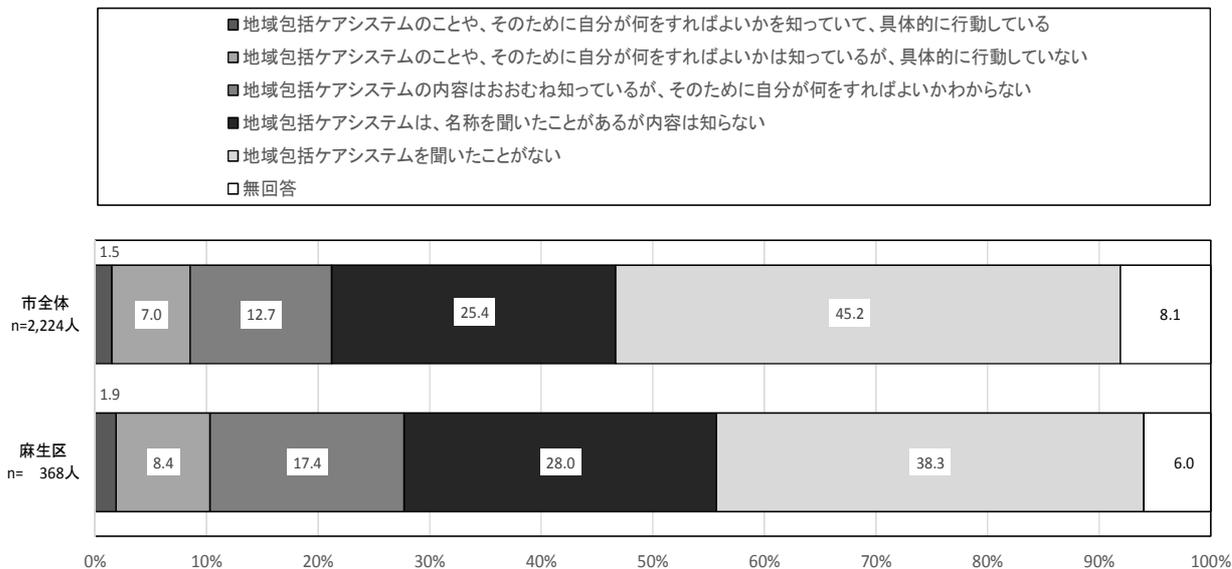
【参考】



問 45 川崎市では、超高齢社会の到来を見据えて、「地域包括ケアシステム」の構築を進めています。あなたの「地域包括ケアシステム」の理解度や行動について、あてはまるものをお答えください。

(1つに○)

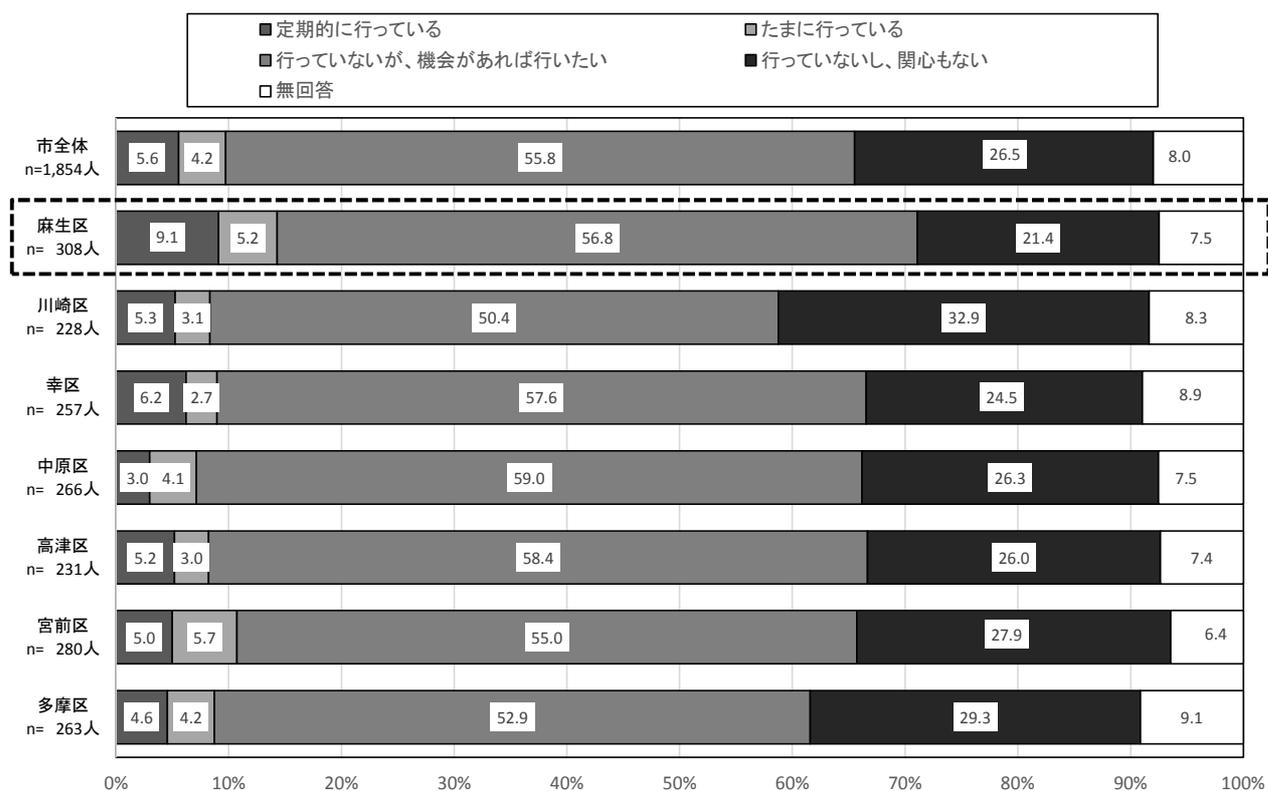
麻生区では、「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」の割合が38.3%で最も高く、次いで「地域包括ケアシステムは、名称を聞いたことがあるが内容は知らない」(28.0%)、「地域包括ケアシステムの内容はおおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいかわからない」(17.4%)となっている。



問 45 - 1 《問 45 で「地域包括ケアシステムの内容はおおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいかわからない」「地域包括ケアシステムは、名称を聞いたことがあるが内容は知らない」「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」にお答えの方》

地域包括ケアシステムにおいて、市民一人ひとりに期待される行動としては、自らの健康管理をしっかり行うことをはじめ、近隣住民との交流や様々な地域活動に関わることにより、支え合い・助け合う地域づくりに関わることなどがあります。このような行動を行っていますか。(1つに○)

麻生区では、「定期的に行っている」「たまに行っている」の割合の合計が 14.3%で市全体(9.8%)を上回っている。市内6区と比較すると、「定期的に行っている」、「たまに行っている」の割合の合計は最も高くなっている。また、「行っていないし、関心もない」の割合は 21.4%で最も低くなっている。



## 8. 自由回答のまとめ ※再掲を含みます

### (1) 地域で問題になっていること

地域で問題になっていることとしてあげられた意見は、次のとおりである。

#### ■ 地域で問題になっていること

意見の内容	件数
1. 子どもに関する問題	16
2. 地域防犯・防災に関する問題	28
3. 高齢者に関する問題	20
4. 地域のつながりに関する問題	30
5. 適切な情報が得られない、あることを知らない人がいるという問題	11
6. 障害児・者に関する問題	4
7. 地域活動や団体活動を行う拠点や場所がない（足りない）という問題	7
8. 家庭不安や心配ごとを誰にも相談できない人がいるという問題	1
9. 健康づくりに関する問題	3
10. 一人ひとりに必要な制度や地域活動が十分でないことが原因と考えられる問題	0
11. その他	9

#### 1. 子どもに関する問題（16件）

	内容
1	子どもの交通手段が心配。
2	野球をして遊ぶ場所がありません。家の前の道路は公道です。子どもがボール遊びをした際に警察に通報されたことがあります。警察がわざわざ注意にきました。警察が来た時は遊びが終わった時でした。公道で遊んだ子どもが悪いのですが、公園でボール遊びができれば家の前でボール遊びをすることはないので、と思います。
3	子どもが気がねなくボール遊びをする場所がないこと（他6件）。（公園の敷地面積が狭い）。
4	良い子どもの遊び場が必要だと思います。適度な広さ、大人たちの目が届き子どもたちがのびのび過ごせる場所。子どもたちの将来がとても心配です。近所の人達と軽い挨拶からもう一歩でも親しくなることが防犯や孤独死などを防ぐことに繋がると思います。
5	子育て支援ができる環境が少ない。
6	貧困層の学力増進。
7	仕事をしていた時期に子どもが風邪をひき病児保育に預けたかったが、定員が少なくなかなか預けられない。また病児保育の場所が遠すぎる。せめて駅近にあると助かる。
8	例えば、母親が通院する時、子どもをどこかに預けなくてはならない場合、一時保育があるが、認可の一時保育は、すぐ定員が埋まってしまい利用することが出来ない。認可外の保育園を利用することになるが、料金が高額でなかなか気軽に利用しようとは思えない。人手不足や保育士の不足などでそういったものが高額になってしまうのは仕方がないこととは思う。しかし、結局、子育ては、自分自身で何とかしなくては、ならないんだと、思ってしまうのも事実である（他1件）。
9	子どもが通う学校の先生が忙しすぎて、教育が心配。1学級の人数を減らす、先生を増やすなど、もっと教育の充実を！

## 2. 地域防犯・防災に関する問題（28件）

	内容
1	空家が目立ってきている。空き巣被害がある（他3件）。一人暮らしまたは二人暮らしの高齢者が多い（他2件）。（特に一人世帯などで見守りが必要になってくる）
2	地域で最近どんな事件犯罪が起きているのか、どんな傾向にあるのか、まったく分からないので心配（他1件）。
3	近隣に防犯カメラ等（住宅地なので）がない所が多く、暗い道も多く、女性や子どもが不安であるという声が多い（他2件）。
4	登下校の見守りをもっと積極的にできると良い。パトロールの強化。
5	通学路にガードレールがない。狭い道なのに自転車が通るなど決して安全とは言えないこと。
6	自動車の運転マナーの悪化。子連れ自転車のマナーがひどい。自治会がないので回覧板もなく地域の情報が入ってこない。
7	首都圏直下型地震対応など（他1件）。
8	車へのいたづら等。
9	避難場所は、近所の小学校になっているが、絶対に全員がそこに入れるとは思えない。人数に対して場所が狭すぎる（他1件）。以前から疑問に思っていた。災害時にはもう壊れても自宅で頑張るしかないといつも思っている。
10	訓練などに参加している人が少ない。
11	災害時の対応の仕方等（障害者はどう避難すればよいか）。
12	歩行（一人で）ができないので一人でいる時に災害がおこった時に心配。
13	介護が必要になった時等どのようにしたらよいのか分からない。
14	昔から住んでいる人が高齢化し、たまに徘徊しパトカーが捜していることがある。地域での見守りをして事故のないようにしたい。我が家も空き巣被害にあいましたが下見をしているような不審者がいたら声を掛け合って被害を防ぎたい。
15	困っている高齢者や子どもに声を掛ける人が少なく感じます。川沿いや細い道などで雑草が多く死角になったり、街灯が少なくなり暗い場所があります。災害が少ないせいか、一人ひとりの危機管理も足りない気がします。
16	避難所へ行けない場合、家に残っている人がいないか見つけ出してくれる配慮が欲しいです！例えば玄関に赤とか黄の旗を出しておけば声を掛けてもらえるようにとか。
17	隣家、道路に大幅にはみ出した木、草の伐採を拒否する住人。角地のため車が見えにくい。公園の近くを子どもたちが通るため危険。火災の危険もある。
18	時々、道路わきに乾電池等が置いてある。

## 3. 高齢者に関する問題（20件）

	内容
1	自治会の必要性は分かるのだが、仕事が忙しすぎてつき合う余裕がない。自治会が大きくなれば会合も増える。やはり時間のある高齢者が主となる。72歳の父が自治会会長をしているが健康上の問題もあり、かなりきつそう。清掃活動の際飲み物（ペットボトル数百本）を配るのも、とても大変そうだった。また、前年までのしがらみもあり（規約だと2年はやめられない）もっと年数をスマートにできないものかと思う。川崎市がスマートな方法を提示していただけると、頑固な高齢者たちもゆずるかもしれない。
2	高齢の一人住まいの方が困っていることがあるのか分からない。雪の日の雪かきを通り（3軒位）をしたら大変喜ばれたが、他の方たちはどうしているのか心配になった。
3	団地で高齢者の孤独死。独居高齢者の経済問題や社会的引きこもり。
4	独居高齢者の地域での見守り（他5件）。

	内容
5	認知症予防のための活動、高齢者ドライバーの免許証返納、どう働きかけるかなど
6	高齢者に対する地域活動への期待の程度のコンセンサスの欠如。
7	高齢者が多そうだが把握できない。(現状把握できない) (他 2 件)。
8	高齢者同士、どう助け合っていくか話し合いがない。高齢者になると自治会を辞めてしまう。
9	高齢者の一人暮らしの接し方やご高齢ゆえのルール違反など。こちらも注意がやりにくくなってくる。
10	高齢のため、コミュニケーションがうまくとれない。
11	特別養護老人ホームが少ない。
12	高齢の母と同居したいのですが、坂の上に住んでいるので下に降りないと「いこいの家」等がないため同居できないでいます。既にあったとしたら知らずにすみません。送迎が欲しいです。
13	いつの間にか高齢者ばかりが住む団地になり、いざという時の運営が心配。

#### 4. 地域のつながりに関する問題 (30件)

	内容
1	近所づきあいがほとんどない (他 4 件)。
2	近所の方とは挨拶をする程度なので災害があった時助け合えるのか心配です(他 1 件)。
3	「近所付き合い」を避けようとする傾向。密接な付き合いを煩わしく感じ、あえて避けているように感じる。最低限「あいさつ」だけしていればよいという風潮がある (他 2 件)。
4	人として最低限必要と思われる日頃の挨拶も出来ない人がいる。こちらで挨拶しても無視されることが比較的多い。
5	同じ時期に住みはじめたので全員高齢になり、雪かきなど困難。ゴミ出しの時に顔を合わせる位で交流なし。
6	マンション内での交流は少しあるが、その外との関係は築けていないしどうしていくべきかも分からない。
7	小・中学生の子どもがいる家庭同士のつきあいの輪はあっても、その他の家庭はつきあいが無く、あいさつをする程度だけの関係。
8	1人暮らし、子どものいない家庭は地域から孤立しやすい。
9	町内会が広い為、小さな集まりがなく知人が増えないし交流がない。子どもが大きくなってから転居して来たので知り合う機会がない。
10	若い世帯、年配の世帯、子どもの居る家、居ない家など共通の話題が無いので、会話する機会も気持ちも持てない。
11	一人暮らしのお年寄りなど見ていてとても大変そう。精神的にも。特に何もできないのですが、もっとコミュニケーションをとれる場があれば良いのにと感じます。
12	近くに障害者、高齢者はお見かけするが、自分の子が関わる機会は年 1 回のお祭りのとき程度しかない。もっと自然に仲良くなれたらと思う。
13	公園で遊ばせている際、不審者情報が頭をよぎって公園に見守りしに行ってしまう。近所の方であろうお年寄りの方々と言葉を交わすようになっていけばまた違うのかなあと思ったりしてしまう。
14	町内会の用事で訪問した時にあまり関わりたくないと思っていらっしゃるよう感じたことがあった。
15	昨今の異常犯罪が影響しているせいか、軽い気持ちでの声掛けをするにも一歩前進できない。

	内容
16	マンション居住者の高齢化によりマンション管理組合の運営が困難になる。他人を支援する前に、他人に迷惑をかけないというマナーが欠けている。
17	何かあった時自分のことのみであまり協力をしないでいる人がいる。
18	具体的にこれとあげる事はありませんが、高齢者があまり外に出てサークル等の交流をしていない。
19	自治会が昔ながら親族で固められているような気がする。一族とか。役員の任期を定めるべきである。進化を望みたい。
20	町内会の役員ですが、加入して活動しようという人があまりいない。
21	プライバシーの問題があり気になってもあまり深入りできないところ（他1件）。
22	情報が過多、ツイッターやタブレットなどによる巧妙な詐欺も横行しプライバシーを自分で守らねばならない。世の中で人と人とのつながりも（他人を信ずる）薄れてしまっている。

#### 5. 適切な情報が得られない、あることを知らない人がいるという問題（11件）

	内容
1	支援が必要な人がどこにいるか分からない。
2	具体的に体験した事がない事で自分には関係がないので情報を得る必要がないと考えているのではないか。
3	引っ越ししてきた時は町内会のルール（ゴミ出しの日など）が分からず隣の方に教えてもらった。
4	自治会に加入していない家庭が多く、連携を組んで問題に取り組めない。回覧板の回覧を通してもっと会話や日常的にコミュニケーションがとれるのに残念だと思う。
5	新聞をとらないと市の情報が得られない。
6	教えてくれる人がいない。他県から来たばかりで知人がいない。
7	町内会には加入しているが、地域でどのような活動をしているか知らない。
8	自分自身が住んでいる地域でどんな問題が起きているのか知らない。
9	集合住宅に居住していますが、知っている顔の方が圧倒的に少ない。あいさつをしても返事もしない方もいる。せっかく色々な制度があっても、こちらから調べてアプローチしないと、役所は何の案内もしてくれない。
10	地元の方とよそ者の関係。
11	町内会に入りだいで改善されたが、分館も遠く、市や区の情報が全く入ってこなかった。町内会への案内も2年ほど全くなく2年ほど無情報だった。

#### 6. 障害児・者に関する問題（4件）

	内容
1	駅などのバリアフリーが足りない気がします。点字ブロックに立つ人が多すぎて、ちょっと気になります。
2	高齢者に関してはマンション自体の高齢化が全体的に進んでいるところ。障害者に関わる事が無く理解に欠けていると思う。
3	障害者や高齢者が暮らす際に、「うるさい」「出入りする人が多くて不安」等、住民より苦情が多数出て暮らしにくい。いつも気を遣いながら自由に暮らせない。
4	就労施設が足りない。

## 7. 地域活動や団体活動を行う拠点や場所がない（足りない）という問題（7件）

	内容
1	高齢化が進んでいて地域の役員のなり手が少なくなっているのではないかと心配である。
2	高齢者同士の交流の場（例：認知症カフェ）がない。
3	サークル活動など気軽に活用できるスペースが足りない。
4	町内会が大きすぎ、遠くにしか会館がない（他1件）。同じ町内班の人以外と知り合いになりにくい。
5	麻生区には坂が多く細い道なども多いのでコミュニティバスのようなものがあると高齢者の方々は助かるのではないかと。また自治会はあるが、特に回覧以外に活動はないので必要なか疑問に思う。
6	我町内自治会のメンバーは高齢化してきて我家を含めて老々介護となっている家族が増えてきました。年一度公園で立式自治会総会はありますが、日常挨拶する方は隣近所の方程度です。人と人との関係希薄問題で先日11月末顔合わせの女の会を持ちましたが、我自治会は集会所もなく、他の自治会集会所を借りての初めての会で、日ごろの活動不足のため参加者は少なかった。

## 8. 家庭不安や心配ごとを誰にも相談できない人がいるという問題（1件）

	内容
1	電話による心理相談の相談員をしている関係で、日頃さまざまな不安や心配ごとをお聴きするのですが、電話がつながりにくいと言われることが多いです。つまり、多くの人が相談したいのです！！回線を増やして下さい。（いのち電話、ボランティア相談員）。

## 9. 健康づくりに関する問題（3件）

	内容
1	健康体操みたいなものを積極的にやってもらいたい。麻生区は高齢者が多いので定期的に福祉の方が訪問し見守りをできるようにしてもらいたい。
2	運動をする場所があるといい。
3	ストレスを貯め過ぎて具合悪くなる。

## 10. 一人ひとりに必要な制度や地域活動が十分でないことが原因と考えられる問題（0件）

## 11. その他（9件）

	内容
1	町内会に加入しない借家人が多いこと。
2	月1回の清掃に出る事があるが、年寄りに集中してしまいます。
3	坂が多い。
4	子どもの数が自身の頃と比べて減っている。老人ホームの町と化してきている。
5	今は何の問題もなく過ごしているが近所中高齢化が進んできているので今後に心配。
6	小学生登校時の歩きタバコ。タバコのポイ捨て。登校時の小学生の横並び、かけっこを親と一緒にいて注意しない。ゴミの違法投棄、ノラ猫のエサやり等々。
7	開発が進むことによって、大木が伐られ、開発自体は必要なことであっても、周辺の緑地の木々も伐られてしまっている。
8	数人で集まっているだけですぐクレームが入る。共用の木に飾りつけがされていただけで苦情など、大した迷惑ではないであろう事へのクレームが多すぎる。

	内容
9	母の認知症がだんだんひどくなり父が困っている。

## (2) 今後、地域活動やボランティア活動に参加したい理由

今後、地域活動やボランティア活動に参加したい理由としてあげられた意見は、次のとおりである。

### ■ 今後、地域活動やボランティア活動に参加したい理由

意見の内容	件数
1. 自分自身や子どものため	6
2. 地域交流のため	11
3. 社会貢献	2
4. 健康維持	4
5. 時間に余裕があるから	1
6. 身近で関心・興味がある	5
7. 仕事をしていて或いは資格があるから	6
8. 街の美化のため	0
9. 時間に余裕がなく、できない	3
10. 病気・高齢だからできない	4
11. 参加する気はあるが方法がわからない	1
12. その他	2

#### 1. 自分自身や子どものため（6件）

	内容
1	自分がそうしたいから。
2	子どもに地域の良さを知って欲しい。「我が事」の様に考えられる様になりたいから。
3	子どもが幼稚園に通っている時、役員をやり、役員は養護施設に清掃等のボランティアをする義務が課せられていたためあまり気が進まなかったが良い経験になりました。
4	子どもと一緒に楽しめるイベントには参加したい。
5	子どもたちや若者が楽しめること、活躍できる場が少ない気がする。イベントやボランティアを通じて地域に興味を持つきっかけにもなると思う。
6	自分の子どものため。

#### 2. 地域交流のため（11件）

	内容
1	地域との繋がりのため。
2	じっくりお話を聞いたり掃除など活動は自分にあっていると思うので。
3	地域に関わっていく必要がある。
4	防災時には協力できるから。
5	町内会での活動のため。
6	コミュニケーションをはかるため。健康第1なので。
7	そこから広がる人の輪も今後の自分達のためになると思うため。
8	交流を大事にしたい。
9	地域住人との交流。
10	孤立死を増やしたくないのと地域を良くしたいので。

	内容
11	地域の人達が高齢化しているか、健康で長生きできるようになってもらいたい。子ども達とも関わり、地域で仲良くなりたい。

### 3. 社会貢献（2件）

	内容
1	時間がある時に役に立ちたい。
2	自分に出きる事で何か役立てることができるのならば活動してみたい。

### 4. 健康維持（4件）

	内容
1	健康管理を兼ね月に3~4回高尾山に上っています。前職の立場を活かし社会福祉や地域安全に関する活動に参加したいと思っています。
2	自分が高齢になり、何よりも健康でありたいと常に思うようになった。
3	健康な生活を希望しているから。
4	無理ない程度に体も動かしていきたい。

### 5. 時間に余裕があるから（1件）

	内容
1	定年後であれば何かやってみみたい気がします。

### 6. 身近で関心・興味がある（5件）

	内容
1	興味のあることだから（他1件）。
2	まずは身近なところからなので。
3	気軽に参加できそうだから。
4	自分がすぐに参加できそうなものだから。
5	地域の人が楽しんだり、健康であることは良い町になりそうだし、自分が安心して暮らせることにつながると思うから。

### 7. 仕事をしていてかいは資格があるから（6件）

	内容
1	健康管理を兼ね月に3~4回高尾山に上っています。前職の立場を活かし社会福祉や地域安全に関する活動に参加したいと思っています。
2	周りからの情報を得るためには必要。現在、仕事（ヘルパー）をしているので自分自身の事ばかりでなく他の人達に対して活かせるのではと思っています。
3	薬剤師として何かお手伝いできることがあれば参加したいと思う。
4	自分の専門域なので。
5	看護師なので、機会があれば、できることがあれば参加してみたい。
6	自分の経験が役に立つのではないかと、思うので。

### 8. 街の美化のため（0件）

### 9. 時間に余裕がなく、できない (3件)

	内容
1	いつまでも元気でいたいから。でも今は介護のため参加できない。
2	今は身の回りに起きることに対処することと、自身の楽しみで全ての時間(余暇)が費やされているので、今後考えていきたい。
3	好きなこと。日常のこと。苦でないことならできるし、したいと思っている。実際には時間がなかなかとれない。

### 10. 病気・高齢だからできない (4件)

	内容
1	高齢者のため(他1件)。
2	身体の調子が良くなかったから。頸椎、腰、ヘルニア、胸椎の手術の不具合。
3	前々からボランティア活動をしたいと思っていたのですが、今は自分が術後で思うように動けないため、元気になったら地域の住みやすい町づくりに協力できればと思います。特に子ども達を守れるような。
4	血圧が高く、降圧剤服用中のため。

### 11. 参加する気はあるが方法がわからない (1件)

	内容
1	具体的な活動内容を知らないため。

### 12. その他 (2件)

	内容
1	町会単位では知り合いも少なく参加しにくい。近所の数人とおしゃべりが今一番集まりやすいのでその程度のグループに場所を作って欲しい。
2	障害者となって、見えてきた物がある。車椅子生活で手足はリウマチで動かすのが、口だけは動いている。今の私にできる事がないのか1度きりの人生を大切に前向きに行きたい。

### (3) 『地域包括ケアシステムの取組等』に対する意見・要望

『地域包括ケアシステムの取組等』に対して寄せられた意見・要望は、次のとおりである。

#### ■ 『地域包括ケアシステムの取組等』に対する意見・要望

意見の内容	件数
1. 取組の周知について	11
2. 市への意見・要望について	21
3. 地域住民とのつながりについて	4
4. 参加しやすい活動やメニューや仕組みについて	1
5. 今自分がやることがない	0
6. 健康について	1
7. 取組の提案について	9
8. 取組への期待について	6
9. 守秘義務について	0
10. 相談窓口について	0
11. 多世代や異属性間での交流について	0
12. 地域防犯・防災について	0
13. サービスや手続きについて	0
14. 医療について	1
15. その他	9

#### 1. 取組の周知について（11件）

	年代	内容
1	35～39歳	全ては情報が行き届いていればよいと思う。活用したい人も増えて、役割分担もうまくいくと考えます。現在どのような状態か分からなければ（知らなければ）何も始まらないと思います。
2	45～49歳	とても良い取り組みだと思う。生きることが楽しくなるような情報の提供を望みます。ただ近隣住民との交流は望んでいない人も多いと思う。いざという時は助け合う顔見知りではあるがわざわざ集まって話す（必然性があれば別だが）のはどうか。必然性が欲しい。働き盛りはその時間すら厳しい。自治会も誰が会長になるのか毎回もめる。結局高齢者で時間があり、まだ動ける人がなっていると思う。
3	45～49歳	一概に言えないが、行政の取組みは必要不可欠な反面、非効率で無駄が多い印象がある。全てを網羅しようとしなくて、1番ニーズがある事に特化して、その情報を住民に知らせて欲しい。
4	50～54歳	「地域包括ケアシステム」の具体的な取り組みや、今後の取り組みなど、あまり知りません。若い人にも知られるよう、情報提供の方法を考えてみてはどうでしょうか。
5	55～59歳	「包括ケア」にお世話になっている（実際に「利用している」「依頼している」）人以外は実情（その存在）を知らないのではないか。広報活動等により、周知を図った方が現実問題として「包括ケア」を必要としている人が更に利用できるのではないか。

	年代	内容
6	55～59 歳	子どもが公立の中学校だったので、在学中は地域の人との交流が多かったが、卒業後はなかなか地域のイベントにも参加しなくなってしまい、つきあいも少なくなってしまう。子どもの小さい頃は地域とのつながりも多かったが、交流は、高校、大学へと進学後はあまりない。コンピュータも得意ではないので、市政だよりや公報などがとてもありがたい情報源だ。スマホ社会だがお年寄りを持っていない人も多いので、そのような年齢層の人々にも情報が行き渡るようにして欲しい。ホームページは開けない！！
7	60～64 歳	日常生活上の困難を抱えていても、どこに相談すればよいのか分からない、という声を多く耳にします。システムの存在自体がまだ周知されていないと感じます（他 1 件）。また、需要に対してスタッフの数、資質にも物足りなさを感じます。システムに関わるスタッフ、組織の数を増やし、研修会も充実させる、地域のニーズの掘り起しにもっと力を注ぐ必要があると思います。
8	75 歳以上	誰でも参加できる健康維持のための体操などを行う会を設けたり、そのような情報を広く伝えていただけるとよいと思います。
9	75 歳以上	チラシ、インターネット等でシステムの概要を教えてもらいたい（他 1 件）。相談ごとは、何でも、この窓口、電話で対応できるとよいかな。相談別の Q&A があるといい。こういう相談は、システムのこういう組織を通して解決に向います等の例があるといい。

## 2. 市への意見・要望について（21件）

	年代	内容
1	20～24 歳	かかりつけ医をもたず大学病院に直接来る人が多い。かかりつけ医に簡単な症状を相談する意識付けの普及を行って欲しい。
2	30～34 歳	地域のイベント等、皆が参加しやすい行事を通じてお互いのことを知っていくことが第一歩かと思います。ただ、そこに割く時間と労力、メリットを感じられない。課題は多いと思います。
3	40～44 歳	麻生区は交通が不便なところが多いです。駅から遠い、バスが少ない。坂が多い。さらにお店、コンビニ、スーパー、ファミレス等も他区より少ないです。しかし、むやみに緑を減らして便利さのために開発するのではなく、マンパワーでフットワーク軽く、地域をめぐるシステムと人材が育って欲しいです。
4	40～44 歳	高齢者の孤独死をなくす努力をして欲しい。
5	40～44 歳	支え合い、助け合いは必要だと思うが、就業をして地域で活動できる時間が少ししか取れない市民が参加しづらくなってしまっているのでは本末転倒ではないか。ボランティア精神やなにのっとなるのではなく、ある程度公的な機関の主導の元、気軽に地域に貢献できる仕組みづくりが大切ではないでしょうか。
6	50～54 歳	川崎市がこのような取組みを行っていることを知り、将来への不安が軽減された。

	年代	内容
7	50～54 歳	出来るだけ多くの方が何らかの方法で地域に関わる社会になると良いと心から願っています。今のままでは子どもたちに申し訳ないです。これだけ多様化、細分化した社会ですと、全てを把握することは無理だとは思いますが、横のつながりを諦めずに大切にして情報交換や意見会などしながら超高齢化に立ち向かっていかなくてはと思います。関心を持つこと、好奇心を持つことだと思います。地元愛も役に立つと思います。奇をてらうのではなく、皆が何を求めているかを追求して欲しいと思います。
8	50～54 歳	一人暮らしをしている川崎市内在住の母は、介護認定を受けずに生活しています。それを良しとしているのだから仕方がないと見守っていますが、住まい、医療、生活支援は必要になってきており、認定を受けていない人でも支えてもらえるシステムがあったらいいと思います。
9	55～59 歳	財政費への負担を少なくすることが必要。行政で行っても非効率で無駄。
10	55～59 歳	何をやっているのか分かりません（他 1 件）。
11	55～59 歳	離れて暮らす高齢の母を見ていると、サービスを受けたくても、型にはまったサービス内容で受けられず、いつも満足感がないまま料金を払っています。また、システムも大事ですが、個々のスキルをもう少し統一感がある方が良くと思います。ヘルパーさんの質の向上も含めて、取り組む必要があると思います。高齢になると特に、外との接点が（ご近所）少なくなるので、書類も行政の方が、直接訪問して、説明するなどしたらよいかと思います。
12	60～64 歳	行政側の負担が大きくなり過ぎない事を期待します。（財政影響です）。
13	60～64 歳	コーディネーターは行政側の職員であるべき。
14	60～64 歳	誰もが安心して暮らせるための取組を進めるため、地域全体でそれぞれが適切な役割分担により取組むことが大切。
15	60～64 歳	よく分からない。よく知らない。地域包括ケアシステムかどうか、分かりませんが、病院にいるそのような名称の人は、不必要だと思います。暇そうにしているくせ、余計なことをいうだけでラチがあきません。その費用を介護士さんにまわしてあげて欲しいです。介護士さんの賃金は安すぎる！と思います。
16	65～69 歳	近所に一人暮らしの男性（70 代くらい）がいますが、今月は「お金が足りない」と言って近所の方に現金（何百円単位ですが）や食べ物（和菓子 1 個程度）を借りにくる事があります。そのような方の所には民生委員等の方が訪問することはあるのでしょうか。その方本人は穏やかな方で問題を起こすことはありませんが、健康面に何かあった時は心配です。定期的に見守りなどがあれば近所の者として安心です。
17	65～69 歳	高齢者対応は、必要であるが、全世代に適応できるシステムを考える事が世代間のコミュニケーションも可能にするので、全世代を見据えたシステムも考えて欲しい。
18	70～74 歳	どのような取組みをしているかがよく分からないので参加しにくい。
19	70～74 歳	積極的な活動（市職員）によつて的確な状況を把握すること。外部委託して、実質的な状況把握は委託職員だけとなる事を避ける事。
20	70～74 歳	現在健康であり、身近に感じない。ケアシステムの存在と情報を、アンケートの様に個別に発信していただきたい。

### 3. 地域住民とのつながりについて（4件）

	年代	内容
1	45～49 歳	とても良い取り組みだと思う。生きることが楽しくなるような情報の提供を望みます。ただ近隣住民との交流は望んでいない人も多いと思う。いざという時は助け合う顔見知りではあるがわざわざ集まって話す（必然性があれば別だが）のはどうか。必然性が欲しい。働き盛りはその時間すら厳しい。自治会も誰が会長になるのか毎回もめる。結局高齢者で時間があり、まだ動ける人がなっていると思う。
2	50～54 歳	出来るだけ多くの人が何らかの方法で地域に関わる社会になると良いと心から願っています。今のままでは子どもたちに申し訳ないです。これだけ多様化、細分化した社会ですと、全てを把握することは無理だとは思いますが、横のつながりを諦めずに大切にして情報交換や意見会などしながら超高齢化に立ち向かっていかななくてはと思います。関心を持つこと、好奇心を持つことだと思います。地元愛も役に立つと思います。奇をてらうのではなく、皆が何を求めているかを追求して欲しいと思います。
3	60～64 歳	今までどちらかと言うと地域活動にはあまり積極的ではなかった理由の一つに、人間関係があまり濃厚になるとわずらわしいという気持ちがありました。情報を得たいという気持ちはあるので、SNS など使えるとよいかと思います。少しずつ、自分にも参加できそうなイベントなどそこへの参加から何か自分に出来る事を見つけられたら良いなとは思っています。
4	70～74 歳	北欧のように先ず、全世帯がいずれかのかかりつけ医を登録し、普段からコミュニケーションをとっておけるように体制をつくる必要があるのではないか。同様に全世帯がいずれかの地域包括センターに登録し、いざという時にはお互いに連絡が取り合えるように普段から出来る限り顔なじみになっておくことが必要ではないかと思う。情報量ばかり多くても、いざという時には混乱して何の役にも立たない。

### 4. 参加しやすい活動やメニューや仕組みについて（1件）

	年代	内容
1	75 歳以上	誰でも参加できる健康維持のための体操などを行う会を設けたり、そのような情報を広く伝えていただけるとよいと思います。

### 5. 今自分がやれることがない（0件）

### 6. 健康について（1件）

	年代	内容
1	65～69 歳	地域包括ケアシステムの趣旨はおぼろげには理解出来ました。それを使う時に窓口となる電話番号やインターネットのホームページがあれば身近に感じられると思います。どんな場合にどう連携するのかイラストで表示とか。スケールが大きすぎてイメージしにくいです。

### 7. 取組の提案について（9件）

	年代	内容
1	20～24 歳	電子でもできるようにした方がよい。
2	45～49 歳	特定プラン実施の人的資源として在宅定年退職者から有志を募ることが考えられる。時間や特技の提供を考えている人は少なくないと思われる。ひと工夫して舞台に引き出す必要あり。

	年代	内容
3	55～59 歳	離れて暮らす高齢の母を見ていると、サービスを受けたくても、型にはまったサービス内容で受けられず、いつも満足感がないまま料金を払っています。また、システムも大事ですが、個々のスキルをもう少し統一感がある方が良いと思います。ヘルパーさんの質の向上も含めて、取り組む必要があると思います。高齢になると特に、外との接点が（ご近所）少なくなるので、書類も行政の方が、直接訪問して、説明するなどしたらよいかと思ひます。
4	60～64 歳	今までどちらかと言うと地域活動にはあまり積極的ではなかった理由の一つに、人間関係があまり濃厚になるとわずらわしいという気持ちがありました。情報を得たいという気持ちはあるので、SNS など使えたらよいかと思ひます。少しずつ、自分にも参加できそうなイベントなどそこへの参加から何か自分に出来る事見つけられたら良いなと思ひます。
5	60～64 歳	誰もが安心して暮らせるための取組を進めるのに地域全体でそれぞれが適切な役割分担により取組むことが大切。
6	65～69 歳	誰もが経験する老い、衰え、病気等になる以前に健康な状況のうちに、様々な、ケア施設等でボランティア等を行なって、その時間なり、日数等をポイント化し、健常なうちに、そのポイントを貯蓄し、将来自分自身が介護等他の人の支援が必要になった時、それまでに積んでおいたポイントを利用できるようなシステムが有ると良いのではないのでしょうか。
7	75 歳以上	活動している内容について、得られるサービスについて等説明会を催して欲しい。
8	75 歳以上	誰でも参加できる健康維持のための体操などを行う会を設けたり、そのような情報を広く伝えていただけるとよいと思ひます。
9	75 歳以上	チラシ、インターネット等でシステムの概要を教えてもらいたい。相談ごとは、何でも、この窓口、電話で対応できるとよいかな。相談別の Q&A があるといい。こういう相談は、システムのこういう組織を通して解決に向います等の例があるといい。

## 8. 取組への期待について（6件）

	年代	内容
1	30～34 歳	地域のイベント等、皆が参加しやすい行事を通じてお互いのことを知っていくことが第一歩かと思ひます。ただ、そこに割く時間と労力、メリットを感じられない。課題は多いと思ひます。
2	30～34 歳	とても良い事だと思ひます。継続して下さい。
3	40～44 歳	支え合い、助け合いは必要だと思うが、就業をして地域で活動できる時間が少ししか取れない市民が参加しづらくなってしまふのでは本末転倒ではないか。ボランティア精神や性善説にのっとるのではなくある程度公的な機関の主導の元、気軽に地域に貢献できる仕組みづくりが大切ではないのでしょうか。
4	50～54 歳	「地域包括ケアシステム」の具体的な取り組みや、今後の取り組みなど、あまり知りません。若い人にも知られるよう、情報提供の方法を考えてみてはどうでしょうか。
5	70～74 歳	自分が高齢になり助けていただく身になっているのですべて受身になっている。しかし何か出来るのであれば参加したい気持ちはある。情報不足というか関心が薄いというかかかわってこなかった。（以前、60 歳代には積極的に出していたが）。

	年代	内容
6	75歳以上	地域包括支援センターを利用中であり心強く思っています。

9. 守秘義務について（0件）

10. 相談窓口について（0件）

11. 多世代や異属性間での交流について（0件）

12. 地域防災・防犯について（0件）

13. サービスや手続きについて（0件）

14. 医療について（1件）

	年代	内容
1	20～24歳	かかりつけ医をもたず大学病院に直接来る人が多い。かかりつけ医に簡単な症状を相談する意識付けの普及を行って欲しい。

15. その他（9件）

	年代	内容
1	40～44歳	高齢者の孤独死をなくす努力をして欲しい。
2	50～54歳	知らないのでコメントできない。
3	50～54歳	一人暮らしをしている川崎市内在住の母は、介護認定を受けずに生活しています。それを良しとしているのだから仕方がないと見守っていますが、住まい、医療、生活支援は必要になってきており、認定を受けていない人でも支えてもらえるシステムがあつたらいいと思います。
4	55～59歳	財政費への負担を少なくすることが必要。行政で行っても非効率で無駄！！
5	55～59歳	取り組んでいることが具体的に何なのかが分からないので解答のしようがない。
6	70～74歳	どのような取組みをしているかがよく分からないので参加しにくい。
7	70～74歳	他県の活動している人からその存在と大変さを聞いてそういう活動をしているのかとか、その存在をはじめて知った。本当に大変だなーと思った。
8	70～74歳	内容的にあまり理解できていないので特に意見はありません。
9	75歳以上	町内会活動/民生委員活動との連携一本化。

#### (4) 『川崎市地域福祉計画』に対する意見・要望

『川崎市地域福祉計画』に対して寄せられた意見・要望は、次のとおりである。

##### ■ 『川崎市地域福祉計画』に対する意見・要望

意見の内容	件数
1. 取組の周知について	19
2. 市への意見	41
3. 地域住民とのつながりについて	13
4. 参加しやすい活動やメニューや仕組みについて	5
5. 今自分がやれることはない	0
6. 健康について	6
7. 取組の提案について	20
8. 取組への期待について	12
9. 守秘義務について	0
10. 相談窓口について	0
11. 地域防犯・防災について	0
12. サービスや手続きについて	0
13. 医療について	3
14. その他	13

#### 1. 取組の周知について（19件）

	年代	内容
1	35～39歳	全ては情報が行き届いていればよいと思う。活用したい人も増えて、役割分担もうまくいくと考えます。現在どのような状態か分からなければ（知らなければ）何も始まらないと思います。
2	45～49歳	とても良い取り組みだと思う。生きることが楽しくなるような情報の提供を望みます。
3	45～49歳	一概に言えないが、行政の取組みは必要不可欠な反面、非効率で無駄が多い印象がある。全てを網羅しようとしなくて、1番ニーズがある事に特化して、その情報を住民に知らせて欲しい。
4	50～54歳	「地域包括ケアシステム」の具体的な取り組みや、今後の取り組みなど、あまり知りません（他2件）。
5	55～59歳	「包括ケア」にお世話になっている（実際に「利用している」「依頼している」）人以外は実情（その存在）を知らないのではないか。広報活動等により、周知を図った方が現実問題として「包括ケア」を必要としている人が更に利用できるのではないか。
6	55～59歳	コンピュータも得意ではないので、市政だよりや公報などがとてもありがたい情報源だ。スマホ社会だがお年寄りを持っていない人も多いので、そのような年齢層の人々にも情報が行き渡るようにして欲しい。ホームページは開けない（他2件）。
7	60～64歳	住民がほとんど知らない。
8	75歳以上	情報を広く伝えていただけるとよいと思います（他4件）。
9	75歳以上	チラシ、インターネット等でシステムの概要を教えてもらいたい（他2件）。

## 2. 市への意見（41件）

	年代	内容
1	20～24 歳	かかりつけ医をもたず大学病院に直接来る人が多い（他2件）。
2	30～34 歳	地域のイベントに割く時間と労力、メリットを感じられない。課題は多いと思います（他2件）。
3	40～44 歳	麻生区は交通が不便なところが多いです。駅から遠い、バスが少ない。坂が多い。さらにお店、コンビニ、スーパー、ファミレス等も他区より少ないです。しかし、むやみに緑を減らして便利さのために開発するのではなく、マンパワーでフットワーク軽く、地域をめぐるシステムと人材が育って欲しいです。
4	40～44 歳	高齢者のための努力をして欲しい（他2件）。
5	40～44 歳	支え合い、助け合いは必要だと思うが、就業をして地域で活動できる時間が少ししか取れない市民が参加しづらくなってしまっているのでは本末転倒ではないか（他2件）。
6	50～54 歳	川崎市がこのような取組みを行っていることを知り、将来への不安が軽減された。
7	50～54 歳	出来るだけ多くの人何らかの方法で地域に関わる社会になると良いと心から願っています。今のままでは子どもたちに申し訳ないです（他2件）。
8	50～54 歳	住まい、医療、生活支援は必要になってきており、認定を受けていない人でも支えてもらえるシステムがあったらいいと思います（他2件）。
9	55～59 歳	アンケートには答えましたが、漠然としていて良く分からなかった。申し訳ありません。
10	55～59 歳	財政費への負担を少なくすることが必要（他2件）。
11	55～59 歳	何をやっているのか分かりません。
12	55～59 歳	離れて暮らす高齢の母を見ていると、サービスを受けたくても、型にはまったサービス内容で受けられず、いつも満足感がないまま料金を払っています（他2件）。
13	60～64 歳	行政側の負担が大きくなり過ぎない事を期待します。（財政影響です）。
14	60～64 歳	コーディネーターは行政側の職員であるべき。
15	60～64 歳	誰もが安心して暮らせるための取組を進めることが大切（他2件）。
16	60～64 歳	よく分からない。よく知らない。地域包括ケアシステムかどうか、分かりませんが、病院にいるそのような名称の人は、不必要だと思います。暇そうにしているくせ、余計なことをいうだけでラチがあきません。その費用を介護士さんにまわしてあげて欲しいです。介護士さんの賃金は安すぎると思います。
17	65～69 歳	近所に一人暮らしの男性（70代くらい）がいますが、今月は「お金が足りない」と言って近所の人に現金（何百円単位ですが）や食べ物（和菓子1個程度）を借りにくる事があります。そのような方の所には民生委員等の方が訪問することはあるのでしょうか。その方本人は穏やかな方で問題を起こすことはありませんが、健康面に何かあった時は心配です。定期的に見守りなどがあれば近所の者として安心です。
18	65～69 歳	高齢者対応は必要であるが、全世代に適応できるシステムを考える事が世代間のコミュニケーションも可能にするので、全世代を見ずえたシステムも考えて欲しい。
19	70～74 歳	よく分からないので参加しにくい（他2件）。

	年代	内容
20	70～74 歳	積極的な活動（市職員）によつて的確な状況を把握すること。外部委託して、実質的な状況把握は委託職員だけとなる事を避ける事。
21	70～74 歳	現在健康であり、身近に感じない。ケアシステムの存在と情報を、アンケートの様に個別に発信していただきたい。

### 3. 地域住民とのつながりについて（13件）

	年代	内容
1	45～49 歳	近隣住民との交流は望んでいない人も多いと思う。いざという時は助け合う顔見知りではあるがわざわざ集まって話す（必然性があれば別だが）のはどうか。必然性が欲しい。働き盛りはその時間すら厳しい。自治会も誰が会長になるのか毎回もめる。結局高齢者で時間があり、まだ動ける人がなっていると思う（他2件）。
2	50～54 歳	出来るだけ多くの人何らかの方法で地域に関わる社会になると良いと心から願っています。今のままでは子どもたちに申し訳ないです。これだけ多様化、細分化した社会ですと、関心を持つこと、好奇心を持つことだと思います。地元愛も役に立つと思います。奇をてらうのではなく、皆が何を求めているかを追求して欲しいと思います（他2件）。
3	55～59 歳	子どもが公立の中学校だったので、在学中は地域の人との交流が多かったが、卒業後はなかなか地域のイベントにも参加しなくなってしまい、つきあいも少なくなりました。子どもの小さい頃は地域とのつながりも多かったが、交流は、高校、大学へと進学後はあまりない。コンピュータも得意ではないので、市政だよりや公報などがとてもありがたい情報源だ（他2件）。
4	60～64 歳	今までどちらかと言うと地域活動にはあまり積極的ではなかった理由の一つに、人間関係があまり濃厚になるとわずらわしいという気持ちがありました。少しずつ、自分にも参加できそうなイベントなどそこへの参加から何か自分に出来る事見つけられたら良いなと思います（他2件）。
5	70～74 歳	北欧のように先ず、全世帯がいずれかのかかりつけ医を登録し、普段からコミュニケーションをとっておけるように体制をつくる必要があるのではないか。同様に全世帯がいずれかの地域包括センターに登録し、いざという時にはお互いに連絡が取り合えるように普段から出来る限り顔なじみになっておくことが必要ではないかと思う。情報量ばかり多くても、いざという時には混乱して何の役にも立たない。

### 4. 参加しやすい活動やメニューや仕組みについて（5件）

	年代	内容
1	75 歳以上	誰でも参加できる健康維持のための体操などを行う会を設けたり、広く伝えていただけるとよいと思います（他4件）。

### 5. 今自分がやれることはない（0件）

## 6. 健康について（6件）

	年代	内容
1	65～69 歳	地域包括ケアシステムの趣旨はおぼろげには理解出来ました。それを使う時に窓口となる電話番号やインターネットのホームページがあれば身近に感じられると思います。どんな場合にどう連携するのかイラストで表示とか。スケールが大きすぎてイメージしにくいです。
2	75 歳以上	誰でも参加できる健康維持のための体操などを行う会を設けるとよいと思います（他4件）。

## 7. 取組の提案について（20件）

	年代	内容
1	20～24 歳	電子でもできるようにした方がよい（ただし選択は可能）。
2	45～49 歳	本当に必要な人のケアだけすればよいのではないか。それすらできていないなら無理な話。
3	55～59 歳	高齢になると特に、外との接点が（ご近所）少なくなるので、書類も行政の方が、直接訪問して、説明するなどしたらよいかと思います（他2件）。
4	60～64 歳	少しずつ、自分にも参加できそうなイベントなどそこへの参加から何か自分に出来る事を見つけられたら良いなどは思います（他2件）。
5	60～64 歳	誰もが安心して暮らせるための取組を進めるのにそれぞれが適切な役割分担により取組むことが大切（他2件）。
6	65～69 歳	誰もが経験する老い、衰え、病気等になる以前に健康な状況のうちに、様々な、ケア施設等でボランティア等を行なって、その時間なり、日数等をポイント化し、健常なうちに、そのポイントを貯蓄し、将来自分自身が介護等他の人の支援が必要になった時、それまでに積んでおいたポイントを利用できるようなシステムが有ると良いのではないのでしょうか。
7	75 歳以上	誰でも参加できる会を設けたり、そのような情報を広く伝えていただけるとよいと思います（他4件）。
8	75 歳以上	相談ごとは何でも、一つの窓口、電話で対応できるとよい。相談別の Q&A があるとよい。このような相談は、システムの組織を通して解決に向います等の例があるとよい（他2件）。

## 8. 取組への期待について（12件）

	年代	内容
1	30～34 歳	地域のイベント等、皆が参加しやすい行事を通じてお互いのことを知っていくことが第一歩かと思います（他2件）。
2	30～34 歳	とても良い事だと思います。継続して下さい。
3	40～44 歳	ボランティア精神や性善説にのっとるのではなくある程度公的な機関の主導の元、気軽に地域に貢献できる仕組みづくりが大切ではないでしょうか（他2件）。
4	50～54 歳	若い人にも知られるよう、情報提供の方法を考えてみてはどうでしょうか（他2件）。
5	70～74 歳	自分が高齢になり助けていただく身になっているのですべて受身になっている。しかし何か出来るのであれば参加したい気持ちはある。情報不足というか関心が薄いというかかわってこなかった（以前、60 歳代には積極的に出たが）。
6	75 歳以上	地域包括支援センターを利用中であり心強く思っています。

9. 守秘義務について（0件）

10. 相談窓口について（0件）

11. 地域防犯・防災について（0件）

12. サービスや手続きについて（0件）

13. 医療について（3件）

	年代	内容
1	20～24歳	かかりつけ医をもたず大学病院に直接来る人が多い（他2件）。

14. その他（13件）

	年代	内容
1	40～44歳	高齢者の孤独死をなくす努力をして欲しい。
2	50～54歳	知らないのでコメントできない。
3	50～54歳	一人暮らしをしている川崎市内在住の母は、介護認定を受けずに生活しています。それを良しとしているのだから仕方がないと見守っています（他2件）。
4	55～59歳	財政費への負担を少なくすることが必要。行政で行っても非効率で無駄。
5	55～59歳	取り組んでいることが具体的に何なのかが分からないので解答のしようがない。
6	70～74歳	他県で活動している人からその存在と大変さを聞いてそういう活動をしているのかとか、その存在をはじめて知った。本当に大変だなーと思った。
7	70～74歳	内容的にあまり理解できていないので特に意見はありません。
8	70～74歳	どの様な取組みをしているかがよく分からない（他2件）。
9	75歳以上	町内会活動/民生委員活動との連携一本化。

資料

# アンケート調査票

---



## 地域の生活課題に関する調査

みなさまには、日頃から川崎市の市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。現在、本市では『第5期川崎市地域福祉計画』の見直しに向け、市民や団体活動を行っている方々の（意識）調査を実施しております。

この（意識）調査は、『第5期川崎市地域福祉計画』の見直しに関わる調査の一つとして、無作為に選ばせていただきました市内在住の20歳以上の方を対象に、地域における生活課題などについての意識やご意見、ご要望をおたずねするものです。

お答えいただいた内容は、すべて統計的に処理し、行政上の基礎資料として活用することを目的としていますので、他の目的に使用することはありません。また、個々のご回答やプライバシーに関わる内容が公表されることは一切ありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和元年11月 川崎市長 福田 紀彦

### 【記入にあたってのお願い】

1. ご回答は、最初から順番にお答えください。
2. ご回答は、あてはまる選択肢の番号に○印をつけてください。
3. 質問によっては、○をつける選択肢の番号を「1つに○」「あてはまるものすべてに○」などと指定している場合は、指定の範囲内で○をつけてください。また、「その他」をお選びいただいた場合には、お手数ですが（ ）内に具体的な内容をご記入ください。
4. 質問によっては、ご回答いただく方が限られる場合がありますので、矢印（→）やことわり書きなど、次にご回答いただく質問番号への案内にご注意ください。
5. ご記入が済みましたら、誠に恐縮ですが、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れて、**12月20日（金）まで**にポストに投函してください。

### 【調査結果の公表】

この調査の結果は、地域福祉実態調査概況のうち「地域の生活課題に関する調査概況」として、川崎市ホームページ（<http://www.city.kawasaki.jp/>）に掲載します。

本調査について、ご不明な点・ご質問等がございましたら、お問い合わせください。

#### ■問い合わせ先

川崎市健康福祉局地域包括ケア推進室地域福祉担当

電話番号：044-200-2626（直通）

FAX：044-200-3926

〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地

E-mail：40keasui@city.kawasaki.jp



問7 一緒に暮らしているご家族はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 祖父母	5. 兄弟姉妹	9. いない(一人暮らし)
2. 父	6. 子	10. その他
3. 母	7. 孫	( )
4. 配偶者	8. その他親族	

問8 一緒に暮らしているご家族(あなたを含む)のうち、以下の項目に該当する方はいらっしゃいますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家族の中に65歳以上の方がいる
2. 家族の中に介護認定を受けている方がいる
3. 家族の中に障害者手帳(身体・療育・精神保健福祉)の交付を受けている方がいる
4. 家族の中に小学校就学前の子どもがいる
5. 家族の中に小学生の子どもがいる
6. 家族の中に中学生以上の18歳未満の子どもがいる
7. いずれにも該当する家族がいない

問9 就業の状況はどれに該当しますか。(ア及びイまたはウそれぞれ1つに○)

ア 就業状況

1. 就業している
2. 就業していない

イ 就業形態

1. 常勤・フルタイム
2. パート・アルバイト(通勤あり)
3. パート・アルバイト(通勤なし、内職等)
4. その他( )

ウ 就業していない理由

1. 家事専業等	3. 学 生
2. 定年退職者	4. その他( )

問10 あなたの健康状態は、いかがですか。(1つに○)

1. 非常に健康
2. ほぼ健康
3. あまり健康でない
4. 健康でない



《問12-1は、問12で「1」～「3」のいずれかをお答えの方におたずねします》

問12-1 計画は何で知りましたか。(あてはまるものすべてに○)

- |                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 市政だより             | 6. 交流会・ワークショップ        |
| 2. 市や区のホームページ        | 7. シンポジウム             |
| 3. チラシ・パンフレット        | 8. 講演・講習会             |
| 4. 市や区の計画での取り組みに参加した | 9. ロコミ(友人・知人や近隣の方からの) |
| 5. 団体等の会合            | 10. その他( )            |

### 【あなたがお住まいの地域についておたずねします】

[問13以降は全員の方がお答えください]

問13 あなたは、「近所」の範囲を、どの程度だとお考えですか。(1つに○)

- |                         |
|-------------------------|
| 1. 両隣                   |
| 2. 向こう三軒両隣程度            |
| 3. 同じ集合住宅(アパート、マンションなど) |
| 4. 歩いて5分(およそ100m)以内程度   |
| 5. 歩いて10分(およそ200m)以内程度  |
| 6. その他( )               |

問14 あなたは、ふだんご近所の方とどの程度のつきあいをしていますか。(1つに○)

- |                     |                |
|---------------------|----------------|
| 1. 家族のように親しくつきあっている | 4. あいさつをする程度   |
| 2. 家に行き来したり、親しく話をする | 5. ほとんどつきあいが無い |
| 3. ときどき話をする程度       | 6. その他( )      |

問15 あなたは、近所つきあいや地域住民同士の交流について、どの程度必要だとお考えですか。(1つに○)

- |   |
|---|
| 1. 地域で助け合うことは大切であり、そのためにもふだんからの交流は必要だ     |
| 2. いざという時に助け合いたいので、多少面倒でもふだんから交流しておいた方がよい |
| 3. 困った時は当然助け合うべきだが、日ごろの交流は面倒なのであまりしたくない   |
| 4. 地域での助け合いは必要だと思わないが、地域で交流すること自体は大切だ     |
| 5. 地域との交流より、気の合った仲間やグループで交流し、その中で助け合えばよい  |
| 6. 困った時は行政などが支援すべきで、地域での助け合いや日ごろの交流は必要ない  |
| 7. その他( )                                 |

問16 現在、町内会・自治会に加入していますか。(1つに○)

- |                           |              |
|---------------------------|--------------|
| 1. 加入している                 | (→ 問17へ進む)   |
| 2. 加入していたが、退会した・加入したことはない | (→ 問16-1へ進む) |

《問16-1は、問16で「2. 加入していたが、退会した・加入したことはない」とお答えの方におたずねします》

問16-1 現在加入していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- |                         |
|-------------------------|
| 1. 行事に参加できない            |
| 2. きっかけがない              |
| 3. 特に不便を感じない・必要性を感じない   |
| 4. 集合住宅の管理組合に加入している     |
| 5. 仕事、子育て、介護等が忙しくて時間がない |
| 6. 地域のつきあいがわずらわしい       |
| 7. 会費に見合うメリットがない        |
| 8. 加入の仕方がわからない          |
| 9. 面倒だから                |
| 10. 関心がない               |
| 11. その他 ( )             |

[問17以降は全員の方がお答えください]

問17 あなたは、助け合いをすることができる「地域」の範囲を、どの程度だとお考えですか。(1つに○)

- |              |              |         |
|--------------|--------------|---------|
| 1. 隣近所程度     | 4. 中学校区程度    | 7. それ以上 |
| 2. 町内会・自治会程度 | 5. お住まいの区内程度 | 8. その他  |
| 3. 小学校区程度    | 6. 川崎市内程度    | ( )     |

問18 あなたは、その「地域」において、いま何が問題だと感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 健康づくりに関する問題(ストレス、食育、生活習慣病など)
2. 高齢者に関する問題(介護、権利擁護、生きがいづくり、見守りなど)
3. 障害児・者に関する問題(地域生活支援、権利擁護、活動支援、障害に対する理解など)
4. 子どもに関する問題(育児不安、子育て支援、教育、しつけ、遊び場づくりなど)
5. 地域防犯・防災に関する問題(交通安全、子どもの見守り、火の用心、防災訓練など)
6. 地域のつながりに関する問題(近所づきあい、人と人との関係が希薄など)
7. 一人ひとりに必要な制度や地域活動が十分でないことが原因と考えられる問題
8. 家庭不安や心配ごとを誰にも相談できない人がいるという問題
9. 適切な情報が得られない、あることを知らない人がいるという問題
10. 地域活動や団体活動を行う拠点や場所がない(足りない)という問題
11. その他( )
12. 特に問題だと感じていることはない(→ 問19へ進む)

《問18-1は、問18で「1」～「11」のいずれかをお答えの方におたずねします》

問18-1 その問題は、具体的にどのようなことですか。事例などがあれば教えてください。

..... ..... .....
-------------------------

[問19以降は全員の方がお答えください]

問19 あなたは、家庭生活の中で次のような不安を感じたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 身の回りのことが、いつまで自分でできるかわからない
2. 介護が必要な家族を家庭で介護できる自信がない
3. 経済的に生活できるか不安である
4. 病気になったときに頼れる人が身近にいない
5. 子育てがうまくできるか不安である
6. その他( )

問20 あなたの心配ごとを解決するために必要だと思われることはなんですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 身近でいつでも相談できるところがあること
2. 保健や福祉のサービスの利用料が低額であること
3. 保健や福祉のサービスの利用手続きが簡単であること
4. 緊急時にすぐに手助けをしてくれる人が身近にいること
5. 利用できる保健や福祉のサービスの種類がたくさんあること
6. 保健や福祉に関する情報を簡単に入手できること
7. 保健や福祉のサービスの質を評価した情報があること
8. その他 ( )
9. 特に何も必要だとは思わない

問21 あなたは、日常生活で心配ごとや悩みごとがあるとき、誰に相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                       |                        |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 同居している家族           | 8. 地域包括支援センター等専門相談機関   |
| 2. 友人・知人              | 9. 民生委員児童委員            |
| 3. 離れて暮らしている家族        | 10. 社会福祉協議会            |
| 4. 区役所地域みまもり支援センターの職員 | 11. 民間の相談機関(電話相談を含む)   |
| 5. かかりつけの医療機関         | 12. インターネット            |
| 6. 近所の人               | 13. その他 ( )            |
| 7. 福祉施設やサービス提供事業所の職員  | 14. 相談する人はいるが、誰にも相談しない |
|                       | 15. 相談する人がいない          |

問22 あなたには、友人と呼べる人がいますか。(1つに○)

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 1. いる (→ 問22-1へ進む) | 2. いない (→ 問23へ進む) |
|--------------------|-------------------|

《問22-1、問22-2は、問22で「1. いる」とお答えの方におたずねします》

問22-1 何人くらいいますか。

人
---

問22-2 その中で、実際に会ったことのないインターネット上の友人はいますか。

(1つに○)

- |       |        |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

[問23以降は全員の方がお答えください]

問23 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になり、助けを必要とするとき、誰に手助けを頼みたいですか。(3つまでに○)

- |              |                      |
|--------------|----------------------|
| 1. 親 族       | 8. 区役所・市役所           |
| 2. 友人・知人     | 9. 地域の医療機関           |
| 3. 近所の人      | 10. ケアマネジャーやホームヘルパー等 |
| 4. 民生委員児童委員  | 11. その他( )           |
| 5. 社会福祉協議会   | 12. 誰もいない            |
| 6. 地域の活動団体   | 13. 頼みたくない           |
| 7. NPO等の民間団体 |                      |

問24 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になったとき、地域の人たちにどんな手助けをしてほしいですか。(3つまでに○)

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| 1. 安否確認の見守り・声かけ  | 8. 外出の付添い        |
| 2. 趣味など世間話の相手    | 9. 災害時の手助け       |
| 3. 子育て・介護などの相談相手 | 10. ゴミ出し・雨戸の開け閉め |
| 4. 炊事・洗濯・掃除などの家事 | 11. 電球交換や簡単な大工仕事 |
| 5. 草むしり、冷蔵庫内の整理  | 12. その他( )       |
| 6. ちょっとした買物      | 13. 特にない         |
| 7. 子どもの預かり       |                  |

問25 地域の高齢者や障害者、子育て家庭などが安心して暮らすことができるよう、地域の支え合いとして、あなたご自身ができることは何ですか。(3つまでに○)

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| 1. 安否確認の見守り・声かけ  | 8. 外出の付添い        |
| 2. 趣味など世間話の相手    | 9. 災害時の手助け       |
| 3. 子育て・介護などの相談相手 | 10. ゴミ出し・雨戸の開け閉め |
| 4. 炊事・洗濯・掃除などの家事 | 11. 電球交換や簡単な大工仕事 |
| 5. 草むしり、冷蔵庫内の整理  | 12. その他( )       |
| 6. ちょっとした買物      | 13. 特にない         |
| 7. 子どもの預かり       |                  |

問26 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(1つに○)

1. すでに制度を利用している
2. おおむね制度について知っている
3. 言葉は聞いたことはあるが、制度の内容は知らない
4. 知らない

問27 現在のあなたの生活状況・環境で、あなたやご家族が病気、けが、障害により、長期の医療や介護が必要となった場合に、病院には入院せず在宅で療養することは可能ですか。(1つに○)

1. 現在、在宅で療養している
2. 在宅で療養したいし、おそらく可能である
3. 在宅で療養したいが、おそらく不可能である
4. おそらく在宅で療養することは可能だがしたくない
5. おそらく在宅で療養することは不可能だし、したくない
6. その他 ( )

問28 人生の最終段階における医療について、意思表示の書面や家族での話し合いが必要だと思いませんか。(1つに○)

1. 意思表示の書面は必要であり、すでに作成している
2. 意思表示の書面は必要であるが、まだ作成していない
3. 意思表示の書面は作成していないが、家族で話し合っている
4. 意思表示の書面は必要ないが、家族で話し合う必要はある
5. 意思表示の書面は必要ないし、家族で話し合う必要もない
6. すべて家族にまかせるので必要ない
7. すべて医療者や病院にまかせるので必要ない
8. その他 ( )

問29 近年、誰にも気づかれずに死亡し、しばらくして発見されるという孤立死が社会問題と  
なっています。孤立死が生じる原因として、どれが大きな問題だと思いますか。(あてはま  
るものすべてに○)

1. 経済的に困窮している(お金がない)こと
2. 福祉や見守りなど行政の対応が不十分なこと
3. 地域の見守り体制が弱体化してきたこと
4. 一人暮らしや高齢者だけの世帯が増えていること
5. 本人が引きこもりがちな性格であること
6. 隣近所のつきあいが少なくなっていること
7. 家庭内のことに、他人が立ち入りにくいこと
8. 医療や介護が必要な高齢者が増加していること
9. その他( )
10. 特に問題はない
11. わからない

問30 孤立死を防ぐために、どのようなことが有効だと思いますか。特に有効だと思うものを  
5つまで選んで○をつけてください。(5つまでに○)

1. 地域住民による声かけ、見守り
2. 新聞・郵便配達等、民間の協力による情報共有
3. 民生委員児童委員による訪問、見守り
4. 水道、ガス、電気の利用に関する情報共有
5. 消防・警察・ごみ収集等、公的機関による確認
6. 定期的な電話や傾聴訪問等の話し相手
7. 地域で気軽に集えるサロン活動
8. 地域包括支援センター等による生活実態の把握
9. 配食等生活支援サービスを活用した見守り
10. 本人からの危険危機の通報
11. 機器による緊急通報システム
12. 介護保険等の各種福祉サービス事業所と連携した緊急時連絡網
13. その他( )
14. 特にない
15. わからない



《問31-2～問30-5は、問31で「14」とお答えの方におたずねします》

問31-2 あなたは、今後どのような活動なら参加したいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                  |                           |
|------------------|---------------------------|
| 1. 健康づくりに関する活動   | 8. お祭りやイベントに関する活動         |
| 2. 高齢者に関する活動     | 9. 地域安全に関する活動             |
| 3. 障害児・者に関する活動   | 10. 環境美化(ゴミ拾いなどを含む)に関する活動 |
| 4. 子育てに関する活動     | 11. 文化・芸術に関する活動           |
| 5. 医療に関する活動      | 12. スポーツ(運動会などを含む)に関する活動  |
| 6. 町内会・自治会に関する活動 | 13. その他( )                |
| 7. 社会福祉協議会に関する活動 | 14. 具体的にはわからない            |

問31-3 その理由は何ですか。具体的にお書きください。

----- -----
----------------

問31-4 参加される場合、活動可能な日はどのくらいですか。(1つに○)

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| 1. 週3回以上 | 3. 月2～3回 | 5. 月1回未満 |
| 2. 週1～2回 | 4. 月1回   |          |

問31-5 参加される場合、活動可能な時間はどのくらいですか。(1つに○)

- |                       |                  |
|-----------------------|------------------|
| 1. 平日日中(10時～17時)2時間以内 | 5. 休日日中2時間以内     |
| 2. 平日日中4時間以内          | 6. 休日日中4時間以内     |
| 3. 平日日中6時間以内          | 7. 休日日中6時間以内     |
| 4. 平日夜間(17時～20時)      | 8. 休日夜間(17時～20時) |

《問31-6～問31-7は、問31で「15」とお答えの方におたずねします》

問31-6 あなたが、地域活動やボランティア活動に参加したことがない理由は、どのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

- |                           |                         |
|---------------------------|-------------------------|
| 1. 仕事や家事が忙しく時間がない         | 8. 一度はじめると拘束されてしまう      |
| 2. きっかけがつかめない             | 9. 行政や事業者が行えばよい         |
| 3. 身近に活動グループや仲間がいない(知らない) | 10. 人と接するのが苦手           |
| 4. 健康に自信がない               | 11. 地域活動やボランティア活動はしたくない |
| 5. 家族や職場の理解が得られない         | 12. その他( )              |
| 6. 興味を持てる活動がない            | 13. 特に理由はない             |
| 7. 育児や介護を必要とする家族がいる       |                         |

問31-7 あなたは、どのような状況になれば、地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。(1つに○)

1. 活動する時間ができれば	6. 興味を持てる活動があれば
2. きっかけがあれば	7. ボランティア活動に参加していることが評価されるようになれば
3. 身近に活動グループや仲間がいれば	8. その他( )
4. 体力や健康に自信があれば	9. 地域活動やボランティア活動はしたくない
5. 家族や職場の理解が得られれば	

**【保健・福祉に関することについておたずねします】**

[問32以降は全員の方がお答えください]

問32 あなたは、次の保健や福祉の団体・施設等をご存知ですか。(ア～チの団体・施設等について1・2のいずれか1つに○)

ア. 社会福祉協議会	1. 知っている	2. 知らない
イ. 民生委員児童委員	1. 知っている	2. 知らない
ウ. 区役所地域みまもり支援センター (福祉事務所・保健所支所)	1. 知っている	2. 知らない
エ. 地域包括支援センター	1. 知っている	2. 知らない
オ. 老人クラブ	1. 知っている	2. 知らない
カ. いきいきセンター(老人福祉センター)	1. 知っている	2. 知らない
キ. いこいの家(老人いこいの家)	1. 知っている	2. 知らない
ク. 障害者相談支援センター	1. 知っている	2. 知らない
ケ. 地域療育センター	1. 知っている	2. 知らない
コ. 地域リハビリテーションセンター	1. 知っている	2. 知らない
サ. 聴覚障害者情報文化センター	1. 知っている	2. 知らない
シ. 視覚障害者情報文化センター	1. 知っている	2. 知らない
ス. 児童相談所	1. 知っている	2. 知らない
セ. 地域子育て支援センター	1. 知っている	2. 知らない
ソ. こども文化センター	1. 知っている	2. 知らない
タ. 福祉パル(区社会福祉協議会)	1. 知っている	2. 知らない
チ. 総合福祉センター(エポックなかはら)	1. 知っている	2. 知らない

問33 あなたは、地区・区社会福祉協議会についてどの程度ご存知ですか。(1つに○)

- |                           |             |
|---------------------------|-------------|
| 1. 名前も活動内容も知っている          |             |
| 2. 名前を知っており、活動内容も少しは知っている |             |
| 3. 名前は知っているが、活動内容は知らない    | } (→問34へ進む) |
| 4. 名前も活動内容も知らない           |             |

《問33-1は、問33で「1」または「2」とお答えの方におたずねします》

問33-1 あなたは、地区・区社会福祉協議会の活動として、今後どのようなことを期待していますか。(3つまでに○)

- |                    |                       |
|--------------------|-----------------------|
| 1. 在宅福祉サービスの充実     | 6. 住民懇談会等の小地域活動の促進    |
| 2. 子育て支援の充実        | 7. NPOやボランティアグループへの支援 |
| 3. ボランティア活動の促進     | 8. 福祉関係団体の活動支援        |
| 4. 各種福祉講座・教室の開催    | 9. その他( )             |
| 5. 身近な相談の場としての機能強化 | 10. 特にない              |

[問34以降は全員の方がお答えください]

問34 あなたは、保健や福祉の情報をどこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                                     |                |
|-------------------------------------|----------------|
| 1. 市の広報                             | 8. 町内会・自治会の回覧板 |
| 2. インターネットのホームページ                   | 9. 友人・知人       |
| 3. チラシ・パンフレット                       | 10. 学 校        |
| 4. 新聞・テレビ                           | 11. 近 隣        |
| 5. 民生委員児童委員                         | 12. 団体等の広報紙等   |
| 6. 社会福祉協議会                          | 13. その他( )     |
| 7. 区役所地域みまもり支援センター<br>(福祉事務所・保健所支所) |                |

問35 あなたは、ふだんパソコンや携帯電話でインターネットにアクセスしたり、メールのやりとりをどのくらいしていますか。(1つに○)

- |             |           |           |
|-------------|-----------|-----------|
| 1. ほとんど毎日   | 3. 週に1日程度 | 5. ほとんどない |
| 2. 週に2~3日程度 | 4. 月に数日程度 |           |

## 【東日本大震災後の意識の変化についておたずねします】

問36 平成23年3月に起きた東日本大震災の後、近年、毎年各地で様々な災害が発生していますが、あなたの意識に変化がありましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 防災意識が高まった
2. 節電意識が高まった
3. 家族の絆の大切さを認識した
4. 地域の絆の大切さを認識した
5. 友人等との絆の大切さを認識した
6. 健康意識が高まった
7. 避難場所確保の必要性を感じた
8. 正しい情報を得ることの必要性を感じた
9. その他 ( )
10. 特にない

問37 平成23年3月に起きた東日本大震災の後、近年、毎年各地で様々な災害が発生していますが、あなたが新たに始めたり強化したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 防災グッズの準備、食料や水の備蓄など
2. 建物の補強
3. 家具の固定
4. 停電時の対策
5. 緊急時における家族との連絡方法の確認
6. 近くの学校や公園などの避難場所の確認
7. 学校や勤め先からの帰宅ルートの確認
8. 子どもや高齢者などの世話を誰かに頼む
9. 隣近所の人へのあいさつや声かけ
10. 地域で主体的に防災につながる活動を行った
11. 防災訓練への参加
12. ボランティア活動への参加
13. その他 ( )
14. 特にない

問38 東日本大震災から8年が経ちましたが、震災直後と比べて、現在のあなたの意識は変化しましたか。(1つに○)

1. 現在も、震災直後と変わらず防災への備えなどを意識している
2. 震災直後は、防災などへの意識が高まったが、現在は薄れてきている
3. 震災直後は、防災への備えなどを意識していなかったが、現在は意識している
4. 震災直後も現在も、防災などへの備えを特に意識していない
5. その他 ( )
6. わからない

問39 あなたは、市・区が保有する高齢者や障害者の情報を、見守りや防災・防犯のために、他の部局や自主防災・防犯組織といった関係団体と共有することを、どのようにお考えですか。(1つに○)

1. 見守りや防災・防犯のためであれば、積極的に個人情報共有・活用すべき
2. 見守りや防災・防犯のためであれば、必要最小限の範囲で個人情報共有・活用してもよい
3. 見守りや防災・防犯のためであっても、個人情報共有・活用しないほうがよい
4. わからない

問40 あなたは次の情報のうち、『ふだんの見守り活動』のためだとしても、他人に知られたくないものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                          |                     |
|--------------------------|---------------------|
| 1. 現住所、電話番号              | 11. 電話や電子メールなどの通信履歴 |
| 2. 会社、学校等の連絡先            | 12. 病歴、身体の障害など      |
| 3. 緊急時の親族等の連絡先           | 13. かかりつけ医、服薬、障害の程度 |
| 4. メールアドレス               | 14. 介護保険の要介護度       |
| 5. 出生地                   | 15. 福祉サービスの利用状況     |
| 6. 生年月日、年齢               | 16. 健康保険証の記号番号      |
| 7. 血液型                   | 17. その他 ( )         |
| 8. 顔写真などの画像              | 18. 特になし            |
| 9. 家族構成                  | 19. わからない           |
| 10. 年金、生活保護などの公的扶助の受給の有無 |                     |

問41 あなたは次の情報のうち、『防災・防犯などの緊急時に備える』ためであっても、他人に知られたくないものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                          |                     |
|--------------------------|---------------------|
| 1. 現住所、電話番号              | 11. 電話や電子メールなどの通信履歴 |
| 2. 会社、学校等の連絡先            | 12. 病歴、身体の障害など      |
| 3. 緊急時の親族等の連絡先           | 13. かかりつけ医、服薬、障害の程度 |
| 4. メールアドレス               | 14. 介護保険の要介護度       |
| 5. 出生地                   | 15. 福祉サービスの利用状況     |
| 6. 生年月日、年齢               | 16. 健康保険証の記号番号      |
| 7. 血液型                   | 17. その他( )          |
| 8. 顔写真などの画像              | 18. 特にない            |
| 9. 家族構成                  | 19. わからない           |
| 10. 年金、生活保護などの公的扶助の受給の有無 |                     |

### 【今後の地域福祉の推進についておたずねします】

問42 今後、地域福祉を推進するために、市民が取り組むべきこととして、あなたはどのようなことが重要とお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

- |   |
|---|
| 1. 住民同士が自ら地域課題の把握やその解決方法を探るための話し合いの機会をつくること |
| 2. 地域の課題や問題に主体的に取り組むボランティアや地域で活動する人を増やすこと   |
| 3. 地域での交流などを通して、住民同士の助け合いの意識を向上させること        |
| 4. 地域で困っていることや自分ができることを知らせる情報が集まる場をつくること    |
| 5. 家族以外の人で、身近に困りごとなどを相談できる人を増やすこと           |
| 6. その他( )                                   |
| 7. 特に取り組むべきことはない                            |

問43 今後、地域福祉を推進するために、行政が取り組むべきこととして、あなたはどのようなことが重要とお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

- |  |
|--|
| 1. 市民への意識調査や団体アンケート、聞き取りなどによる地域課題やニーズの把握 |
| 2. 行政からの一元的な情報提供、相談の場づくり                 |
| 3. ボランティアや地域で活動する地域福祉を担う人材の育成            |
| 4. 福祉サービスを適切に利用することができるような評価や内容の情報開示     |
| 5. サービスが利用できない、結びつかない人への対応の充実            |
| 6. ワークショップや地域交流会などによる地域の課題等を共有する場・機会の提供  |
| 7. 地域の自主的活動と行政サービスの連携強化                  |
| 8. その他( )                                |

問44 今後、地域福祉を推進するために、行政が開催する講座としてどのような内容の講座が必要とお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 地域デビューなど地域活動に参加するきっかけが学べる講座
2. ワークショップやKJ法※など会議の方法や進め方が学べる講座
3. 地域住民が参加したくなるような広報について学べる講座
4. アンケート調査や聞き取り調査などさまざまな調査技術が学べる講座
5. 支え合い活動や助け合い活動を進めるためのノウハウ・ヒントが学べる講座
6. 活動の中心となるリーダーとして身につけるべきことが学べる講座
7. 障害者が困っていることを疑似体験を通して学べる講座
8. 先進的な取り組み事例が学べる講座
9. その他 ( )
10. 特になし

※KJ法：データをカードに記述し、カードをグループごとにまとめて図解し、情報や課題を整理していく手法

問45 川崎市では、超高齢社会の到来を見据えて、「地域包括ケアシステム」の構築を進めています。あなたの「地域包括ケアシステム」の理解度や行動について、あてはまるものをお答えください。

1. 地域包括ケアシステムのことや、そのために自分が何をすればよいかを知っていて、具体的に行動している
2. 地域包括ケアシステムのことや、そのために自分が何をすればよいかは知っているが、具体的に行動していない
3. 地域包括ケアシステムの内容はおおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいかわからない
4. 地域包括ケアシステムは、名称を聞いたことがあるが内容は知らない
5. 地域包括ケアシステムを聞いたことがない

(→問 45-1 へ進む)

※「地域包括ケアシステム」とは…

誰もが住み慣れた地域や自らが望む場で安心して暮らし続けるため、住まい、医療、介護、予防、福祉・生活支援が切れ目なく、一体的に提供される仕組みと地域づくりの取組のことです。この取組を進めるには、市民や事業者、地域・ボランティア団体、行政など、地域全体でそれぞれが適切な役割分担により、取り組むことが大切です。



## 第5回川崎市地域福祉実態調査 結果概要（麻生区版）

---

令和2年3月発行

発行 川崎市

編集 川崎市健康福祉局地域包括ケア推進室

〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地

TEL 044-200-2626（直通） FAX 044-200-3926

E-mail 40keasui@city.kawasaki.jp

---

